塾教育リポート

タイプ別・事例別による塾紹介

103の事例

学習塾とは何か？

先駆的で即応性に富み、
多様で柔軟性を伴った、
民間の教育機関である。
このことを実証する書である。

２００１年版

塾教育研究会（JKK）

序言・「塾教育レポート」改訂版の刊行にあたって

わたしたち**塾教育研究会**（ＪＫＫ）は、１９８０年代半ばに中曽根内閣が組織した臨時教育審議会が教育改革への活動を始めたことを契機に、私教育（民間教育）に携わる者からの教育に対する意思表示をするために、首都圏の塾長を中心として結成された任意の教育を考える団体です。１５年ほど前のバブル景気へ突入する寸前の時期で、ジャパン・アズ・ナンバーワンの時代でした。乱塾時代を経て飽塾時代といわれ、子ども人口も年々増加し受験競争が激化し、景気の好調と相俟って私学志向（中学受験）が急速に広まっていくころでした。しかしながら、他方において、豊かさからくる病理と教育システムの疲労とが顕著になり、学校現場においては、いじめやそれに伴う自殺、校内暴力、高校中退等が増加し、教育の危機が声高に叫ばれていました（不登校児はまだそれほど多くはなく、学級崩壊はまだ問題になっていませんでした）。

このような公教育の危機的状況の中で、わたしたち学習塾の有している教育における多様性、柔軟性、先駆性、即応性を内外に認識しもらい、私教育と公教育との連携の下に子どもたちのためのよりよい教育環境を築きあげていくべきだとの提言を臨教審に対して行いました。そのための裏付けとなる資料として**「『塾教育リポート』～タイプ別による塾教育紹介～」**という冊子を作成したのです。この資料に対する反応はわれわれの予想をはるかに越えて、臨教審から公聴会に呼ばれたり、参議院の文教委員会から資料提出の要請を受けたり、一部のマスコミの取り上げるところとなりました。その甲斐あってか、８７年１月２３日発表の臨教審の「審議経過の概要」（その４）では、これまでの進学塾と補習塾という学習塾を二分法で見る姿勢をがらりと変えて、「主として地域における塾で構成する団体（注：塾教育研究会を指す）からのヒアリングによると、塾にはいろいろな種類の塾があり」、「学習塾は、しばしば特別な受験指導を行う『進学塾』と学校での授業についていけない学力不振児のための『補習塾』とに２大別され、後者は比較的好ましいもの、前者はあまり好ましくないものという先入観で見られがちであるが、このような２大別はかえって実態の正確で、きめ細かい認識を妨げる恐れがある」となっていて、従来の学習塾観を一新するようになりました。

あれから１５年。しかし、この１５年はベルリンの壁、そしてソ連のまさかの崩壊、インターネットを中心とする急速な情報化時代、経済のグローバル化の波、そして日本経済の破綻と少子高齢化の到来といった、これまでとは異なる社会を出現させ未だ進行中です。このような大きな変化は当然教育の分野にも影響を及ぼし、いまや日本においては教育改革は政治の主要な課題となっていると言っても過言ではありません。このことは、当然に学習塾の在り方にも強い影響を与えます。それゆえに、わたしたちは、これらの社会の変化に対応するため塾教育のあり方を模索しなければなりません。そのためには、この波乱に満ちた経済、政治、社会、文化、教育等の過去の１５年を徹底的に検証する必要がありますが、とりあえずわたしたちが取り組むべきことはやはり学習塾の１５年でしょう。少子化と不況と教育改革の三つが直接的で且つ大きな変動の要因ですが、しかしながら世界的規模での経済の変動はもっと根本的な変動、すなわち、これま

での教育や学校の概念を変更させるような変動を迫っているように思われます。それはとりもなおさずこれまでの教育内容、教育方法、教育システムの変更を迫っていると言っていいでしょう。

こういう混沌とした状況の中で、わたしたちは、１５年振りに「『塾教育リポート』～タイプ別による塾教育紹介～」を改訂し「２００１年版」を刊行することにしました。その目的は、この１５年間に学習塾において何が変わり何が変わらなかったを検証し、これからの１５年の学習塾の可能性と限界を考えるための資料とするためです。それゆえに、本書が初期の目的を達成しているかどうかの最終的判断は読者にお任せするとしまして、刊行者たるわたしたちとしましては本書が現在の学習塾のありのままの姿を映し出しており、とても貴重な資料となると同時に貴重な証言となるのではといささかの自負の念を抱いております。

今回の改定版と旧版とをくらべてみますと、１５年という歳月が経過する中で大きく変化した面とほとんど変化していない面とがあることに気づかされます。先ず、最も変化の著しかった項目が、指導法による類別の中の個別指導（個人指導を含む）の増加です。一斉指導型で且つクラス人数も多いのが主流であった１５年前とは随分と異なります。少子化の影響も大きいでしょうが、価値観の多様化、それに基づく個性化の進展がそれを加速させたともいえるでしょう。

次に目につくのが、新しいタイプの塾の出現です。サポート校やインターネットスクール、それにフリースクールやホームスクーリングと言った形態は、旧版当時は見当たりませんでした。これは、不登校児が１３万人強にまで達していることと密接な関係があると思われますが、さらに、このことは学びの場を学校以外に求めることへと繋がっていくように思われます。

さらに、変化の著しいのがスパルタ式指導型塾の消滅です。以前は畳に正座して勉強する塾や、木刀を教師が持って授業をするとか、宿題をやってこなかったら教室に入れないとか、体罰まがいの行為を行うといった光景も見うけられましたが、このようなやり方の塾は生徒にも親にも敬遠されて、ほぼ全滅しました。これは、塾に居場所としての機能を求める流れと連動しています。

なお、情報化時代を迎えて、教育機器がものすごい勢いで進展を遂げ、パソコンの活用は不可欠となり、インターネットや衛星放送を活用する塾も出て来ており、増大の一途を辿るでしょう。

他方、以前と変化していないのが、小規模で地域密着型の塾の塾長たちが抱いている教育へのこだわりです。塾生一人一人や父母たちと密度の濃い接触を保ち、また、自分の持つ一定の理念を実現しようとする真摯な姿勢です。ここに塾が持っている多様性の根拠があるといえましょう。

教育改革は学校の多様化を促し、コミュニティスクールやチャータースクールと言った新しい学校の構想も持ち上がっています。また、「新しい学力観」が提唱され、教育の中身の変更も迫られています。こういう状況の中でわたしたち学習塾はどう対応していったらよいのか、これまでのような学校の補完的機能だけでいいのか、新しい独自の機能を創出できるのか、と言った課題に取り組む時期に来ています。わたしたちＪＫＫはこれからも、子どもたちを愛し教育の未来を切り開こうと決意されている皆さんとともに、この課題を追求していきたいと思っています。

２００１年１０月　塾教育研究会（ＪＫＫ）　代表　皆　倉　宣　之

教育研究会設立趣意書

今日、各地で広範に受け入れられている学習塾は、子どもたちの学習場として独自の役割を担い、その教育を全うすべく努力を重ねています。しかし、「受験戦争」を激化させ、公教育を乱すとして、学習塾の存在を否定する見方も根強く、学習塾の社会的評価には、まだまだ不安定なものがあります。塾教育者はカを合わせて研究し、教育力量を高め、学習塾に対する様々な誤解を一つ一つときほぐしながら、広く社会に貢献していかなければなりません。

塾教育研究会は、塾教育に携わる者の立場から、塾教育の研究を推し進め、塾教育の実践に基づいて、子どもたちのために、学校、地域社会、行政、マスコミ等を含めた教育関係者に対する働きかけを行う目的で設立されました。

営利本位で学習塾に携わることは、本来の塾の教育をゆがめ、教育の冒涜に通じます。このような傾向を増長させないために、塾教育の真の意義に立脚した塾教育者が、学習塾に対する正しい認識を広めていくことが大切です。そして、望ましい教育を巡る教育改革の課題に対しても、積極的な存在となる必要があると思います。

塾の教育者は、日夜子どもたちと接しながら、学校教育、社会教育、家庭教育の各分野と手を携えて、子どもたちの豊かな心を育んでいきたいと考えています。すべての教育者と共に、子どもたちに深い愛情を注ぎ、子どもたちの幸福を願って教育にあたる決意を、なお一層強めています。

塾教育研究会は、塾教育の発展を通して、わが国の教育と平和な社会に寄与したいと念願します。そのために、活発に意見を交換しあい、より充実した塾教育を求めて歩んでいきたいと思います。良心的な塾の諸団体、及び塾の教育者の力も得て、塾教育者の英知を集め、たゆまぬ努力を重ねていきたいと思います。

昭和61年2月

塾教育研究会

目　次

(1)　生徒のタイプによる類別

1.　学力不振児対策型　11
2.　問題児指導型　12
3.　不登校児指導型　12
4.　障害児指導型　12
（ア）　個別指導型
（イ）　交流指導型
5.　幼児早期教育指導型　16
6.　高校中退者指導型　17
7.　男女別指導型　17
8.　一般児指導型　17
9.　帰国子女指導型　19
10.　成人生涯教育指導型　19
11.　同一高校指導型　21
12.　その他　21

(2)　クラス形態による類別

1.　個人指導型（マンツーマン）24
2.　グループ指導型（２－５人くらい）24
3.　グループ一斉指導型（２－５人くらい）24
4.　少人数クラス型（１０人前後　）27
5.　中人数クラス型（１５－３０人くらい）27
6.　大人数クラス型（３０人以上）28
7.　同一学年クラス型　28
8.　異年齢異学年クラス型　28
9.　クラスレッスン・個人レッスン併用型　29
10.　個別指導(機器等利用型)　29

(3)　総生徒数による類別

1.　ミニ塾型（５０人未満）　31
2.　小規模（５０－１００人）　31
3.　中規模（１０１－５００人）　31

4.　大規模（５０１－１０００人）　35
5.　マンモス型（１００１人以上）　35
6.　その他 35

(4)　教師による類別

1.　志向教員型　36
2.　職教員指導型　38
3.　元学校教員指導型　38
4.　職業変更型　38
5.　卒業生指導型　40
6.　学生アルバイト指導型　40
7.　現役教師指導型　40
8.　主婦指導型　40
9.　民間人活用型　40
10.　その他　40

(5)　指導理念による類別

1.　生活指導型　42
2.　しつけ・礼儀作法型　42
3.　創意工夫型　43
4.　人間教育型　45
5.　啓蒙型　48
6.　教育理念型　49
7.　自由無規則型　57
8.　公教育協力型　59
9.　公教育否定型　59
10.　入塾条件確認型　59
11.　自主学習支援型　59
12.　共感能力強化型　61
13.　得意科目育成型　61

(6)　指導内容による類別

1.　総合科（５科）指導型　63
2.　単科指導専門塾　64

A.　「英語」教室型
B.　「算数・数学」教室型
C.　「理科（実験）」教室型
D.　「国語」・「作文」・「論文」教室型
E.　万葉集教室型
F.　パソコン教室型
G.　ピアノ教室型
H.　そろばん教室型
I.　習字教室型
J.　バレー教室型
3.　国立・私立中学高校受験指導型　69
4.　教科書中心指導型　71
5.　体験活動指導型　71
A.　工作教室型
B.　自然体験教室型
C.　社会見学教室型
D.　体験学習併用型
6.　遊び主体型　73
7.　資格試験取得対応型　74
A.　英検
B.　漢検
C.　数検
D.　パソコン検定
E.　看護系資格
8.　イベント型　77

(7)　指導方法による類別

1.　無学年型　79
A.　個別指導型
B.　一斉指導
2.　選択型　79
A.　教科選択型
B.　クラス選択型
C.　講座選択型

3.　課題解決型　80
4.　ＮＩＥ（教育に新聞を）導入型　83
5.　教えない教育型　83
6.　スパルタ式型　84
7.　イメージ学習型　84
8.　学力別クラス編成型８　4
9.　家庭学習支援型　84
10.　通信添削型　84
11.　合宿型・・・野外体験型（シーズン型．通年型）85
12.　家族的雰囲気型　85
13.　カウンセリング型　85
14.　寄宿舎型　85
15.　地域密着・教育相談型　86
16.　日曜教室活用型　87
17.　日曜テスト型　87
18.　テスト参加型　87
19.　テスト中心型　89
20.　保護者面談型　89
21.　成績序列型（毎回テストによるクラス編成。席順も成績順位で決める）89
22.　得意科目育成型　89
23.　志望校別クラス編成　89
24.　文武両道型　89
25.　創意工夫型　91

(8)　教材による類別

1.　電子機器活用型　93
A.　パソコン活用型
B.　ビデオ活用型
C.　レーザーディスク活用型
D.　ＤＶＤ活用型
2.　隔教育機器活用型　93
A.　ファックス活用型
B.　衛星放送活用型
C.　インターネット活用型

3. 教材活用型 98
A. 塾専用教材活用型
B. 市販教材活用型
C. 手作り教材活用型
D. カード．カルタ活用型
E. プリント．テスト活用型
F. 新聞記事活用型
G. 何でも活用型
H. 塾通信活用型
I. 教材自主開発型

(9) 入塾方法による類別

1. テスト選抜型 101
2. 仮入塾型 101
3. 全員受け入れ型 101
4. 面接型 101
5. 体験入塾型 102
6. 見学入塾型 102
7. 人物選抜型 102
8. 入塾説明．個別面談併用型 102
9. その他 102

(10) 経営方法による類別

1. 個人経営型 103
2. 法人経営型 104
3. 企業指導型（チェーン店型） 104
4. 企業提携型（フランチャイズ型） 104
5. 市町村型（公営型） 104
6. 無報酬型 105
7. ＮＰＯ型（特定非営利活動法人） 105
8. 海外で学習塾を経営する型 106

(11) その他・新しいタイプの塾の類別

1. フリースクール 106

2.　サポート校　107
3.　大検（大学入試検定試験）受験スクール　107
4.　カルチャースクール（生涯学習スクール）　107
5.　インターネットスクール　107
6.　ホームスクーリング　107
7.　メールコミュニケーション活用型学習塾　107
8.　海外留学支援　110
9.　健康を考える学習塾　110

(12)　番外編

1.　文教委員体験雑記　112
2.　ポスト学力崩壊　113
3.　２０余年の学習塾生活を振り返って　114
4.　生業と正業　116
5.　私塾人としての私　117
6.　塾経営の基本→見分ける知恵を！　117

☆　編集後記　119
☆　塾教育リポート寄稿者及び索引　120

(1) 生徒のタイプによる類別

1．学力不振児対策型

クラスのレベルについてゆけない、成績表で１や２の子供を個別的に指導する型。評価方法や採点基準をその子供に合わせて自信を持たせる。地道な努力と工夫によって着実に力をつけさせる型。

〔事例紹介〕

小中学生と高校生にとって、学校の勉強と成績、進級と進学は、決して小さな問題とは言えない。不登校生に限らず成績優秀な子でさえ、巨大な知的コンプレックスを抱えている場合も少なくない。

何をどうすれば、私たちは彼らの味方になれるのか。「俺の頭は悪くないんだ！」と知力への自信を回復し、「私も捨てたもんじゃなかった！」「生きててもいいのね…」と実存への確信を彼らが自力で獲得できる最善の方法は何か。

学校の先生から「君は偉い」とか「あなたはかけがえのない存在なのよ」といくら言葉で励まされても、塾の先生から「学ぶ喜び」をいくら教えられても、子どもたちの学業不安と実存不安は解消しない。子どもたちは学校のテストの点数が実際に上がり、高校や大学、大検に合格しなければ「世間に認められた」とは実感できない。実はこれが現実なのだ。

なぜか。一条校（学校教育法第一条に定められた学校）内部のテストの成績と、高校・大学の入試と大検以外、現代の日本を生きる子どもたちが存在証明でき、知的能力を社会的・法的に自己確認できる制度を、私たち大人が用意してこなかったからである。（残念なことに、子どもたちのこうした勉強での苦しみを御理解いただける教育関係者は、まことに少ないといってよい）

そこで私は、最短期間に最小努力で最大効果をあげる学習援助の技法を開発することが子どもたちの一番の力になると考え、研究を続けてきた。その成果の一つが 1998 年秋に朝日新聞で大きく紹介された拙著『英語長文読解　あなたのためのルウレ方式』（メディアファクトリー刊）なのだが、もう一点、研究開発の過程で次のような確信を得た。

「数学でも英語でも、勉強はどこからでも何歳からでも割り込める。勉強が積み上がるというのは誤解であり幻想である。一点突破・全面展開の割り込み可能な教授法が、どの科目のどの単元にも必ず存在する。」

学習援助の仕事を続けて２０年以上になるが、これまでの蓄積を「学習援助療法」という概念で総合できるのではないかと思うようになった。まずは塾の先生方と学校や児童相談所等に勤める臨床心理職の方々に向けて、一冊の本にまとめるのが間接的だが私にできる全国の子どもたちへの励ましになると考え、構想を練っている最中である。

（東京都目黒区・「toBe 学習援助室」本田哲也）

2．問題児指導型

問題のある子供を入塾させると評判も落ち.一般に塾運営が難しくなる。その危険を承知した上で体を張って指導をする型。様々な対策を講じて指導にあたっている。

〔事例紹介〕

特に学習態度や家庭環境及び児童生徒個人の状態について、行動に問題があると思われる子どもに、オリジナルなカリキュラムを提供し、募集をしているわけではない。ただ、学校や家庭等において行動や学習態度に問題ありと、思われている子どもであっても断ることはしていない。そのように思われている子に対して学習する機会を提供し、積極的にフォローしていきたいと思っている。問題行動がある子どもについては、もちろん塾だけで対応できるわけではない。しかし、縁があるならば、学習塾という限られた範囲内ではあるが、その子の将来を真剣に考えアドバイスをし、いっしょに勉強をしていくというスタンスを取っている。具体的には、塾に月曜日から、土曜日まで毎日通うこと、宿題もその都度出されるので、それらの課題をやりとげること、そして、定期テスト前は日曜日・土曜日をフルに使い、試験勉強をしていく、というすこぶる単純なカリキュラムである。しかし、それでも毎日となると、かなりの意思の力が必要になる。これらの課題をやり遂げる中で、子どもたちに社会生活の規範となるものを伝えていけたらと願いながら、毎日の学習の合間などに飲酒・喫煙・麻薬・妊娠等様々な社会問題を話しあいつつ、授業をすすめている。

（川崎市・倫学舎・糸久邦子）

3．不登校児指導型

登校拒否児には、親も含めて一対一の指導をしなければならない。根気よく子供の心をつかんでゆくことが大切である。

学習面では、その子供の分かる学習内容に戻って自信をもたせる。

登校拒否児であっても塾に真剣に通ってくる例が多い。やがて学校に通うことができるまでになるケースもある。ネットワークを作っている塾もある。

〔事例紹介〕

もう一つの学校への挑戦

社会問題にまで発展している不登校生の教育問題は、塾だからできる、塾でしか解決できない教育問題と考えて、平成9年に“日本国際学園”としてスタートしました。中高一貫のサポート校は、日本でも数少ないと思います。

中等部（文部科学省SSP委託校として補助金をいただいております）は、週5日制で全教科の学習指導をして、学校に戻ることが出来る力（学習面、生活面など）を育成することを目標とし

ています。毎週水曜日はフリースペースとして、とりわけ不足がちな体験的教育の指導日として特色があると思います。体育、音楽、料理、ハイキング、特徴ある施設の見学など盛りだくさんの体験学習が組まれています。多くはこのような時間に仲間とのコミュニケーションや外出する楽しみなどを習得します。

高等部は、中央学院大学中央高校の通信制課程に籍を置いて生徒を指導します。8 割は不登校生で 2 割は転入生です。週 5 日制で全日制と同じような科目を学習して単位を取得します。しかし、本来不登校生ですので、当学園に通うことすらままならない生徒たちです。担任・保護者・カウンセラー（当学園専属のカウンセラーがいます）たちが、毎日のように顔を突合せながら対応します。又、転入（中退）者のなかには、暴力的な生徒や一般的な非行の生徒が多く、日夜生徒の言動をチェックしながらの指導になります。塾生のなかにも、学力が低くて困るとか、先生の言うことに従わないとか、多々問題があると思いますが、きっと塾の先生たちでは想像もつかない生徒たち・・・です。時間がありましたら、どうぞご見学いただきたいと思います。

インターネットハイスクール＝iSchool というのがあります。これは、学習及びレポート提出はすべて、インターネットで対応するというものです。家に居ながら高卒資格が取得出来るので、全国に生徒の輪が広がっています。

本年 10 月より、日本語学院（外国人に日本語を教える施設）がスタートします。不登校生のどちらかというと引っ込み思案な子どもたちに自信と希望の持てる学園にするには、国際化を図ろうと考えたわけです。生徒から海外に出かけるのではなく、当学園に多くの国々の人たちに来てもらって、一緒に学ぶことにしたわけです。第一期生 30 名が海外からやって来て机を並べます。生活・風俗・習慣の異なった人たちが一緒に生活するのが真の国際化であると考えて挑戦します。

高 2 年生は全員フィリピン・セブ島でのワークキャンプ（貧しい人たちへのボランティア活動・1 週間）、高 3 ではオーストラリアへの研修旅行（1 週間）に出かけます。世界で貧しいといわれる国、先進国といわれる国を体験して、自分で考え判断出来る“自立”した人間の育成を目指しています。

現在 400 名ほどの学園生ですが、もっともっと専門的に指導することで救うことが出来る子どもたちがたくさんいます。今後も研究を重ねたいと思うと同時に、塾の皆さんにも加わっていただいて、全国の悩んでいる子どもたちのサポートに参加して欲しいと思います。

（千葉県柏市・日本学院・古井敏昭）

〔事例紹介〕

「童学広場」は、その塾名が塾としての基本方針を表しています。

「童（わらべ）」が「学び」、大人も「童心」にかえって「学び」を楽しめる、垣根のない「広場」のような環境を創り上げていきたいとの願いを込めて命名しました。

せめて、「学び」の世界だけでも差別なく、また素直に自分を表現できるような環境を創れない

ものかと考えてきた結果であり、現在はささやかながら実現しつつあると思います。

たとえば、初等部・中等部・一般と大まかに分けて、初等部はフレックス制で中等部は授業制と基本的な時間割は立ててありますが、塾生の自学については全くフリーにしてあります。一般の部については、大学生の就職対策や社会人の方の資格取得が中心になっていますが、各人と相談のうえ時間設定等をしています。

そのため、思わぬ塾生が誕生する事もあります。

のんちゃんという中学生がいます。

一年前の夏期講習中のある日、通り雨のあとに塾前の谷津をまたぐように鮮やかな虹が出ました。通りかかった車が一台、塾の前で停まると中から一組の家族が降りてきました。私達と同じように虹を見上げたのです。新しく引っ越す先を探している最中にたまたま通りかかったその家族、それがのんちゃん一家でした。

その後間もなくして、塾に再来したのんちゃん一家から聞いた話しでは、塾から小一時間ほどのところに住んでおり、小学校五年生のころから不登校になったあと中学校にも殆ど顔を出していないとのことでした。そして、「学びたいことを学んでください。その手伝いなら出来ますけど、遅れた分の教科知識を詰め込むのは、うちの趣旨ではないんです。」という話しをして、たのしい塾という選択肢もあることを示しました。結果は、童学広場はじめての不登校児受け入れとなったのです。

しばらくはどう接すれば良いのか悩みました。経験不足と知識不足で大変心もとなかったのですが、とても簡単で明白なことに気付きました。それは、彼女は生徒であり、私は教師であるということです。教師は、生徒が伸びるのを助けるのが本分であるなら、彼女のやる気が起きるように手伝うなり、彼女の自発的な考えや行動をフォローしていければ良いのではないかと。自分の台詞をすっかり忘れて、鼻息を荒くしていたことに恥かしさを感じました。人間であることに変わりはない、ということを改めて実感することが出来たのは、彼女との一年間があったからだと思います。

私自身学校に行く事が全てではないと考えていますし（それは生徒や保護者の意思がそうであるなら）、学校復帰を勧めることも逆効果だと思いました。それらもあって、その後ほぼ毎日塾に通うようになったのんちゃんは、補習の傍らで塾の手伝いもしてくれるようになりました。

そして、折角手伝ってくれるのなら将来にも生きるものを身につけてみよう、ということになりました。たんなるお手伝いさんでは、彼女の時間も経験も無駄に終わってしまいます。そこで、彼女とお母さんと相談の結果、秘書検定３級の取得を目標として日々の体験を活かしていくことになりました。私が日本秘書教育学会の会員であったこともきっかけになったと思います。指導内容は多岐にわたりました。仕事をする上での心構えや責任感についてから、報告・連絡・相談、礼法から接遇、事務用品の種類から使用法、スケジューリングに至るまで、とにかく社会人として必要なものは殆ど揃っています。

途中、一度不合格を経験しましたが、その事実からも逃げずあらためて挑戦することを決意してからののんちゃんの努力には並々ならぬものを感じました。そして、２１世紀を迎えた今年の６月、史上最年少で秘書検定３級に合格しました。

ほかにも、山ほどのお話しがあるのですが彼女自身にとって秘書検定を軸にしたこの一年は、決して無駄ではなかったと思います。すくなくとも、そう思いたいものです。

いま、のんちゃんは塾から近い中学校に通っています。どうして？

今年に入って間もなく、のんちゃん一家が塾へ歩いて通える所に引っ越したいということになり、７月には本当に塾から歩いて５分ほどのところにお家も完成し、今では学校がえりに元気な顔を見せてくれるようになりました。また、塾の卒業生から贈られた制服を着て、毎日充実した（幾分多忙な）中学校生活を送っているようです。先日は、連立方程式のテストや英単語のテストで１００点を取ったんだよ！と満面の笑顔で報告してくれたばかりです。

これからも、垣根のない広場のような環境を作り上げたいと考えています。

（千葉県・生涯学習塾「童学広場」・宮本政宏）

４．障害児指導型

障害のある子供の学力と生活力をつけるために、それぞれの状態に合わせて指導に取り組む。障害児自らの力で困難を乗り切ろうとする意欲と自信をもたせるために、特別の努力をする型。

非常に粘り強く指導にあたり、研究を欠くことはできない。親との意思疎通に心を砕き、相互が協力し合って子供を守り育てることが基本である。

（ア）　個別指導型

その子供の状態と特徴をとらえて、個別指導によって成果をあげようとする型。

〔事例紹介〕

高次脳機能障害（交通事故で新しい記憶がほとんど出来なくなる障害）を負った１８歳の高校生を、入院中から退院して２９歳になるまで学習援助した。言語能力のリハビリを目的として、英文読解を中心に１回２～４時間、週２回ペースで個別授業を行った。

前期の数年間は心身ともに目覚しい回復を示し、生徒父母と喜びを分かち合った。後期の数年間は、前期に到達した身体能力と言語能力がほぼ維持された。末期、徐々に生徒の言語能力が後退し始める。年齢も３０歳に近づき、こちらに手詰まり感と焦りが生じ始めたころ、塾の内外で奇妙な妄想を口にするようになり、来塾が突然中断された。

翌春「お蔭様で息子は貴塾で獲得した英語力のおかげで、有名語学学校に休まず通っている」といった内容の便りが親から届いた。

（東京都目黒区・「toBe 学習援助室」・本田哲也）

（イ）　交流指導型

一般の児童、生徒と共に勉学をしたり、生活をしたりしながら、生きる力をつけてゆこうとする型。

5．幼児早期教育指導型

平準化した授業を超えることで特に優れた能力を発見し、開発しようとする型。独自の教材、教具、方法をうたう。英会話、高度な数学なども扱う。

〔事例紹介〕

集中力・持続力が著しく低下している中学生達の幼年期の過ごし方を、それなりに追跡調査してみたところ、確実にその時期に問題があるという結果がほぼ得られました。

学力重視か創造力重視かが問題視され、日本の公教育が創造力重視、自ら生きる力を養う教育に方向転換をしようとしています。――二者択一するような問題では無いような気がするのですが―― 創造力重視の教育は、学齢に達する前、すなわち幼児期から始めなければ意味が無いとは言い切れませんが、その方向性を大人達が早く気づいて導いてやる必要性はあると思います。

学齢期に達したときは創造力・学力ともに同じ比重で高めていく必要があり、またそれが出来るような土台作りをしなければなりません。

幼児教育を実施して十数年、幼児のもつ潜在能力のあまりの豊かさに改めて驚嘆しています。

子供は産まれながらにして学習本能を備えています。考える事が大好きなのです。

ではいつの頃から考える事が嫌いな子どもたちになってしまうのでしょうか？

親も含めた大人の責任を痛感します。

小学高学年や中学生に「将来の夢」を問うてみたとき、あまりにも夢がないのに驚かされます。一応勉強が出来る一部の子どもたちは、金持ちになれる職業に就きたいと言うし、勉強で落伍者になりつつある者は、どうせ大した人生をおくれるわけでも無いのだからと自分の人生を人のせいにし、とんでもない方向で自己主張をしたがります。

教育改革を論じる前に、それを指導する立場にあるわれわれ大人の、そして親の教育の必要性をひしひしと感じます。それは自由社会の根幹をゆさぶることにも成り兼ねませんが、民間教育の立場にある私たちは、親ぐるみの教育もできる立場にあるのです。

特に幼児期の子供と親の教育が同時に出来れば、創造力豊かな将来に夢のもてる子どもたちの育成に関わることが出来るのです。

競争社会を造るための教育ではなく、創造性豊かな自ら生きるための教育は幼児期の子供を持つ親の教育から始めなければなりません。

自分で考え行動する事を創造性とか独創性とか言います。探究性は、人間だけではなくすべての生物が持っている性質です。人間であれば誰でも創造性が備わっていると言うわけです。

既存の知識や理論はすべて完全であるとは言えません。矛盾したり足りないところが必ずあるはずです。学んだものをそのまま取り入れるだけでは、既存の知識の足りないところに気づくことが出来ません。足りないところや矛盾したところは自分で考えていくしかないのです。

模倣もそのまま取り入れるのではなく、自分に合うように創意工夫をする事が必要であり、そこでも創造性が発揮されます。

一般的に大人（親や教育者）は、今現在自分自信が満足するような子供を要求し、成長段階でだんだん矯正し、創造力に発展すべき大切な芽をつみ取ってしまうきらいがあります。そして自分が想像だにしなかった全く親の意に反した子供に成長してしまってから嘆き悲しんでいては、親も割に合わないことになります。

少々危険な体験も、失敗の体験も、子供にとって得難い経験となって生き方をも学んでいくのです。

子供が幼い内に親は漠然とした夢を与え、将来に希望のもてる思考活動を与える場を与えてやることが大切です。大人になってからでは考え難いような「やわらかい脳」を子どもたちは生まれながらに持っているのです。

現在、幼児やその親たちと関わりながら、この時期の親との関わり方の重要性を改めて認識しております。幼稚園の集団教育の場も勿論大切ですが、こどもの個性に合わせた思考活動を柔軟に楽しく与えてあげる方法もあるのです。それは民間教育に関わる私たちの重要な役割であると認識しております。

（愛知県・ 善性館 ・ 山本チヨエ）

6．高校中退者指導型

7．男女別指導型

塾自体が男女の一方だけを扱う型と、クラス編成において、その一方だけを扱う型とがある。指導者の志向もあるが、親側の意向、子供の意向もある。同性のみ集う利点を追及した型。

8．一般児指導型

学校や家庭で特に過不足なく、過ごしており、着実に学力を定着させることが第一という生徒を扱っている型。

生徒の割合が最も高く、こうした一般生徒の指導にあたる塾が大半を占める。

〔事例紹介〕

概ね、一般児指導型といえるが、学力不振児や問題児、不登校児も指導したことがある。不登校児や学力不振児という分類がどの程度の児童生徒を対象にしている分類なのかわからないが、

10 年～15 年以上前の生徒数が多い時代は学力的に高校に行けない生徒を高校へ行けるまでの学力をつけ、中学の進路指導に逆らって高校進学をさせたということもあった。また、不登校児を扱う場合も特別に個人指導という形を取らず一般児と一緒の教室で学習させていた。いわゆる「いじめ」にあって学校に行けなくなっている場合、学校での人間関係を持ち込まなくて済むので生徒は安心して通ってくる。中３になって高校進学を考え、塾に通ってくるということが以前より増えている。毎年中３の中にそのような子がいるようになった

（千葉県船橋市・学伸館・平栗祥克）

〔事例紹介〕

「普通の子が危ない。」

帰国子女、障害者、問題行動児など、ある面特別視される生徒は良きにつけ、悪しきにつけ、手厚く面倒を見てもらえるが、「問題のない子どもたち」は、身近な大人の手をわずらわせないがために、気にかけてもらったり、指導されたりする時間が少ないように思われる。「普通の子」の中の見過ごされがちな才能を見つけ、その能力を伸ばす指導をし、応援する事によって、子どもたち一人ひとりに自信をつけさせ、人生を積極的に生きる人間に育てることが当塾の役目である。子どもたち一人ひとりを育てられなくなりつつある公教育にとってかわって、一人ひとりの子どもを「豊か」に育て、限りなく多くの人間が「豊か」な生活を営めるように、当塾を運営していきたい。

そのために具体的に行っていることは

①中間・期末テストでまわりの人をびっくりさせるような良い点をとらせ、自信につなげる。

テストの２週間前からは毎日塾に通わせ、演習と個別指導を繰り返す。この指導には塾の卒業生たちの手助けを得ている。

②小さな伸びを見過ごさずにほめる。

今までは宿題を全くやってこなかったのに、２問だけ手を付けてきたとき。１０問の小テストで今までは５点以上はとれなかったのに６点とったとき。学校の応援団で活躍したときいたとき。

③塾長と生徒との二者面談。

「好きなこと」や「夢」について語り合う。「夢」といえば、将来の職業を答えなければならないと思いこんでいる多くの生徒に対し、ゲームでも、アルバイトでも、車でもスポーツでも「自分が夢中になれること」が「夢」につながると説き、遊びも含め、遠慮せずにどんどん自分のやりたいことをやりなさい、と応援する。

④子どもがやる気を持ったときに、たくさん指導してやる。

やる気がない子に向かって、無理にやらせようとしてもいやがるだけで逆効果である。やる気のない子には、日頃の授業でやる気のない素振りを見せてもあまり注意したりせずに、小さな伸びをみつけてほめたり、一緒に笑ってやったりして、その子のやる気の芽が出てくるまでじっと待

つ。やる気が見られるようになったら補習を組んであげたり、特別に呼んであげたりして実力を蓄えさせ、自信につなげる。その意味ではテスト前２週間の補習、中３・２学期から１科目１００分授業、冬期講習から２月末の入試まで毎日続く受験対策補習は、多くの子どもたちのやる気と重なり、効果的である。

⑤基礎訓練の徹底

計算はいかに「速く」正確にできるかがポイントである。そのために計算スピードをアップさせるドリル演習を行っている。また、国語・英語はリズム良く音読できることがポイントであり、授業内外で音読を多く取り入れている。漢字は、各自に漢字能力検定の教本を持たせ、塾に来たときには必ず漢字の小テストをやって帰るようにしている。

（千葉県鎌ヶ谷市・日能進学教室・田中宏道）

９．帰国子女指導型

国語科や数学科等の教科指導に、帰国子女各々の事情に叶った積極性をもたせる型。各々が身につけた語学力等に対するその後のあり方にも留意することは、特に一般の学校に入った帰国子女に対して重要である。

帰国子女に対する教育が今後益々重要性を帯びてくる日本において、教育者側が、何の手も施さないようでは、折角の彼らの貴重な体験を無価値にするようなものであるから、塾側の姿勢に、もっとも多くのものを望まれてしかるべき時点にきているといえよう。

10．成人生涯教育指導型

〔事例紹介〕

①３０代の大学院生が他学部の大学院受験に十分な英文読解力アップを求めて来塾。

②４０代の台湾出身の女性が、看護学校受験に必要な学習援助を求めて来塾。週２回通って合格、準看に。翌年と翌々年に大検を受験して全科取得。その後、正看の資格が得られる看護学校合格をめざして受験勉強に取り組む。

③５０代の短大卒の主婦が「子育てを終え、臨床心理士になろうと決意した。四年制大学の社会人入学をめざしている。受験勉強を助けてほしい」と週１回、遠方から２時間半かけて来塾。

④６０代の美術大学女学生が「英語以外の単位は全部取れた。英語のみ取得すれば卒業できるが、娘時代が戦時中だったので、英語のエの字もわからない。どうか力を貸してほしい」と週１回、遠方から来塾。

⑤６０代の家庭塾主宰歴３０余年の女性が「新聞で知り、あなたの本を読んで感動した。英文読解の教え方を基礎から教わりたい」と月１回、遠方から来塾。

（東京都目黒区・「toBe 学習援助室」・本田哲也）

〔事例紹介〕

「50歳からの英会話サロン」は一九九六年十月にスタートしました。当初は、地域の学習塾として、地域への還元「メセナ」を考えての出発でした。体調を悪くした方々への福祉に対して、健康な方々に対してのアプローチの一つとして位置付けました。生徒募集に関しては、地域のミニコミ誌が、英会話サロンをボランティア事業としてみていただき、無料で掲載してくれました。その結果、幸いにも四十名近くの人数でスタートすることができました。教える教師は、もともと塾で教えていた講師と、新たに募集した英語専門の日本人講師によって構成することにしました。クラスは、入門の入門、入門、基礎、初級、中級に分け、中級以外は本人が授業見学の上決定することにしました。月謝は、週一回一時間ずつで三千円とし、教材費は実費で年三千円程度、他の費用は一切いただかないことにしました。今年の十月で、六年目に入りますが、公民館で学習していた方々にも参加していただけますようになり、現在では百三十名、二十九クラスの運営になっています。月謝は月一回クラスごとに外国人との会話も楽しめるようにということで、四千円になっています。休んだ場合は振替ができるようになっていますが、週二回学習したい方には、月謝面での工夫もしています。毎年二月には、一年の学習のまとめとして、「ファンパーティー」を開催し、英語劇をはじめとした、各クラスの英会話による催し物を実施しています。また併せて、中国語講座、古典講座を「文化フォーラム」として社会人向けに行っています。世界の文化としての英会話、アジアの文化としての中国語、日本の文化としての古典と、地域の文化の担い手として、地域の学習が活発できればと考えています。学習の可能性をいかに広げていけるかが今問われていると思います。

（東京都保谷市・武蔵野実践学園志学舎）

〔事例紹介〕

以前は学習者（生徒）の内発的動機を促そうと、５人から７人の同一学年少人数クラスで、一斉授業と個別対応を併用しながら、勉強が楽しくなる塾を実践していました。このとき、いつも気になっていたのは、楽しい授業のときは勉強しても、楽しくない授業のときは学ぼうともしない学習者の存在でした。そして、「塾があるから勉強する」「その先生がいるから勉強する」という学習者の存在も気になりました。ですから、そういう学習者たちは塾に来ているときだけ勉強して、家ではほとんどしません。そんな塾依存の学習者たちを、私は「塾っ子」と呼んでいますが、「塾っ子」の生まれる背景には、親切にわかるように教えることを善しとする「教え好き教師」の存在があることに気がつき、「教える教育」そのものを問い直すようになって、「教えない教育」を実現可能にする教材作りに着手したのが２１年前のことでした。

教えられることで、学びが受動的になってしまった学習者を能動的学習者にするためには、学ぶものを自分で決めて、自分の課題がどこにあるか、自分でわかる教材が必要だと思ったのです。このことが実現可能な教材の開発には、１０年の期間を要しました。しかし、教材（以下、らくだ教材と呼ぶ）ができてみると、「教えない教育」には教材だけでなくコーディネーターの存在が

必要不可欠であることが見えてきました。そこで、更なる試みとして、１９９１年1月から、コーディネーター養成の講座をスタートさせた結果、現在ではこの１０年間で全国５０地域でらくだ教材が使われるようになっていきました。私が主宰するセルフラーニング研究所（スクールらくだ）で、これまでらくだ教材での学習を体験された方は、３歳から７８歳まで約２８００人に及んでいます。その内訳は幼児１割、大人１割、不登校１割、中高大で１割、残り小学生なのですが、学習者を「塾っ子」にしない方法として、週何回通塾しても、何科目学習しても、月謝が同じというシステムを考えました。このシステムのおかげで、塾に頼らず、自分で学べるようになればなるほど、塾に通う回数が減って、学習効果が上がるという現象が起きています。最近の出来事として、２００１年１０月からはモンゴルでもらくだ教材を使っての学習指導がはじまろうとしています。

（東京都文京区・セルフラーニング研究所・スクールらくだ・平井雷太）

11. 同一高校指導型

〔事例紹介〕

当塾では、本格的に高校生の教育を実践してすでに 13 年になります。小・中学生対象の指導では 25 年が経過します。現在では、全体の生徒数の約半分を高校生が占めるまでになりました。

高校部の設立動機は、中学校時代、数学の優秀だった生徒から「数学で赤点をとった」と相談されたことでした。高校の教科書を開いて、まず驚かされたことは、中学と高校の教科書の難易度の差でした。高校数学が難しすぎるのです。そこで一番「教科書を理解させる」ことを目的に、本格的に高校部の指導に取り組むことにしました。

高校部で一番難しいことは、教材作りです。教学の指導では、「難問をより易しく指導」をモットーに数学嫌いを作らない教材作りに毎日取り組んでおります。教材は、すべて学校の教科書に添ったオリジナル教材を毎日作ります。

13 年経過した現在、地域進学校である地元の２つの高校に絞り込み、学校別、教科書別、能力別クラス編成を行っております。一つの高校の約 30%の生徒が通い、毎年約 200 名の大学合格者を出しております。「志望大学に合格したよ！」生徒の喜んだ顔を頭に浮かべながら、「毎日が戦場の高校クラス」にスタッフ全員情熱を傾けております。

（茨城県下館市・志学塾・百目鬼晋）

12. その他

〔事例紹介〕

通常は、一般児指導型である。意識的にこれを原則化しているというよりは、自然とこのよう

になってしまう。それは、一般児というか普通の子どもというか、このような子ども達が大多数だからであろう。しかも、遅かれ早かれ受験ということを念頭に置いて塾通いをするのが通常であるから、いろいろな意味においてハンディを背負った子供たちは、どちらかというと塾へ近づかないし、塾の門を叩いたとしてもお荷物とされるケースが多い。

当塾では、子ども達が自ら塾で勉強したいというのであれば（つまり、親の強制でなければ）、全ての子どもを受け入れ入れることにしている。なぜなら、私的な教育機関であるとはいえ、できるだけどの子にも学力保障をしてあげたいと考えているからである。だから、ハンディのある子どもも受け入れようと努力をしている（しかしながらこの場合、もろもろの経営的ハンディを負うことが多い。いわゆる世間の風評という怪物が親の口からも子どもの口からも飛び出してくる。あそこの塾はできない子どもだけが通っている塾だとか、番長が通っている塾だ……とかいった具合に）。

そういうわけで、項目２のいわゆる問題児と言われる　①多動的で落ち着かない子どもや、②学校で非行的な生徒として煙たがれている生徒も、常に数人はいる。①の場合、他の塾を辞めさせられて当塾へくるケースが多い。確かに普通の一斉授業は成り立たない。そのまま続けていたら他の子どもたちが辞めてしまう。やはり個別に接してその子のペースになりきってみる。半年か１年たつと、かなりみんなとやれるようになる。

また、項目１の③学力不振の子どももいれば、項目３の④不登校児や、項目６の⑤高校中退者がいるときもある。さらに、項目４の障害者のうち聾唖の子どもを引きうけたこともあった（高校受験と短大受験のとき英語を中心に）。

これらの子ども達は、生徒のタイプによる類別と同時に、次の（２）のクラス形態による留別が重要な要素となる。すなわち、③や④は、個別的な接触で様子をみながら学力的に或いは対人的に他の生徒たちと一緒にやれる状態になれば、普通のクラスに戻すというやり方が一般的である。⑤は大検を受験する者がほとんであり、かつ在学中に獲得した単位数も異なるので、個別無学年というクラス形態となる。

（千葉県千葉市・京葉学舎・皆倉宣之）

〔事例紹介〕

「進学のための塾なのですか」「補習のための塾なのですか」「不登校児のための塾なのですか」・・・と質問されて困ることがあります。返事のしようがないからです。世の中には、類別しないでは話を切り出せない方もいらっしゃるようです。

私が知る限り、スポーツ刈り専門とか○○ヘアースタイル専門などというとこやさんもパーマ屋さんも聞いたことがありません。お客さんの希望に合わせて髪型を整えるところばかりです。

教えてやる＝教育という視点を捨て去り、塾生各自の希望に合わせて、学習のお手伝いをするのが学習塾だと思うのですが。

従って開進学園には様々な塾生が入ってきます。努力しても努力しても点数が取れない塾生も

いれば、全県あるいは全国でもトップクラスの塾生もいます。数ヵ月から6年も不登校を続けている塾生もいます。22 才で仕事を辞めて大学受験を目指す塾生もいれば、70 才を越して戦時中に受けられなかった英語を学ぶ塾生もいます。日本語がおぼつかない外国からの塾生も、さまざまな病気や障害を持つ塾生もいます。

ある時などは、A 高校をめぐって三者三様の塾生がいっしょに机を並べたこともありました。一人の塾生は、学校での人間関係がうまくいかず、中学校を全休しながらA高校を目指して学習していました。もう一人の塾生は、別の高校に合格したものの、不合格になったA高校にどうしても入学したいと浪人を自ら決めて通っていました。もう一人の塾生は、A 高校に一旦入学した後、関西の文化にふれながら寮生活を送りたいとA高校を中退し、再受験のための学習を続けたのでした。この3名はいずれもバスと電車を乗り継いで、片道1時間から1時間半もかけて毎日通塾していました。

人にはそれぞれ夢があります。学びたい夢があります。その夢の実現に少しでもお役に立てることができれば、塾の本望と言えます。また、夢の実現にかけた情熱からたくさんのことを学ばせていただけるのも、塾の冥利と言えます。

年齢や障害、学習歴など様々な違いを越えて、学ぶ喜びや分かる喜びをこれからも共有していきたいと思っています。

（千葉県千葉市・開進学園・二瓶　浩實）

〔事例紹介〕

(1) 生徒のタイプによる類別

親のニーズ、生徒たちのニーズで私の塾を分類するならば、不定形塾とあえて呼ばざるを得ない。真面目にやっているにもかかわらず、必ずしも納得のいく結果の出ない1割の生徒たち。勉学に関して何の苦労もなく、日本でも有数の難関高に当たり前のように入学し、いわゆる受験エリートを邁進する3割生徒たち。勉強が嫌いで、テスト前だけ異常にがんばる2割生徒たち。勉強も遊びもほどほどにこなす2割の生徒たち。残りの2割は、私立高を退学させられ、公立高中退を2回繰り返した後、土木作業員をしながら大検を目指してがんばる生徒、丸2年にわたる不登校の中で、高校に入りたいと決心し算数の計算から自分の意志で勉強を始めた生徒、三十歳を目前にして派遣社員に身を転じて大学生になり、英語に論文に精を出す生徒、現役の医師でアメリカの大学院を目指し論文を取り寄せ勉学する生徒、目・口・耳の不自由さをものともせず、公立高から目指す大学に推薦で入学した後も楽しく教養科目勉学する生徒……。私の集英塾はそんな塾だ。

（世田谷区・集英塾・幸路秀人）

(2) クラス形態による類別

1．個人指導型（マンツーマン）

個人指導によって、１人１人の状況や目的に対して適格に対応しようとする指導型。教材や教具の面、経験面、教師の相互協力面などにおいて、一般の家庭教師とは異なる指導ができる。

〔事例紹介〕

学習塾を標榜している以上、各教科の理解度を上げて、それなりの結果を出していく必要に迫られるのは当然のことである。個人個人の理解度やそのスピードが異なるのも当然のことである。よって、１対１の完全個人指導が全生徒の九十パーセント以上を占めている。複数対応といっても１対２、１対３止まりである。当然ながら、授業料は近隣の塾と比較すれば高くなるが、常識の範囲内であるし質の異なるものを比較することは意味がない。

（世田谷区・集英塾・幸路秀人）

2．グループ指導型（２－５人くらい）

〔事例紹介〕

「自学自習」型個別指導塾をめざして一斉授業型の塾から個別指導型の塾に切り換えて１４年目になる。今ではめずらしくもなくなった「自学自習」を標榜してスタートしたが、入塾してくる生徒がいきなり「自学自習」できる場合はほとんどない。

小学４年生から高校３年生まで在籍しているが、

①テキストを良く読むこと。

②調べてすぐ分かることは自分で調べること。

③どんな問題でも一度は自分の頭で考えること。

この３つだけは徹底させている。

しかし、前述した如く小・中・高生を問わずそうした学習習慣を既に身につけて入会してくる生徒は多くないので、そのためには様々な指導手順・システムを用意せざるを得ない。小学生・中学生・高校生と学年が進むにしたがって突き放す度合いも大きくしている。

勿論こうした学習に対する態度・姿勢・能力は生徒の学年とは比例しないから、小学生でも「自学・自習」に近いスタイルで勉強を進められる子もいれば、高校生でも英単語の覚え方から指導しなければならない子もいる。そうした多様な生徒に対応できるのは個別指導塾の利点の一つである。

利点の１つではあるが、１対複数の個別指導の場合友達同士での競争意識や一斉授業のように

教師がぐいぐい引っ張っていくという機能が働かないから学習の動機付け・学習の継続には腐心する。7，8年前までは高校生ともなると、「自分はこの参考書・問題集で勉強をしたい。ついては塾でその進度の管理と疑義が生じた場合の質問に答えてくれさえすればよい。」という生徒が年に数人はいたが、昨今皆無である。しかし、「学びからの逃走」などと評論家然としていたのでは当塾での指導は成立しない。生徒とどこまで格闘できるかが勝負の分かれ目という気概は他塾の塾長に負けまいと自戒しつつも、最終的には塾生が「世に言う知識なるものの大半は、テキストを良く読み辞書・事典の類があれば自分で学習できるものなのか」即ち「自学・自習」の方途を身につけ塾を去って行くーそういう姿を一人でも多く見たいと念じながら、民間教育の一端に今後も携わっていこうと考えている。

（静岡県沼津市・向学会・野木史朗）

〔事例紹介〕

当方の塾は埼玉県春日部市を中心に展開している、小規模な個別指導形態の学習塾です。講師と生徒は1対2までで、2人同時に教えるのでなく、一人ひとり別々に同時に2人教えるという形態です。　他の個別指導塾と大きく異なる点は、ただ単に学力を上げる・希望の学校に入れるというのではなく、ある意味で「人間形成」に寄与したいという理念のもとに運営している点です。このことを実現するために、規定の授業時間以外にも、自由に教室に出入りすることができるようになっています。不登校生も在籍しておりますので、一種のフリースクールと言ってもよいかもしれません。その際、教科指導は言うまでもなく、家庭・学校・友人関係・進路その他さまざまな悩み相談の場となるよう、アットホームな雰囲気・環境づくりと、相談に応じる側のこちらの自己研鑽にも励んでいます(励んでいるつもり)。

教科指導はできるだけ自分の力で問題に向かうよう指導し、自主性・主体性を育んでいます。大学受験の浪人生・社会人もいますので、真剣に自学自習する後ろ姿は、下の代(中学生)の良い見本になっていると思われます。

また、学級崩壊が昨今よく問題になっていますが、「落ち着きのない生徒」が増えてきていますので、「いかにして落ち着かせるか」に全力で取り組んでいます。この部分はある意味で「心の教育」とも言うべきもので、ただ落ち着かせるのではなく、集中力・思考力・判断力の養成を重点的に行いながら、様々な心理学的な手法を使っています。ちなみに記憶することは基礎学力形成にとって大切なことですが、以上の力の養成を中心に据えないと、ただの詰め込みに留まってしまい、記憶容量がすぐに飽和状態になって、結果として勉強嫌いな子供を作ってしまうと思われます。このようにならないよう、細心の注意を払っています。

以上のような理念のもと、最終的には、生徒自身が、自分の将来へのビジョンを自ら形成する・あるいは社会とどう関っていくかという課題に、主体的に取り組めるような力をつけてもらえば

ということ願っています。

（埼玉県春日部市・個別指導普及協会・杉田秀夫）

〔事例紹介〕

４０人前後の同年齢の生徒がひとつの教室の中で教師から一方的に授業を受けさせられるスタイルを、明治の学制発布施行されて以来約１３０年間、教育の形として当然のものとして私たち日本人は思いこまされてきたのではないだろうか。そしてひとりの教師が目の前の４０人の生徒たちに語り指導したことをすべて従順にかれらが受け入れてくれ教師の思うように動いてくれるのが当然だという幻想が今も色濃く残っている。しかしその旧来の教育の形、指導のあり方は今変わりつつあるように思う。

私自身、塾を始めてから最初の１０数年間は同年齢の一斉指導の授業のスタイルを固持していた。理由は単純に学校の形に囚われていたからだった。しかしその間生徒たちとの関係に対して不自然で何かシックリいかない感じをもち続けていた。生徒のためとはいえ無理強いして授業を進ませ押し付けているという行為に嫌気が差していた。

そこで今から１０年程前から個人個別指導専門の塾に完全に切り替えた。私にとって一斉授業のときに感じていたわだかまりはほとんど消えた。それは次のような対応を生徒に対してするようになったからだ。

① 勉強する内容は自分で決める。決まらなければ相談して決める。自己決定が基本。
② 授業時間、回数も必要に応じて決定。
③ 参考書、教科書、コンピュータなどを最大限に活用し自力で理解することを目指す。
④ その上で質問は無制限に受け付ける。教師をうまく利用する。
⑤ 勉強は孤独な作業。友達とつるんで勉強する必要はない。
⑥ 何のために塾で勉強するのかの目的を明確にする。（入試や定期テストの対策・漢検や英検などの資格検定対策・勉強の仕方を学ぶなど），以上のことを生徒たちは入会時に一応了解納得し授業を受け始めることになる。そうすると個別指導の生徒たちはかつての一斉指導の生徒たちが少なからず持っていた親に強制されていやいや塾に来ているあるいは惰性で来ているという消極的な気持ちをほとんど感じさせない。因みに個別指導の授業料は一斉授業のそれの約３倍である。一斉授業には長所も多くあると思うが、私自身は個別指導の利点を生かしてこれからも塾を運営していくつもりである。

これからの日本の教育において授業のスタイルは普遍的なものはなく多様に存在するであろう。

（神奈川県逗子市・逗子アナザースクール・江川文英）

〔事例紹介〕

基本的に当学院は英語数学中心でしたが、今後国立大学において理科社会内容についてのウエ

イトが増すため今後は特に化学物理に対して指導をより強化するため現在その準備中。また相対評価ではなく絶対評価を実践するため英語、漢字、数学検定試験を行っています。

（千葉県船橋市・成央学院・杉山央）

3. グループ一斉指導型（２－５人くらい）

2 人～5 人位の生徒を 1 グループとして指導にあたる型。1 対 1 に見られがちな「甘え」を克服し、協力や競争も含めて学力の向上を目指す。

〔事例紹介〕

伸葉スクール（グループ会社含む）では、様々な形態の個人個別指導を実施しています。

（1）　1：1の個人指導

（2）　1：2の個人指導

（3）　1：8までの個別指導

（2）は学年が異なる場合も、教科が異なる場合もあります。

（3）　は教科は同一ですが、学年は異なる場合があります。自学自習方式に近似しています。

個人指導、個別指導には大きな問題点があると感じています。

個人指導、個別指導の特徴は、生徒（または親）が勉強したい教科、時間数、教師等々を選択できることです。やりたい教科を、来たい曜日に、好きな時間だけ、好きな先生と、好きな教材で、自分のペースで勉強できることです。個性化（本当は個人化では？）の時代に合っているためかかなり多くの学習塾で導入しているようです。しかし、これでいいのでしょうか？

ここに教育理念の入りこむ余地はありません。むしろ邪魔なくらいです。

個人指導、個別指導では個人別にシラバスを作成し、教材を選択し、カリキュラムを組み、個人のペースに合わせ個人別に指導できるという大きなメリットがあります。それが時代の趨勢とあっているためか生徒を集めることが出来るということで、伸葉スクールでも導入しました。また経営的には、固定費的であった人件費を変動費化できるというメリットもあります。

しかし、明確な教育理念のもとで運営されている集団指導と合い矛盾する部分もあります。

（東京都板橋区・伸葉スクール・嶋田　義一）

4. 少人数クラス型（１０人前後）

10 名前後の生徒を一グループとして指導にあたる型。クラスの生徒の力量や個性をつかみやすく、生徒も教師を身近に感じて勉学できる。少人数クラスをとる塾は極めて多い。

5. 中人数クラス型（１５－３０人くらい）

1クラス15人から30人程度の編成である。生徒の発言の場が確保され、かつ、先生の目の行き届いた指導ができる。生徒相互の協調性が期待できると共に、競争心もおこる。その点で教育効果を期待するクラス規模といえよう。

〔事例紹介〕

東静塾では一斉指導の授業を開設当初より行っている。一クラスの人数は、３人から２８人の間である。人数のばらつきについてはあまり根拠がない。教師は旧来型の板書中心の授業を進め、生徒には教師の質問に答えさせノートに書かせること、によって学習を進めていく。ほとんどオーソドックスな授業である。クラスの規模は、塾長の好みの問題であろうかと思う。個別指導のほうが効率がよいとする考えもあるだろうし、東静塾のように一斉指導の方がよいとする向きも多かろうと思う。ただ私の塾でも一斉指導以外に、居残りで個別指導をしたり、授業日以外に来させて個別に見る、というようなことはしているのである。しかし、個別指導だけで行おうとは考えていない。

（静岡県・東静郡・青木司郎）

6．大人数クラス型（３０人以上）

30人以上の規模を持つクラス型。勉学意欲に乏しい生徒には不向きだが、受験指導における学習能率を追及するのに適しているとされる。マイク利用の大人数クラスもある。

7．同一学年クラス型

〔事例紹介〕

学校がそうであるように、塾でも同一学年を一クラスにして指導しています。

ひとつには、同一の学校の塾生を教えるには、同一学年のほうが、指導内容において多岐に渡らずにすむことがあります。また、一人の講師で指導するには、教える人数の可能な範囲というのが、その教師の力量やタイプにより、おのずと決まってくると思いますが、そのなかで、最大限の人数を、と考えるのならば、同一学年、一斉という形態になると思います。新しい様々な形態が模索されていく中で、古いけれども同一学年、一斉という形態もなかなか味があると思われるのですが、今後は変化の波の中になくなる形態であるかもしれません。

（川崎市・倫学舎・糸久邦子）

8．異年齢異学年クラス型

〔事例紹介〕

現在塾には幼稚園年長から小学校６年生までが同じクラスで学習をしています。学年が異なることで、相互に学ぶことも多いように思われます。たとえば一年生が二年生の九九に

興味をもったり、四年生が六年生の教科書を読んでみたいと言い出したりという、同一学年には無いたくさんの刺激の中でそれぞれが学びあいを進めていると思います。小学生は学年の枠にとらわれずに自分の意欲で学習が進められるように教室の中にたくさんの刺激をちりばめておきたいと思い、異年齢異学年の中で学習を進めています。

（川崎市・倫学舎・糸久邦子）

９．クラスレッスン・個人レッスン併用型

〔事例紹介〕

十年前や二十年前に較べ、中学生に個人レッスンを希望する生徒が増えている。個人レッスンは、きめ細かく指導もでき、成績向上という成果も大きいが、反面受講料もかさみ、生徒の依頼心が強くなる危険性もある。すべての教科を個人レッスンにするのではなく、必要な科目だけに絞り、できるだけクラスレッスンと併用し、自主性を尊重し、生徒同士の交流も保つようにしている。

（大田区・杏村塾・松原秀典）

10．個別指導(機器等利用型)

〔事例紹介〕

当学習会では３年前から「伸栄スフィンクス」という個別指導の授業形式を取り入れ現在に至っている。実は、それ以前は、講師が１人ないし３人の生徒を指導する「マンツーマン指導」「三人制個別指導」を行ってきたが、講師管理と生徒のモチベーションの向上に限界を感じ、段階的にこれを「伸栄スフィンクス」に移行してきた。現在では、ごく一部を除いて大部分の生徒が「伸栄スフィンクス」を受講している。マンツーマンや三人制の個別指導にもそれなりの意義を感じないわけではないが、複数の講師、しかもその大多数が大学生講師を管理していくのは至難の技であった。言葉使い、服装、態度といった基本的な事柄から、各教科の指導法まですべて指導しなければならず、その上、各講師の労働観も多様で、塾としての一定の品質を維持するのは並大抵の努力では不可能と感じ、方向転換せざるを得なかったのが実情である。　「伸栄スフィンクス」は生徒１人ひとりのニーズ（教科･曜日･時間帯･指導内容などの選択）に合わせる点ではマンツーマンや三人制と同じであるが、講師と生徒の人数の比率は「１：１０～２０」くらいになるようにしている。その代わりに、教育社の Xs（キーズ）、学研のまなぶくんなどいわゆる学習用コンピュータ機器を導入して指導の補佐に使っている。また、「手取り足取り」の指導はせずに、

「自分でできることは自分でする」「理解した内容はそのままにせずに何度も反復トレーニングする」ことを指導の柱にしている。例えば、生徒がわからない部分があれば、直接、講師がそれを教えるのではなく、まなぶくんや辞書や参考書などを調べさせることにしている。

教科指導上の講師の役割は何かと考えたときに、実は、単純労働部分と頭脳労働部分があるのではないかと感じている。単純労働部分とは、誰が教えてもほとんど同じような結果になる部分であり、頭脳労働部分は経験や力量によって大きな差が生じる部分である。例えば、連立方程式の加減法を教えるなど指導の実務のそれ自体は単純労働であり、それに対して、例えば、連立方程式がわからない生徒に対して、どのように対処するかは頭脳労働に属するのではないかと思う。知識を単純に伝達するのは誰でも可能であるが、そこに判断を加え意志決定するのは一定の経験と研鑽が必要かと思う。もしそうなら、教師の力量によって仕事を分担した方が良いのではないかと考えたのが、「伸栄スフィンクス」を導入したもう１つの理由である。すべての講師が横一線に並ぶのではなく、講師の経験や力量によって縦の連携を保とうとするものである。

メーカーと同じように、教育の世界にあっても一定の品質と成果を保証すべきかと考えている。講師の意欲とか熱意とか研鑽とかのプロセスももちろん大切であるが、成果（もちろん、この成果は成績向上とか合格だけを言っているのではない）はもっと大切だと思う。高い成果を上げるために塾のシステムを常に見直ししたいと考えているが、まだまだ、目標にはほど遠いのが現状である。生徒とともに生涯、研鑽を積み重ねたいと考えている。

（浦安市・伸栄学習会・青沼隆）

(3) 総生徒数による類別

1．ミニ塾型（５０人未満）

塾長１人あるいは家族など数人で指導にあたっている塾。50 人に満たない生徒数で営まれている。塾長の人柄を慕って生徒が集まる点に大きな特徴がある。あえてこの規模を守るところもある。

〔事例紹介〕

約１０年前に塾の形態を一斉指導から完全に個別指導に切り替えてから、生徒の定員は５０人前後としている。それは全ての生徒を塾長の私が把握できる人数の限界だからである。そのことは塾の案内書に‘塾長が全ての生徒と接している＝塾長がひとりひとりの生徒を把握’とうたってあり、募集時における大事なセールスポイントのひとつとしている。子供との関わり（コミュニケーション）を大事にしたいという思いは塾の創設当初から変わってはいない。経営よりもその思いを優先してきた感がある。生徒たちのニーズをしっかり受け止めそして敏速に対応してあげる。彼らが納得し満足のいく授業や情報を提供しつづける。それが教育サービス業としての大事な役割であり、塾としての存在理由なのだと思う。そして的確な対応をするためには、塾長自身自己研鑽を積まなければならない。それができなければ子供たちは離れていく。それがワンマンの塾の宿命なのである。

（神奈川県逗子市・逗子アナザースクール・江川文英）

2．小規模（５０－１００人）

50 人前後の生徒から、200～300 人程度の規模のものを指す。組織だっていながら、塾＝塾長のイメージが出しやすい。

〔事例紹介〕

私の塾は、６年前よりファックス塾を主宰されているＦゼミの守岡誠一郎氏と業務提携し、国語と英語部門を担当している。こちらの担当する生徒は３０名弱で、こちらも１対１の完全個人指導である。私の塾生は、できるだけ私が直接担当することを開塾以来貫いているので、当然ながら人数の限界がある。ただし、私がいわゆる文系の科目を担当しているので、理系は２人の教師が担当する仕組みである。

（世田谷区・集英塾・幸路秀人）

3．中規模（１０１－５００人）

塾長が子供の様子をつかめる範囲では最大規模のもの。500 人前後がそれに当たる。生徒の層

の厚みを利点とする。

〔事例紹介〕

平成１３年９月で４４年目を数える調布学園の歩みは、類別表によれば「ミニ塾型」→「小規模型」→「中規模型」→「小規模型」→「ミニ塾型」となる。

これは別の見方をすれば、個人塾→分塾展開→分塾整理→個人塾への展開・回帰となり、昭和３０年代以降の塾の歴史の一側面を検証する意味で、「調布学園の歩み」を簡単に振り返ってみたい。

昭和３２年５月（１９５７）、大野由美子が国学院大学卒業（昭和３２年３月）後、中央区新富町の実家で個人指導の勉強会を始める。学校の勉強をみる補習が主体であったが、私立中学進学の希望者もおり、ピーク時には塾生７０～８０名を一人で指導していた。机や黒板も無く、子供たちは家庭用のテーブルを囲んで勉強する寺子屋型式の時代であった。

昭和３７年２月１５日（１９７０）、国学院大学の同窓の私と大野由美子が結婚する。結婚後、新富町の家庭塾をやめ、二人は新天地で学習塾を始める事を決意し、準備する。

昭和４０年１１月（１９６５）、両親の援助と諸準備を経て、昭和４０年１１月、東京都調布市国領町５－４９－１の現在地に木造平屋建ての塾舎を新築、「調布学園」として開塾する。１１月の入塾生３名のうち１名が翌春、国立学芸大学付属中学校小金井校に合格する。

昭和４１年４月～塾生１１名。昭和４３年４月～塾生８０名。昭和４６年４月～塾生１６２名。（１６２名の内訳は小１～２名、小２～７名、小３～５名、小４～１９名、小５～１８名、小６～１９名、中１～３４名、中２～３０名、中３～２８名）。

昭和４６年１０月（１９７１）、京王線高幡不動駅前の貸教室に高幡教室を開設。新規入塾生、約７０名。貸教室の為、専属の事務室なし。

昭和４８年１２月（１９７３）、京王線よみうりランド駅そばの新築ビル５Ｆに稲城教室を開設。入塾説明会に約８０名のご父母来る。新規入塾生約５０名（開設費用約５００万円）

昭和４９年１１月（１９７４）、京王線調布駅北口駅前の菊屋ビル７Ｆに調布駅前教室を開設。入塾説明会に約１２０名のご父母が集まる。新規入塾生約１００名。（開設費用約２０００万円）

昭和５０年３月（１９７５）、調布駅前教室、高幡教室、稲城教室、国領本校の４教室時代になる。塾生も小２～５名、小３～４名、小４～３９名、小５～８２名、小６～５４名、中１～７２名、中２～６０名、中３～６９名の合計３８５名となる。また職員も専任教師５名、事務職員１名、講師１５名、合計で２１名と増える。

昭和５３年３月（１８７８）、稲城教室の家主が倒産の為、同教室を閉鎖。同時に国領教室を事務局とし、両教室の生徒を調布学園駅前教室に吸収合併する。これより調布駅前教室と高幡教室の２教室時代となる。また、小４から中３までの塾生合計が５００名を超え、専任教師を４名新規採用する。

昭和５４年８月（１９７９）、高幡教室を駅前の京王ストア５Ｆに移す。・（開設費用約８００万

円)。高幡教室の塾生も２００名を超え、調布教室との合計が約６５０名から７００名近くのピークの時代になる。特に調布駅前教室は多摩センター方面からの電車通塾生もあり、１カ所で４００名以上の塾生が集まる。通塾生の学校数も６０校を超え、世田谷区、調布市、三鷹市、稲城市、多摩市、府中市、日野市、八王子市と広範な地域から塾生が集まり、職員も４０名近くになり、管理も大変になる。同時に、駅前に大手の進学教室が進出、乱塾時代から競合の時代となる。

昭和５６年１１月（１９８１)、この年、全国私塾連盟の統一テスト委員長を引き受け、平成１２年１２月の全塾連解散までの２０年間、全国統一テストを担当する。一方、調布学園では約９００万円かけ、月例テスト用の漢字コンピューターによる成績処理ソフトを開発する。この成績処理ソフトは改良を重ね、全塾連でも２０年間に亘り利用する。

この年、日能研の調布進出で小学生が大幅に減り始める。

昭和５７年１０月（１９８２)、調布駅東口駅前の新築ビル（高橋ビル）６Ｆに東口駅前教室を新設（開設費用約７００万円)。しかし、塾生は５３７名と漸減。天文教室の開設、クラス担任責任体制、カリキュラムの全面的見直しなどの改革を進める。

昭和５９年１０月（１９８４)、塾生４７７名と漸減傾向の為、駅前教室の撤退を真剣に考え始める。

昭和６０年１０月（１９８５)、仙川教室（自社物件)、めじろ台教室（借り教室）を新設。家賃の高い菊屋ビル（月６０万円）を１０月に返還する。これより５カ年計画で規模の縮小を決める。調布は高橋ビル（６０１号、６０２号）のみとする。塾生は調布東口駅前教室～２１１名、高幡～６６名、めじろ台～３７名、仙川～２８名の合計３４２名。大幅減は調布北口駅前教室の募集中止による。

平成２年４月（１９９０)、国領事務局兼自宅をビル（地上３階、４階屋上、地下１階）に新築する。その後、高幡教室（平成３年３月)、調布東口駅前教室（平成４年３月）を返還する。これで賃貸教室はすべて撤退した事になり、教室は自社物件の国領教室と仙川教室のみとなる。（調布学園の登記名称は株式会社進学教室調布学園）塾生１８７名。

平成７年４月（１９９５)、国領教室と仙川教室の２教室で塾生１０２名の小規模塾となる。長年苦楽を共にして来た先生方４名が講師として残っている。

平成９年７月（１９９７)、室長の退職により、仙川教室の募集を中止する。長い分塾時代を終え、国領教室のみとなる。

平成１３年９月（２００１)、現在、仙川教室は個人の保育園に賃貸し、調布学園は、国領教室のみの個人塾となり、原点に戻った事になる。

（東京都調布市・調布学園・佐藤勇治）

〔事例紹介〕

当塾では開塾３年目から「中規模塾」の範囲に収まる生徒数で運営している。
塾はある規模を超えて運営しようとすれば、他の業種と同様資本の論理を優先させて経営していかなければならない。私の感覚的な判断では、この地方では３００～４００人の間が分水嶺となる。その数値に入ったり入りそうになった時には迷ったこともあった。しかし、数年前から自分のわがままが効く範囲ということで気分的には「小規模塾」でやっている。

ただし、そのような主観的な思い込みとは別に、中規模で維持していくことも難しくなってきているのが現状である。

（静岡県・東静郡・青木司郎）

〔事例紹介〕

わたしは教員免許をとり学校教員になろうと思って帰郷した。北星学園男子高校に教育実習に行って，母校とのあまりに差に愕然となったし，私学についての認識も大きく誤っていたことも分かった。塾訓「教えるとは希望を語ること，学ぶとは誠実を心に刻み付けることである」というアラゴンの詩もこの高校で知ったことである。貧しい母子家庭で育った私には僻み根性が強い。だから，弱い者，貧しい者の味方でありたいというのが建塾の精神になっている。第１回目のチラシは「できない子集まれ」と書いた。初めの頃は，できるようになると「もう塾を辞めた方がいいんじゃないの？」と生徒に勧めたこともある。

JKK の類別表に照らして，簡単に塾を紹介すれば，対象は小４～中３の一般生徒対象で学年トップからかなり下位の生徒までを１クラス 20 名までの一斉指導でみる。生徒総数は 150 名程度で，ピーク時よりも４割方減っている。

教師は，原則専任主義だったが，現在は卒業生（大学生）も講師に雇っている。学校教育の内容から完全に自由になる立地にはないが，2002 年度以降は独自のカリキュラムを採用せざるを得ないと思っている。

５科指導。理数教育に特に力を入れている。理科では可能なかぎり実験や観察等の行う。資格試験は補習を組むなど支援し，自塾で実施している。小学生は全員無料で数検を受けさせ学習に励みとしている。漢検もやりたいところだがこちらの懐が続かない。景気が回復し，授業料を値上げできる態勢になればまだまだいろいろできると思うのだが…。

生徒は，自分の身内と同じだと思っているから，真剣に叱ることもある。生徒にせがまれて釣りに連れて行ったりしたこともあるが，受験が終わってから，スキーをはじめつきあいが長くなる生徒もいて面白いし，経済的には恵まれない塾経営者の救いでもある。中学までの「ゆとり」の影響で，高校進学後に学習の壁にあたる卒業生も多くなっていて，進路のこと教科選択のことなど相談に来る卒業生も多い。高校生は対象外だが，勉強部屋として便利に使っている者もいる。質問されても専門外はおいそれと答えられない場合もあるのでこちらもこっそり勉強しておくこともある。

生徒にとっては，先生は先生なのだ。

計算のできない子，漢字の書けない子など学力低下を顕著に感じており，社会の階級・階層の固定化を危惧している。最近の傾向として「先行馬有利」の状態で，かなり早い段階で生徒の学力差が固まってしまっているように思える。塾にとってつらいのは，来てくれないことには対応できないこと。明らかに手遅れの子や，途中で投げ出してしまう子に心が痛む。自塾では補習室という部屋を１部屋設けてあって，通常の授業日以外に理解不足の生徒の面倒を見ているが，呼び出し型が減って自主練型が増えている。２学期以降はほとんどの休日は塾を開けておいて自主練に来る生徒を受け入れている。テスト前に「家だと勉強ができないので今夜塾で徹夜勉強していいですか？」という生徒につきあったこともある。生徒は塾から学校へ登校して行った。そうちょくちょくあることではないからいいが，こちらの身体がもたない。今年も夏期講習中に塾で合宿させろという中３生がいたのがさすがに断った。そのかわり９月の連休での合宿を約束させられている。

小学生にはノートの取り方なども指導するが、中学から入った生徒との格差がなかなか埋まらない悩みもある。

中学生は家庭学習にコントロールを試みているがなかなか難しい面もある。昨年度から作文の課題を出し添削指導をはじめたが、こちらは比較的うまくいっていると思う。

理科の動植物など知らない子が多い。パソコンとプロジェクタを使った授業も考えているが、先立つものがない。

よく詰め込み型教育の批判を目にするが、私はそれは誤りだと思う。小・中学校は知識をどんどん詰め込み、規則を守ることや道徳をおしつけてよいと思う。独自性、個性というのはそういう基礎の上に花咲くのではないだろうか？社会も家庭も大人が子どもの顔色をうかがうような現状には到底我慢ができない。

（千葉県茂原市・Ｍｅｒｉｃ好学舎・金坂　嘉一）

４．大規模（５０１－１０００人）

文字通りの大規模塾。１千人以上の生徒が在籍し、一般に積極的な宣伝によって、広く知られる。たいがい、分教室を数多くもっている。

５．マンモス型（１００１人以上）

数千人から１万人を超える生徒をかかえて指導する型。良かれ悪しかれ、マスコミを賑わしているのはこの型が多い。したがって塾の代表とみなされやすいが、何万、何十万の中小塾を見ないがゆえに、木を見て森を見ぬことにならないかと懸念される。企業努力によるパワフルな量の力は、社会に信用の獲得に利するものがある。

６．その他

(4) 教師による類別

1．塾志向教員型

塾を天職ととらえて、初めから塾業界の仕事に当たっている教員型。その数は次第に増す傾向にある。

〔事例紹介〕

成央学院の特色を述べるにあたり、その前に私個人の歴史等々からお話しさせてもらいます。よく塾の先生たちの間で“学校と学習塾”について「学校と塾とは対等な立場」であるとか「塾は学校より下のものだ」等々よく議論を耳にします。個人的に云うと私はこの議論には一切加わったことがありません。どうして加わらないのか、この辺からお話しさせてもらいます。

私の父親は学校の教師でした。子供の頃からそれを見ていて、自分は将来教師になるんだろうなといつの頃からか思うようになり高校生にもなると「自分には教師しか選択の道はないだろう」、「自分が大人になってお金を稼ぐことが出来るのはこれしかない」とまで考えるようになり、当然のごとく教職を取るべく大学に進みました。しかし、その後随分子供であった自分も少々大人になり、冷静に学校教育というものを見たとき（そんな環境でしたので幸か不幸か他の人に比べ、よく見えました）、さまざまなこと（多くは書きませんが、教師を目指している者の意識の低さ、日教組のこと、極めて狭い世界であるということ等々）が次第に分かり始め、最も気になったことは“この世界（環境）では生徒一人一人に責任を持って指導は到底出来ない！”ということでした。そんなことで子供の頃からの目標もなくなり、精神的に非常に中途半端な状態だった頃、ある大手塾（あえてここではその名称は書きません）と出会いました。そこに就職し、いろいろな面で自分自身鍛えられたと思います。その塾には今でももちろん感謝の気持ちで一杯です。ただ、合格実績のための進路指導、成績上位の生徒に対して、色々な理由をつけてその気にさせ、レベル以上の学校を受験させる。上位生クラスのみ少人数で徹底的に面倒を見る。確かにこの方法では合格実績は出せるかもしれない。経営的には正しいことなのでしょう。しかし私自身は納得できず、こうなったら、自分で作るしかないと考え、大手塾を退職し平成元年に成央学院をスタートしました。

成央学院は上記でのことが根本となっています。当たり前のことですが“生徒一人一人の能力（個性）を最大限に伸ばし、本人が志望する進路に導く”これが当学院の設立の精神であり、存在する理由であると考えます。全てこの考えのもとの指導形態です。

私の考えが全ての人に対して正しいと思われることなど考えておりません。ただ私自身上記のように考え、これからも、その考えに従い、当学院を運営していきます。全国にあるさまざまな考えを持った塾長がその理念により、塾を創る。それでよい、色々あるからこそ塾なのだと、そ

れは今の日本において、ものすごく大切なことなのだと私は考えています。

（千葉県船橋市　成央学院　塾長・杉山　央）

〔事例紹介〕

われわれの塾では、指導する資格を大切に考えます。われわれの理念に賛成するだけではなく、実際にその理念に従って生きようとする意思と能力が求められると考えるからです。
実際は鶏鳴学園で学んだ少数の者しか教えておりません（その中には、一旦就職した後職業を変更してくる者もいます）。その結果、全体の規模も小さなものになります。

（東京都文京区・鶏鳴学園・中井　浩一）

〔事例紹介〕

スタートから塾を始めるつもりはなかった。中学又は高校の教師をやった後に、独自の教育を目指すつもりでいた。最終的には、漠然と塾を開くつもりではいた。

高校での教育実習中に、その計画が少し揺らいだ。勤務先＝学校ということに違和感を覚えた。しかし、一方、自分の道は教師だな、とも思えた。

子供が好きなのは知っていた。人が好きなのは知っていたと言ったほうがよい。だが、子供が好きだから教師になるというだけではまずいと思っている。それだけで教師になってはいけない。教師になる資質が必要だ。それは、どの生徒もいとおしく愛せるかということだ。そこから生徒が見える。生徒の声が聞こえる。生徒の声に共鳴できる。それが資質だと思っている。資質は天性に思えてならない。だから天職というのだと思い込んでいる。

大学を卒業して自宅の２階で生徒二人から始めた。その二人の一期生が父となり母となりその子供達が今塾生として通っている。あれから 24 年、塾一筋に歩んでいる。毎日、生徒が来るのを待ちわびている自分になんら変わりはない。

（裾野市・吉田塾・吉田久）

〔事例紹介〕

当塾の教師は、塾教師志向型と学生アルバイト指導型といえる。私は、大学を出て、教職浪人後、採用されずに自営業を開始、知り合いと始めた事業も軌道に乗る前に知り合いが亡くなるというアクシデントがあり、そのとき別の知り合いの家の一部で始めていた学習塾を発展させ、現在に至る。

現時点では５０名前後の生徒の指導で、私自身が１週間に一度も顔を合わさないということがないよう、高校生以外全学年の様々な教科を担当している。アルバイト学生も私の補助というより、１学年の１教科を全面的に任せるという方法で年間カリキュラム作成から定期テスト対策なども任せている。

（千葉県船橋市　学伸館　塾長・平栗祥克）

2．退職教員指導型

長く豊富な学校現場である経験を、定年退職後に生かして指導に当たっている型。

3．元学校教員指導型

事項の教育観に基づいて教育に当たる目的に立ち、学校から離れた教員が、情熱を傾けて指導する型。

4．職業変更型

他の職業から塾教師へと職業を変更した型。

教育に関係深い分野からの転身者と、教育に関係しない他の企業からの転身者とに大別できる。共通することは、従来の職を捨ててこの職についただけに、誰もが子供好きであり、教育に強い情熱や理念を有し、誇りをもって指導に当たっていることである。

社会の荒波をくぐってきた社会経験をもつだけに、子供や親の悩み、苦しみに共感できる素地を有している。（企業には就職しないが、種種の資格取得を目指して勉強中に方向転換し、塾教師になる場合も職業変更といえようか）

〔事例紹介〕

最近は大学を出てそのまま塾教師になるケースが増えているように思われるが、私が都庁の職員を辞めて塾でアルバイトをはじめた２０年ほど前は、高度経済成長の真っ只中であり、企業戦士が猛烈に頑張っていた時代であったからであろうか、塾で働くというのはマイナーというイメージが強かった。それゆえに、私自身が教育に関心があって塾での仕事を始めたわけではない。半年か１年ほどの時間稼ぎのつもりで週に２回ほど、近くの小人数クラスで授業を行っているわりと良心的な塾で教えはじめたのである。それゆえに、なぜ塾をやっているのかと質問されも、返答に困るのである。

職業としてなぜ塾か？もともと脱サラして塾を始めたわけでもないので（結果的には脱サラではあるが、塾を始めるために前職を辞したわけではない）、はたと困ってしまう。強いて答えを探せば、アルバイトのつもりが塾に嵌ってしまったといったと言うべきか。問題は、なぜ嵌ったかである。

わたしの心のどこかにある種の信念みたいなものがあり、それが前職の公務員の職を捨てることと繋がった。それは、自分の行為に責任が持てるかどうかという基準である。公務員が国民や地方の住民の公僕であるということは、国民や住民に対して責任を負うということであり、官僚の組織や上司に尽くすことではない。この基本的なこと（これは単なる倫理的な責任にとどまるのではなく、法的責任でもある）が遵守され得ないとわかったとき、無責任状態から脱出する決心をしたのである。そして、塾を経営するということは、全てにおいて自由である代わりに責任

も全て自己が負うということである。自営業というものの魅力に惹かれて塾に嵌ったのである。

初め英語を、そして国語を、そして社会をと教える科目は増えていったが（そこの塾長は理数系）、1月ほどしたとき異変が起きた。

丁度二学期の中間テストがある時期で（そのころはテストの時期も名前も知らなかった）、昨日初めて中3の公民を教えたのであるが、その公民のテストが今日あって、私が教えた箇所から問題がいっぱい出たといって、みんなに取り囲まれてしまったのである。こちらとしてはいまにして思うと、よくも塾で教えていながらテスト対策をしてやらなかったものだとある種の感慨を覚えるのであるが、とにかく生徒から国会と内閣の仕組みや関係がよくわからないというので、教科書抜きで憲法の成り立ちから統治行為までを人権の保障装置という観点から簡潔に2時間で（英語を潰して）説明したのであった。問題など1問も解かずに。まさに生徒にとっては一夜漬けであったろうが、それでもかなり得点できた風で気分が良さそうであった。それを機に生徒との距離がぐっと縮まったようで、いろいろと話かけてくるようになった。志望校のこと、成績のこと、勉強の仕方のこと、担任との関係がうまくいかないこと、家族のこと等々。それらが深まるにつれて、わたしも変わらざるを得なくなってきた。ひょとしたらこの子たちに社会を変える力が託せるかも知れない、という期待を感じるようになってきた。

このようにして初めての中3生を送り出したところで、2月にはもう2年生が次の3年生になってきて、いつのまにか新しい1年が始まってしまった。この1年で塾を続けるかどうかを決しようと決めたわけであるが、その時に決心させた子ども達の可能性に期待するという思いは、ますます強くなっているように思う。教育改革問題に首をつっこんでいるのも、このような思いがあるからである。

（千葉県千葉市・京葉学舎・皆倉宣之）

〔事例紹介〕

昭和42年から貿易商社マンとして足かけ10年勤務した後、学習塾に携わって約25年経過した。実に実業界に身を置いた期間の2倍半、4半世紀もの長い間、現在の仕事を続けたことになる。

私が初めて学習塾の仕事に係わった時に、いくつかの点で驚きというか戸惑いを感じたのを今でも鮮明に覚えている。1つは、まだサービスを提供していない段階での集金である。今月末日までに翌月の月謝を集金するというのは驚き以外のなにものでもなかった。私は輸出業務に約5年、輸入業務に5年近く携わったが、輸入品の国内販売方法は、物品納入後月末に手形をうけとる。ほとんどの場合4ヶ月の約束手形であり、現金化されない、つまり不渡りのリスクを常にかかえていたのである。それが当たり前と思っていた自分には、この学習塾業界が摩訶不思議な世界に思えた。大体代金先取りというのは銀行の利息と塾の月謝ぐらいであろう。

もう一点は、顧客である父母が「子供がお世話になっています」と頭を下げられるのには抵抗

を覚えた。あわてて「私の方こそお世話になっています」と父母以上に深く頭を下げ挨拶をしたがなかなか馴染めなかった。しかし数ケ月もしないうちにそれが当然と思うようになってしまった。朱に交われば何とかではないが初心は遠く忘れさられてしまった。最近では塾生の家庭に電話した時、母親が電話口にでたときは「いつもお世話になっています」と言う言葉が聞かれるが、父親がでたときはそうではないことが多い。そんな折「口のききかたも知らない礼儀知らずの親だ」と思ってしまう。実に不遜というか堕落したものである。

しかし何といっても最初の10年間の仕事と塾教師の仕事との決定的な違いは、前者がもの言わぬ物品を扱うのに対し、後者は熱き血潮が脈々と流れる人間相手という点である。この人間相手というのは、時にはストレスを与えてくれることもあるが、実にすばらしいことであると最近特に思えるようになった。

もう6年ほど前になるのであろうか、景子という小6の女の子がいた。多動児ではなかったがおしゃべりな女の子であった。授業中もお構いなくおしゃべりするので私にとっては目障りなお荷物塾生という意識でその子をとらえていた。ある日、私の国語の授業の時、テキストに「あかりと爆に」という詩があった。作者の妻が幼い二人の子供を残して死んでしまい、子供達の行く末を案じるという内容であるが、私が詩の背景を説明している時であった。そのやんちゃな生徒が下をむいたまま頭を上げようとしなかった。私はまた居眠りがはじまったのかと思ってその子の顔を覗き込んだ時、何と一筋の涙が頬を伝っておちているではないか。私は愕然とした。

今まで２０年間も子供達を教えてきたが、一面的にしか見ていなかった。いや全く子供達の心がみえていなかったのではないかという思いと同時に、こんな無垢で純真なハートを持つ子供達には教える方も全身全霊、真剣に関わっていかなければという身の引き締まる思いを持った。

明日を担う子供達は日本の宝である。その子供達が夢と希望を持って生き生きとした人生を歩んでいけるよう微力ながら力を尽くしたい。

そして子供達との一期一会を大切に日々研鑽していきたいと思っている。

（千葉県習志野市・修学舎・玉城邦夫）

〔事例紹介〕

８０年代中期というと塾バブルの時代であったが、オイルショック経験済みの脱サラ組の自分には「大きいことの問題点」が身にしみていた。そこで「地域密着塾」と「目の届く範囲内での手作りの塾」を方針に慣れぬ私塾経営が始まったのである。その後隣接地に進出してきた、M進研やK進学会といった、いわゆる中大手の進学塾の攻勢を切り抜け得たのは、この方針に従い、彼らの土俵で四つに組むことをあえて避けて、分をわきまえて対応したことの結果であったと思う。２塾はともに進出後４年程度で撤退したのだが、戦う以前に先方がかってに「ころんだ」勝負であったようにも思える。

（千葉県松戸市・ＡＩＭ学習セミナー・谷村志厚）

5．卒業生指導型

卒業生が後輩の指導に当たる型。助手的に使う場合もある。自ら手伝いに参加する卒業生をもっている塾は少なくない。

同じ塾に学んだという同窓生意識は無論のこと、生徒との年齢差があまりなく、同じ世代感覚を共有している点が、生徒に親近感と信頼感を与えている。また、同じ地域の小学校・中学校出身者という共通性、類似した生活体験などもあって、生徒の気安い相談相手となることができる。

6．学生アルバイト指導型

学生のアルバイトを使っている型。学生の若さと新鮮な情熱が生徒をひきつける面を評価。

7．現役教師指導型

私立小中高教師が、指導する塾。公立教師による指導も若干ある。塾での多様なカリキュラムの中で、水を得ている教師も少なくはない。

8．主婦指導型

主婦が、２０人前後の塾生を、自分の家で指導する型。英語塾や、フランチャイズ型、チェーン型を担うものが多く見られる。

9．民間人活用型

より現実に即した、生きた授業運営のために、民間からその道の経験者を招いて、指導をしてもらう型。

10．その他

〔事例紹介〕

私は、大学院終了後、教員になるべく教員免許を取得したもののそれを生かせる環境に身を置くことができなかった。理系の担当教員は、塾の設立以来、近所にある国立大学の大学院博士課程で数学を専攻する方に代々担当してもらっている。その方々のほとんどが現役の教員として大学で教鞭をとっていることは、私の喜びでもある。その中には、かつての教え子もいる。

（世田谷区・集英塾・幸路秀人）

(5) 指導理念による類別

1．生活指導型

勉学の面だけでなく、生活の基本に留意して、子供の成長を促す型。

学習指導が円滑に行われるようになり、子供の学力に与える影響が重大である。

2．しつけ・礼儀作法型

学習指導の他に、子供が身に付けるべき礼儀や作法を日常的に指導する型。

「言葉遣い」を始めとして、しかるべき指導が与えられていないという放任の時代を嘆く声は、よく耳にするところである。これを受けて塾側の積極的な教育目標に、躾、礼儀作法を取り入れているところは少なくない。

〔事例紹介〕

学習用具を忘れてくる生徒がいる。そして悪びれることなく「先生、テキスト忘れました」と言う。先生が何とかしてくれるという意識が言下にありありと伺える。特に他塾から移った生徒に多く、事実、他塾ではいつもプリントを用意してくれたそうで、生徒たちは当然の権利だと思っているよう。

その時一人の大人として無性に腹が立つことがある。

サービス業という観点に立てば、せっかく塾にきたのだからプリントぐらいコピーして勉強させてやるという考えもあるだろう。一方、しつけという立場からすれば甘やかすべきではないという考えもある。当塾では基本的には後者である。

何故なら、現代の子供たちが自立できないのは、大人があまりにもモノ、サービスを「与え過ぎている」からだと考えているからである。ここで塾経営者から私は地域社会の一人の大人になってしまう。初めての場合は注意を与えてプリントを用意してやることもなくはないが、二度目からは絶対にやらない。それは自分の責任であると教えてあとは放っておく。

近くの生徒は家に取りに帰ったり、遠い生徒はその時間教材なしで授業を受けたりさまざまである。その体験の中で子供なりに考えるのであろうが次回からはかなり自己管理ができるようになる。

その日一日の授業を無駄にさせても、以後学習に取り組む態度が変われば結果的に学習サービスの向上にもつながる。そして何よりも子どもの自立を促すことができるのである。

挨拶や呼ばれても返事のできない子どもも多くなってきた。学校も疲れたのか教師が教室を見回して出欠席のチェックをしている。これでは出欠をとられても即答できないのは当然である。当塾では返事するまで、聞こえるまで呼び続ける。挨拶を返さない生徒にも、いつもこちらから

声をかける。これらも子どもが気付いて自然にマナーを身につけてしまう。少し根気よくやれば以上のことは簡単に是正できる。

返事や挨拶を返さないのはこちら側に対して悪意があるわけではなく、単に身体がついていかないからである。ルールを守れないのも同じである。本来教育には「身体で覚える」という側面があるが、職人が弟子に知識技能を「仕込む」ことに異論をはさまぬ知識人が、教育現場での「仕込み教育」にはすぐにめくじらを立てる。つまり悪名高き管理教育を言い出すからである。これまた一面的な偏向教育観である。このような世論風潮に教育現場が負けているような気がする。

（広島市・EM 塾・高橋健吾）

〔事例紹介〕

当塾では、開塾以来現在まで 24 年間、畳とテーブルによる教室の形態をとっている。

塾は学校とは違うことを形から示していきたいと考えている。授業の始まりと終わりに正座・黙想があるが、正座をするのはその時だけで、それ以外の畳への座り方は自由である。正座は脳への刺激になり、まして身長を止めるといったことは全くないそうである。正座・黙想はあくまでも、“けじめをつける”ために行う。授業前、生徒達はどんなに騒いでいようと先生の「始めます」の一言で、各自がさっと正座をして黙想を始める。教室は一瞬にしてシーンとなる。終わる時も同様である。

生徒は、向かい合って座り黒板に対して正対していない。黒板を見てその説明を聞くためには顔を上げるだけでは不十分となり、自然と体ごと黒板に向けなければならない。これで、聞く時は、聞く姿勢ができあがる。これも授業の中における、聞く時は聞くという“けじめをつける”のに役立つ。当然、机も黒板に正対しておらず、黒板に対して縦に列を作っているため、全員のノートがよく見えるという利点もある。聞くべき時にこっそり写していたり、解いていたりはできない。また、理解が不十分でペンの進みが遅い生徒もすぐわかる。昔ながらの寺子屋の教室の形態の良さである。

学習面に強く影響を与える“けじめをつけること”の他に、幸せは与えられるのではなく作るものであること、どんな人間になるかは自分で選ぶものであること、結果以上に大事なことはその過程であること、“今”という時を生きるということ、苦しい事には逃げずにどっぷりつかること、己の可能性を信ずること、どんな夢でも持つこと、それが人間として大切なことであるということを当塾に通うことで学んでもらいたいと願っている。

最後に当塾では、“想い出づくり”をとても大切に考えている。

（裾野市・吉田塾・吉田久）

3. 創意工夫型

創意工夫によって既成の方法を乗り越え、生徒の勉学心を刺激したり、生徒の自覚を促す型。それぞれの塾創意工夫には、教育のあり方を示唆するものが多い。

〔事例紹介〕

当塾は、開塾24年になります。小学生は国算の2科または国算社理の4教科で小6は英語が必須となります。中学生は全学年とも英数国社理の五教科です。高校受験がメインですが、中学受験も行っています。指導形態は一斉授業が中心です。

指導教科については、教科書の内容だけでなく、身の回りの様々な事柄に興味を抱いて欲しいと言う願いを持っています。そのため、「せめて義務教育の基礎学習においては、偏りのない知識を身につけて欲しい」という思いから教科数が多くなっています。

しかし、生徒達には教科間の得手不得手がどうしても出てきます。その不得手部分をいかに理解させるかが塾の使命なのですが、簡単にはいかないから塾の存在があるのでしょう。

そこで、当塾では、ありきたりのことなのですが「基本的な内容は、確実にその場で覚えさせる」。そして、さらに発展した形として「教科間の枠にとらわれない授業をする」を授業の基本にしてきました。

「基本的な内容は、確実にその場で覚えさせる」については、暗記物ならば語呂合わせを作ってあげる。そして、繰り返し言わせてその場で覚えさせるようにしています。または、授業中いくつかの事柄を数分間で覚えてもらい、すぐに何人かに答えさせたり小テストをしたりしています。そして、小テストをした場合には、不合格者は必ず追試をし、居残って合格するまで繰り返しテストをするシステムにしています。この追試である程度のカバーはできます。

「教科間の枠にとらわれない授業をする」については、私の中に教科別という考えがあまりないので、異なる教科間を行ったり来たりする授業になってしまいます（数学は別ですが）。

当塾の授業では、数学以外の教科では他の教科の内容に話が飛ぶことが多く、そこで「教科」という枠を超えて、反復したり生徒に他の教科の興味を持つようにしています。

国語の科学的な論説文では、どうしても生物や地学・歴史や地理などの知識が必要となります。また、物語文でも言葉の意味・内容の知識が必要です。勿論、深い知識が無くても理解できるように文章は校正・推敲されてはいますが、やはり基本的な内容は身に付けていないと理解しずらくなります。

地理と歴史の関連も強いのですが、社会科でも時には地学の知識も必要となります。

例えば、理科の授業で「地球の地軸が傾いている為に、北極と南極は半年昼で半年は夜」と言うと、生徒から「夜で真っ暗なのにペンギンはどうやって餌をとって生きているの」と質問され、そこから緯度や氷雪気候の話、暗闇で生きている動物の話などに発展させるという具合にしています。

「疑似体験授業を展開する」というのは、それほど大げさなものではありません。

数学でも、文章題になるとイメージが湧かないのか理解できなくなってしまう生徒がいたりします。さらに、近頃の子は実体験や文章を読むことによる疑似体験が少ないせいか、イメージが湧かず、口頭で説明されてもなかなか理解できない子が多くなっています。そこで、なるべく実際の自分自身の体験を織り交ぜながら子供達に説明をするようにしています。

例えば、私の地域は人口海岸に面した造成地にもかかわらず、最近は潮干狩りに行った事のない小学生が増えています。そのような生徒達に「潮干狩り」を説明するのに国語辞典に書いてあるような説明をするよりも、道具の絵を書き、服装の説明をし、波の引いた後、取り残された貝が大慌てで逃げようとする様子を話す、と同時に貝の作りを説明したりして、興味を引き出し、より理解を増すようにしています。

授業以外では、時々社会科見学と称して、氷穴に行ったり茶摘に行ったり、300 年前富士山に降った雪の地下水を飲みに行ったり、体験学習のようなキャンプをしたりしています。生徒には、随分と好評なのですが、準備に時間がかかるのが難です。

当塾の行っていることは、他の塾とそれほど違いはないと思われます。ただ、教科の枠にあまりとらわれずに授業をしている点が違うかもしれません。

塾として各教科の内容を理解させることは最重要課題です。さらに、塾として、生徒と共有する基本的な知識を基に他の事柄に対する興味を持たせることによって、教科書以外の事象に対しても考えてもらえるようにしています。

（千葉県千葉市・教進セミナー・松浦　重雅）

4. 人間教育型

人の道、生き方を考え学ぶ型。

早朝に水をかぶったり、座禅をしたり、美化運動に参加するなどの行為を重んじて、人間としてどう生きるかの根本を問う型である。

〔事例紹介〕

教育が経済や政治や社会の動きと密接に関係している以上、それらの影響から免れることはできない。経済界は教育に企業に役立つ「人材」を要求するし、政治家は選挙の度に教育改革を唱える。不況が長引く今日では、ますます教育が社会にすぐに役立つことを要求されるようになる。はたしてこれは正しいことであろうか。

教育（特に義務教育）は誰のために、何のためにあるのだろうか。教育は国家のためにあるとする考えや、広く社会のためにあるとする考えもある。一つのことをどの切り口で切るかによって表現が異なるということもあるが、大原則は学ぶ主体である子どもたち本人のために教育はあると認識すべきである。それが結果として社会や国家のために繋がるとしても。なぜなら、子どもにとって学ぶことは生きることそのものであり、それは子ども一人一人が持っている個性に応

じて生きることであり、それは集団としてとらえることのできないものだからである。

このように考えると、教育を通じて子どもたちは何を獲得すべきなのであろうか。それは現代という時代をよりよく生きていくために必要な教養や知識を獲得することである。もっと具体的に言えば、成人した時に主権者としてふさわしい振るまいができるようになることである。たとえば、選挙のときにどの候補者にどのような基準で投票するのか、社会で日々起きる出来事にどのような態度をとるべきかといった選択を迫られたとき、自己の判断に自信をもって臨めるような人間であって欲しいと思う。そのためには、事実を直視すること、物事に疑問をもつこと、疑問を解明するために考えること（＝考える力。ここが勉強でなくてはならない）、そして解明した答えを発信すること（＝表現力）が大切である。このような力をつけてあげることを念頭において、新聞記事からテレビ、まんが、音楽等々、教科書以外のことを多く取り入れるよう心掛けている。

（千葉県千葉市・京葉学舎・皆倉宣之）

〔事例紹介〕

当塾は当初生徒にいつも尋ねることがある。「君たちの勉強は何のためにやるのか？」たいていが勉強が出来るようになりたいとか、志望校に合格したいとか、決まった答えを言うので、つきつめてやると、結局全員「自分のため」という結論に落ち着く。それ以外思いつかない。

これも子どもの責任ではなく、親や学校の先生が勉強させるときに「自分自身のためなんだから」と言うからである。それを聞くたび私は無性に腹が立つ。

学問する目的には、将来世の為人の為に役立てるという崇高な側面がある。現代の子どもはこの理念に一度も触れたことがないのである。だから当塾では「勉強は自己のためだけでなく、世の為人の為に役立てることである」と教える。ついでに「情けは人の為ならず」ということわざの意味も話してやる。頑張った生徒には本人の努力を褒めてやるだけでなく、この君の努力が、将来きっと世の中の人の役に立つだろうと言うこともある。すると一瞬にしろ子どもの目は輝くのである。

教え子にはすでに官僚や教師や警官になっている者もいる。彼らは少なくとも岡光ちゃんに憧れたり、公金にタカるさもしいことはすまい。子どもの成長期に、どこかで誰かが学問の公的な意味を叩き込んでやらなければ、大人になっても、勉強は結局「利己目的」の域を出ないであろう。

自己実現は良い。しかしそれは公（パブリック）の中における自己実現でなければ、ただのエゴ実現に過ぎない。だから安易に自己実現が素晴らしいことのようにまかり通る世論風潮に腹が立つのである。

塾教育は塾長の信念にかけていろいろなことができる。ある意味で世論を相手にした戦いの場であるというのが私の実感である。

（広島市・EM塾・高橋健吾）

〔事例紹介〕

様々な類別の中でも「指導理念による類別」、その中でも「教育理念型」として当学習塾を位置付けました。広範な地域にチェーン展開し、多様な生徒層を対象とする進学総合学習塾としての運営をしているだけに、「教育理念型」としての位置付けは少々奇異に写るかもしれません。

伸葉スクールは創立以来20年余りに渡り、「子供達に潜在している能力を引き出し、それを育て、自分自身で自分の行き方を考え創造していく力を養いたい」を教育理念に掲げ活動してきました。自主性の確立、自立（自律）を中心テーマに運営してきました。学習塾の全ての活動原理をそこにおき、シラバスの作成に始まり様々な講座の設計、附帯システム設定に到るまで取り組んできました。

例えば海外ホームステイや体験学習（農業体験等）等々を通じ、教室での教科学習とは異なる環境を用意し、教科学習とは違った面から自主性の確立、自立（自立）の機会を提供しています。

（東京都板橋区・伸葉スクール・嶋田　義一）

〔事例紹介〕

文武両道の塾をめざして

柔術が心身に及ぼす効果の偉大なる事を自ら体得しこれを教育に応用しようとして、講道館柔道を創設した嘉納師範の遺訓の中には次のような言葉がある。「柔道は心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は攻撃防御の練習によって身体精神を鍛錬修養し斯道の神髄を体得することである。そしてこれによって己を完成し世を補益するのが柔道修行の究極の目的である。」師範はさらにこれを要約し、「精力善用」「自他共栄」の二つの言葉で表現した。

さて、柔道のその後の発展は述べるまでもないが、ここで大切なことは、嘉納師範が志したものは柔道による教育であり、教育の中にこそ柔道の真価を求めたことである。

我が北辰館スクールが柔道場を併設した文武両道塾として創設された所以はここにある。

文武両道による教育が、具体的にどのような効果を上げているかを説明することは容易なことではないし、また、説明できるような形で効果をあげているとも残念ながら思われない。ただ人間教育とは心の問題だと思う。一生を振り返った時、そういえば、自分は若い時、文武両道塾でしごかれたな、という思いが残ればいいのではないか。知らず知らずに感化されているものこそ、本当に身についたものといえるのではないだろうか。柔道中心の報告で、学習の方には言及できなかったが、学習も人間教育のためと小生は考えている。成績を上げることも、入試に合格することも、それは結果の一つに過ぎない。学習と柔道に打ち込むことで人間を鍛えることが我が塾の目的であり、人間教育を学習と柔道の両面から行っているのである。勉強合宿や登山合宿、ハイキングなど様々なイベントも実施してきたが、これらはその目的を側面から補助するものとして位置付けている。今後、こうした文武両道塾がさらに一層社会的に求められるものとなっていくのかどうか。それは日本人がこれから一体何を目標として生きていこうとするのか、その社会的意識に左右されることになるだろう。第2次世界大戦後の日米同盟も半世紀を迎えた。日本国

民がどのような日本国の未来像を描こうとしているのか。文武両道の人間教育の伝統を日本人が切り捨てるようなことがあれば、それはこの国が亡国への道を国民自ら選択したことになるだろう。この国が真に自立再生できるかどうか、その捨石となればよい。これが我が文武両道塾「北辰館スクール」設立の趣意である。

（なお、実践例については、タイプ（７）－24を参照のこと）。

（千葉県松戸市・北辰館スクール・沼田広慶）

5. 啓蒙型

塾と教師の教育観や見解を世に説いて、一般の人々の認識を深めてもらおうとする型。例えば、食生活と学力について研究して指導に当たったり、教育講演会を開いたり、地域に新聞を作ったりしている塾もある。

〔事例紹介〕

全日本ＪＪＴ（塾で実験を楽しむ会）の実現

私のみるところでは、学校の理科実験教育は、戦後いっときは、理科教育振興法ができて（昭和三十年代）鳴り物入りで各学校の規模に応じて実験器具が配備され、「日新月歩の科学の進歩に対応した理科教育を」と呼ばれたのでしたが、結果的には笛吹けど踊らずの状態でした。加えて学生の「理科離れ」が喧伝されて、文部省もいよいよ御輿を…となってきましたが、時既に遅し、学校教育のそれは一朝一夕で改善できない事態に立ち至っていました。

そこで、私は学園創設以来終始一貫、理科実験教育を続けてきた経験から、「こんなに面白くて生徒の意欲を高め、且つ教える側の教員がやり甲斐のある」教科は他にないことを知り尽くしていましたから（しかもこれは文系だから駄目なんてことは一切ありません。未知に対する好奇心と解決しようという意欲があれば誰にでも出来ることなのです。）「学校がやらないなら、出来ないなら、塾でやろう。塾で理科離れを防ぎ、科学の好きな子に育てよう。」という考えのもとに、全日本ＪＪＴ（塾で実験を楽しむ会）を立ちあげることにしました。私の持てるノウハウをすべて公開し、理科実験をやってみようという塾人に体験してもらう機会をつくりました。年４回『星くずの村』で実費のみの研修会でした。１９９６年４月実行に移しました。すでに実験学校で不特定多数の子供たちと実験三昧の生活を送り、その反応を充分確かめていましたから、塾の先生方にその醍醐味を知ってもらいたかったのです。商業的発想ならば、ノウハウを教えるのだから数百萬円の加盟金を…となるのでしょうが、教育ではそれは邪道です。私は仲間の増えることが喜びでした。いくらお金を積んでも、挑戦してみたいと塾長が意欲的で自ら実験の先頭に立って実行しなければ物にはならないのです。すべて経験の積み重ねで、文字の上では修得できないのが実験観測なのです。

ですが、一つだけ条件をつけました。それは、如何に大きな塾でも塾長が参加すること、部下だけの参加は認めないというものです。

部下任せではものにならないのです。塾長自ら部下と共に喜ぶ姿勢がないと途中で挫折してしまいます。実験は準備がたいへんです。喜びがないと準備が億劫になります。

幸い９４年４月の第１回ＪＪＴは朝日新聞の取材をうけ幸先よい出発点となりました。あれから６年、多くの塾長の関心を呼んで回を重ねること第２８回のＪＪＴを行いました。

ここで実験授業の要諦を申し上げておきましょう。

①実験のテーマができたら必ず予備実験をする。そのとき実験の隘路を見つけ出し解決しておく。所要時間も計っておく。

②科学実験の場合、薬品の性質、危険性を充分学習、実験をしておく。事故があってからでは遅い。一種類だけでは安全でも混合すると危険薬になる場合がある。

③昨年千葉県の小学校でアルコール事故があり五、六人の子が火傷しましたが、普段燃料に使うアルコールも劇薬です。取扱いは慎重に。

④実験中の机間巡視は絶対に必要、どんな事態が起こるか知れない。対応は迅速に。

（大阪市東成区・藤原学園実験教育研究所・藤原　信）

〔事例紹介〕

学習塾を続けている原動力は、『学ぶことの面白さ』を生徒に実感して欲しいと思う一点である。学ぶ楽しさを実感できれば、社会に出てからも、自らの意思でその場その場において積極的に自分のために学びつづけるのではないか。それが、自らの人生を豊かにしていく契機になりうると思うからである。たまたま生徒たちよりも先に生まれた私ができることは、学ぶことの楽しさを生徒ひとりひとりの心の中から引き出すことを試みる中で、若い心を教え導くという極めておせっかいなことをしているのである。

（世田谷区・集英塾・幸路秀人）

6. 教育理念型

教育理念に基づいて教育使命や本質を実現しようとする型。安易な現状追従はしないで独自の教育成果を追究する。

〔事例紹介〕

ここに、１７年前につくられた筆者の「教育理念」の小冊子がある。２１世紀ははたして日本の世紀といえるだろうか。日本が人的資源以外に依るべきものを持たないとすれば、日本の将来が人材育成の成果如何にかかっていることは自明である。日本は各分野で先進国に追いつき、一部追い越しさえしたといわれる。また一方、日本は既存の知識や技術の習得とその応用の面で優れているが、基礎研究、独創的研究においては立ち遅れているといわれる。従って、教育の場面

でも、創造力のある人材に育成に重点を置くべきである、というのが、大方の一致点であるように思われる。

問題はこの先である。即ちこのような独創性ある人材の育成をどの程度重視すべきなのか、また重視するということの具代的内容はどのようなものか、ということである。現在は、基本的には「創造力（広い意味で既知のものを基礎に未知のものを既知とする能力。従って応用力や工夫から全く質的に新たなものを作り出すことまで、様々な段階が考えられる。）が、直ちに社会的価値を有する」特異な歴史的段階にあるといえるのではないだろうか。言い換えれば、必要な媒介行程がコンピューター・ロボット・機械等で代替されるので、生産行程の大部分は人間の労働（広い意味での人間の生産的活動）を必要としなくなりつつあるということである。即ち行程の論理構造が明らかな部分は原則そしてすべて自動化されるので、人間の労働を本当に必要する分野は、「未知の分野＝創造力を主たる依りどころとする分野」になるということである。まさに、創造力が社会的価値「世俗的に言えばお金になること」を有する条件が整っているのである。ここで、先の独創性のある人間の育成をどの程度重視すべきは明らかであろう。即ち単に量的に比重を増すのではなく、従前のもの（後述）を換骨奪胎して、それに、ふさわしい位置を与えるということである。

では、従前の必要なものとは何か。建前はともかく、現実に行われている教育は、できる限り多く暗記し、（数学などでもパターン暗記という意味で同じである。）それらの記憶内容をできる限り正確に、できる限り速く取りだすことを主要な目的としている。このことは各種のテスト、入学試験の内容及び制限時間を考えれば明らかである。そこには創造力の育成、判定などという視点は全く欠落している。このような状況の下では、諸個人も、わからない問題に対し深く考え、徹底した試行錯誤を行うよりさっさと答えを見て、やり方を覚えたほうがよいと考えることになる。

しかし、「できる限り多く記憶し、それらを正確に早く取りだす」という受動的能力は、近い将来、コンピューター等によって代替されるので、労働能力としてはスクラップ化しつつある能力ということになるであろう。というのも、新たな歴史段階は、主として創造力を中心とした労働能力を要請しているので、その他の能力は驚くべきスピードでスクラップ化されざるを得ないからである。又、特殊な日本の現状からしても、従来の“追いつく”作業が一応完了した以上、既存のものを受け入れるという受動的能力はもはや主要な地位を占めることはできないはずである。“個性のある、創造力豊かな人間を育成する”という内容は、教育の永遠の課題であろう。現在の歴史段階は、そのような内容を教育の支柱としてもよい段階、建前ではなく、現実にそれらを重視してもよい素晴らしい段階にある。教育が先の暗記中心の受動的能力の育成に主要な力を注ぐことは、そのような歴史段階に対する自覚を欠いた無責任な態度ということになろう。

これは最近の文部省の教育改革の中にも一部盛られた内容である。このことは、ここに紹介した当塾の“理念”がようやく社会的に認知されようとしていることを示している。しかし、“答申”

が個性的創造的人材育成をコースの多様化やとび級などの外的枠組みの改変の中で果たそうとしているのに対し、当塾では“授業方法のあり方”それ自体の変革の中でその目的を果たすべきだと主張している。

「では、創造力のある人材の育成の具体的内容はどのようなものであろうか。結論的にいえば、それらの能力の育成は過去の人類の遺産の継承と別個に行われるべきではなく、統一的に行われるべきである。」

更に、その具体的授業方法のあり方として、“産婆法”を提唱し、又、本格的に実践もしている。それは生徒主体の授業方法で、教師は解答を口にせず、質問形式で生徒から答を導く授業方法である。（詳細は『発想力重視型』の項目を参照されたし）

（栃木県日光市・Ｓ＆Ｓセミナー・小田　清）

〔事例紹介〕

家塾に憧れて

昭和３０年、「現代の寺子屋」まがいに、子どもを教え始めて今年は４７期生、大きくもならず、自賛することもなく、さりとて潰れずに、いつしか「私教育」がライフワークになってしまいました。現在は、時流に逆らってホームリーな学習室を運営している。

今日の教育を語るときは、きまって「荒れる子どもたち」が枕になる。本当に心寒い思いだが、この領域で業を営む以上、評論家ではいられない。教育は社会全体の問題であるから、単純に「要求・批判・告発」をし、関係者に責任転嫁するだけでは解決しない。思い返すと、ほぼ十年単位でいくつかのプロセスを経てきた。時代も変わる、自ら多少は経験を積み、進歩もする。そんな目で子どもたちを見ていると、子どものそのままの姿が年々見えにくくなってきた。最大の因は生活のスタイルかもしれない。

そこで、今、子どもたちの教育に必要なものは何だろうと思いついたのが、「三自・四無・五法」という私の教育哲学である。

◇　三自とは、自由・自然・自発で、個性と人間関係には欠かせない教育理念である。

◇　四無とは、はじめから教えない、直ぐには教えない、全部は教えない、聞かなければ教えないの四つの指導理念である。

◇　五法とは、「環・習・法・量・意」で、環は学習環境、習は習慣的リズム、法は学習方法、量は学習の適量、意は学習意欲の五つの学習概念である。

この三つの柱にして、子どもたちと一緒に言葉を交わしながら「学び」を考え、人間の関係を豊かにし、一人ひとりの個性を大切に伸ばしていく、そんな共学精神が「自分で考える」子を育てるのだと信じて、今日も「こんにちは」といって元気に入ってくる子どもたちを迎えることにしている。

私は少しぜいたくだが、今でも江戸時代の「家塾」を夢想している。

（藤沢市・鵠沼英数研究会・池田英雄）

〔事例紹介〕

『教育への視点』の確立が問題なのではないでしょうか。

わたし自身の戦後教育への不満（逆に、本当に“求め”ていたこと）を<体験的>に語ってみれば、例えば、著名な画家の横山大観氏が「筆をもって絵を習うことはそう大騒ぎしなくてもよいのです。それよりも人物をつくることが大事で、それを土台にしないことにはいくらやっても駄目なことです。」と、語っていること、同志社女子大の村瀬学氏が現在の学問の視点のあり方に対して、まず、自分が「生きている」ことから始めるのではなく、「意識や心理や認識はすべて個体の現象として扱える面があったのに（むろんそれはみせかけにすぎなかったのだが）」と、疑問を書いているところ、直木賞作家の藤本義一氏が『鬼の詩』で、明治末の落語家、桂馬喬の生涯を次の様に書いています。（仲間が、馬喬の読む厖大な書物に対して、不思議そうに聞く場面。）

「馬やん、噺家がなんでこないなもんを読まないかんのんや」と。

「噺家として読むのやないのンや。人間として読むのんやがな。人間、誰でも、生まれて来て、そいから死ぬわけやろ。その短い一生の間に、心の糧を己のものにしとかないかんのや」と、語らせているところ。

わたし自身の不満は、この三者に共通していて、そのことを一言で言ってみれば、「私とは何か」・「なぜ学ぶのか」・「どう生きればいいのか」について「教えて欲しかった.識りたかったり.求めていた」と言えます。（その答は、誰れからでもよかったのですが･･･）戦後教育では、この「地点」をスッポリと落としていたと言えます。

いま、この“求め”を「テキスト」にまで型をととのえて実際に使用を始めた学校があります。首都圏のある私学の高２生と法政大学の「授業」とにです。

因に、テキストのタイトルは、№1が『自分とは何か・なぜ学ぶのか・どう生きたらいいのか』で、№2は『宇宙の歴史と私のつながりを考える』です。今のところ使用主体を私学に限定して使用しています。

そこから提出されてくるレポートには、

「自分とはどこからきたのか？自分は何のために生きているのか？自分はどうして今こんなに一生懸命勉強しているのか？と自分についての疑問がたくさん浮かび上がってきて、それについてずーと考えたり、友達と話してみたりしたけど、ちゃんとして結果を見つけることはできませんでした。（中略）だけど私はそのことについて考え続けることは大切なことだと思う。」（高２.女）

「毎回、生きること・ものの見方など、様々なことを考え、奥の深い授業でしたが、大変興味を持つことができました。」（高２.男）

その他の注目されるコメントには、「考えることができた」・「新しい発見・新しい自分」・「周り

の意見が聞けて･･･」などといったことについても生徒からナマの声が寄せられています。

また、大学生からも、「今まで、なんとなくしか自覚してこなかった、“私が今ここにいる事の奇跡”というものを感じることができたと思う。･･･私は、私だけで存在するのではなく、地球や宇宙を含む長い歴史によって支えられているのだと思う。」と。（社会学部１年.女）

今の生徒の多くも、また、わたし自身の“求め”と同じ「地点」にいると言えます。上記の私学の高２生からの授業内容への支持率が９０％にのぼる、こともつけ加えておくことにします。

では、この流れの中で、塾での試みを書いておくことにします。

千葉県公立の高校の入試の国語に、作文が導入されることとなったのをチャンスに上記のテキストの内容の一部を使い、作文演習を試みてみたところ生徒から次の様な結果を得ました。

題名：『自分を好きになり、自信をもって生き、そして死ぬために』

（まず先生が、この題名の内容に沿って 20～30 分のレクチャーをした後に作文を書いてもらいます。）

作文：「“自分はなんのために生まれたのか・何ができるのか”今までは少しは考えたことはあったけれどそれほど深くは考えてはいなかった。生まれたときは何も持っていない。男か女か（という区別）とか名前とか生まれた後に出来るものではじめから持っているものではない。こんなことを聞いたのは始めてだったから少しおどろいた。

“自分を好きになる”ためには自分を知るのが一番だと思う。だけど今の時点では自分自身がよくわからない。私の場合は将来何をやりたいのかもはっきりとは決まっていない。だけど自分が選んだ自分に合う高校に行って、それからやりたいことを見つけていこうと思う。それが今の自分にとっての一番のいい方法で、自分を知り、好きになるためのことだと思う。」（中３.女）

塾の先生方むけの文章としてこの依頼を受けましたが、21 世紀の「教育への視点」を、わたし自身の最大の関心事としていますので以上のようなものとなりました。

（千葉県市川市・HVS 綜合研究会・安達　征勝）

〔事例紹介〕

私の教室は、中学生を中心とする生徒数約１００名の典型的な個人塾である。中学生には、公立高校の入試科目である数学、英語、国語、社会、理科の５科目を教えている。ここまでは、何の変哲もない町の塾である。何かが違うとすれば、それは、「授業料を支払ってもらって勉強を教える」ということに対する私＝塾長の意識だけかもしれない。

中学生に教える学習内容で、知識そのものが対価を受領する価値があるようなものは、何一つ無いと言ってよい。歴史上の偉大な先達が苦労に苦労を重ねて発明あるいは発見したものを、繰り返して教えているだけであるからである。「三平方の定理」や「オームの法則」を、あたかも自

分が発見したものであるかのように、得々と説明をして、それが授業料を頂戴するのに値すると本気で信じて塾を経営している人がいるとすれば、その塾の将来はほとんど無いに等しいと言っても過言ではないであろう。

私が授業料をいただく価値があると思っている行為は、私の教室に通ってくれている生徒たちの能力を引き出すことだけである。人間の能力は、生まれつき９０％以上が決まっており、無い能力を新たにつけてあげることはできない。だから、隠れている彼、彼女の能力をより高い次元に引き出してあげることが、せめても塾のできる仕事である、と私は考えている。

だから、数学では、数式という言語を読み取ることができる能力、すなわち式を変化させて式の先々を見通す力を養成することと、図形の学習を通して論理的な構成力を身につけるように、生徒達を鍛えることに一番重点を置いている。英語では、英語を駆使して外国人とコミュニケーションできるようになることが、英語学習の目的である、と考えているので、日本語訳をさせたり、こまごまとした英文法を日本語で解説して教えるということはしない。日本語の介在は、生徒たちが将来、英語自体をダイレクトに使っていこうとする時の、手かせ足かせになるだけだからである。

そして、すべての能力の基本になる力、日本語で書かれた文章を筆者の意図通りに正しく読解する力と、自分の母国語を使って自分の言いたいこと書きたいことを正確に表現する力は、徹底的に育てたい。だから、私の教室では、国語教育、とりわけ作文の実践には非常に力を注いでいる。

もうひとつ、私が意欲的に取り組んでいることは、「生徒と遊ぶ」ことである。遊びは人間だけが行うことができ、しかも人間を人間らしくする、人間にとって非常に大切なものであるにもかかわらず、その本当の楽しみ方を教えてくれる大人や教育機関は皆無と言ってよい。好ましい例外は、父や母が非常に旅行好きで、子供たちを楽しい旅行に同行させるとか、あるスポーツを得意とする親が、子供に教えながら一緒に楽しむとかという場合に限られてくる。学校で行われている運動部系の部活は、指導する教師が勝つことだけしか眼中に無く、それだけしか教えない場合は最悪である。子供たちは、そのスポーツを人生の楽しみとすることができず、スポーツを楽しむことに何か後ろめたい気持ちすらもつようになるからである。

私は、生徒とスポーツをする時は、その楽しみ方を精一杯伝えたい。その点からも、千葉学習塾協同組合が、毎年恒例行事として、スキースクールを実施しているのは、実にすばらしい企画であると思っている。先生も子供たちも一緒になってスキーやスノボーを楽しんでいる光景は、これこそ教育の原点であると思えてくる。

（千葉県船橋市・NAC 進学館・永嶋満雄）

〔事例紹介〕

（Ｉ）めざすもの

3 学期も終わりに近づいた夜遅く、教室のドアを激しくノックする音が聞こえた。開けてみると、派手なシャツを着こんだ縮毛の男の子が上目づかいに立っていた。

「勉強を教えてほしいんだけど」。胸ポケットから一万円札数枚取り出してつぶやいた。

小学生の時から担任との折り合いが悪く、こじれた挙げ句授業にそっぽを向いてきた。中学に入って、さあやろうと思った時、小学校からの内申を読んだ学年主任に呼び出され、何をやってもいいから授業妨害だけはするな、といわれて勉強する気がなくなってしまった。以来、部活と喧嘩に明け暮れ、不良番長のようにみられたまま、とうとう中2も終わりになった。ここにきて高校にいきたくなり、自分のような生徒でも教えてくれる塾をさがしていた、ということであった。

事情を聞くとその子の気持ちに同情の余地があった。翌日から一日 5 時間の補習が始まった。分数がわからないというので、小学4年からの再出発であった。時には深夜1時か2時におよぶ日もあったが、彼はよく耐えた。3か月後中学3年の勉強に入ることができた時は心からうれしそうであった。

2学期になり、めきめき力を伸ばした彼を、学校の先生は信用せず、進路相談でも通学に2時間もかかる遠くの私立高校を勧めた。彼は担任の勧めを振り切って自分で近くの公立校を受験し、合格した。

合格した時の笑顔を忘れる間もなく、6月彼が高校を中退したことを風の便りに聞いた。なぜ？あとから周りの生徒に確かめると、少しずつ事情がわかってきた。

高校でも中学校でやっていたハンドボール部を新たにつくろうとした。仲間に呼びかけ、人数もそろったので顧問になってくれる先生を頼みにいった。しかしどの先生もとりつく島もなく、冷ややかに断わった。ハンドボールで県大会優勝した彼の情熱は空振りに終わった。彼がショックだったのはハンドボール部ができなかったこと以上に、断わる時の先生たちの冷ややかな目だったようだ。こうして彼はみずから選んだ高校を去った。

彼の中退は私にとってもショックだった。情熱的な授業、子供のくいいるような目、激しい問答、深夜におよぶ指導。これまで金科玉条として掲げてきたものが、子供を少しも強くしていないことを知った。このひ弱さを克服するには、毎日の勉強そのものの中で考える力をつけるほかないと思った。いい先生か悪い先生かに関係なく、自分で学べる自立した学習力をつけること、これが目標になった。

（2）学習の方法

このような目標からみると、これまでの集団指導はあまりにも緻密さに欠けていた。ひとりひとりの学習過程をみるためには不充分な方法であった。同時に先生中心のこれまでの教材もすべて作り変えなければ使いものにならなかった。

塾用の問題集も市販の参考書も先生中心に編集されていて、生徒が自分で学習を進めるには無

理があった。

こういう視点でみると、学校の教科書だけは使えそうであった.

すべての内容を網羅しつつ、ここまで無駄をそぎ落とした簡潔な表現はないと思った。教科書の内容をすみからすみまで理解すること。そこから始まり、そこが目標となった。そのためには言葉の意味がまずわかる必要がある。次いで、文章全体の意味を把握する。それがわかったら、自分の力で教科書の内容を表現してみる。英語なら教科書の1ページを何も見ないで書いてみる。数学の場合なら、例題の解き方を図や表を使ってそっくりなぞれるか試してみる。理科や社会なら、教科書が何をいおうとしているか自分でノートにまとめてみる。

一言でいえば、教科書の考え方を真似るということである。

これが学習の出発点だと思うようになった。教科書を真似ることすらできない子供に、その後の進展はのぞめないだろう。なぜなら、『学習』とは「真似て繰り返す」ことだからである。

教科書を丸々自分のものにしていく過程の中に、出会う教師の良し悪しに関係なく自分で学べる学習力をつける契機があるように思う。

小学校の低学年から暗記や素読を徹底して繰り返す。

この立場は、今叫ばれている「ゆとり教育」とは対極に位置しているかもしれない。

（千葉県市原市・米澤学習塾・米澤幸三）

〔事例紹介〕

（1）　何故勉強するのか

時々生徒さんに「先生、どうしてこんな勉強しなければならないの」と聞かれる事があります。そんな時大抵は「脳みそを鍛えているんだよ」と答えています。では大人は何故子供達に勉強をさせるのでしょうか。このことは子育てと密接に繋がっています。世のお父さんお母さん方には、それぞれ子育てに対するお考えがおありと思いますが、共通して言える事は「心身ともに健康で、世の中で立派に一人立ちして欲しい」と言う事ではないでしょうか。では、世の中で一人立ちして行くにはどんな力が必要なのでしょうか。それは私たちの毎日の生活を見つめていれば自ずと見えてくると思います。すなわち私たちの生活は、毎日が新たな状況との闘いです。一つの問題や課題が解決するとまた次の問題や課題が待ちうけています。このことは仕事の上でも、家庭の中でも同じことです。そんな時、常に要求されるのは問題点を見つけ出し、

解決策を模索し、実行する力です。それは情報を収集する力であり、現状を分析・判断する力であり、解決策を決断・実行する力でもあります。そしてその基礎としての集中力・思考力・記憶力・創造力等の力であり、更には見る力、聞く力、感じる力等でもあります。これらは「状況を切り拓く力」と言えましょう。

しかし、これだけで世の中で一人立ちして行く事はできません。私たちは毎日の生活の中で様々な人々と触れ合い、刺激され、エネルギーを頂戴し、人々に支えられて生きています。とすれば

その事を感じ取れる柔軟な心を持ち、人との関りの中で、いつもあるべき自分の姿を追い続ける姿勢が必要となります。

これらは「自己を高める力」といえましょう。

（2）２つの方向と授業青藍学院では、勉強を通じてこれらの力を生徒さんに身につけて欲しいと願っています。算数や数学は「つるかめ算」や「方程式」を覚える事ではありません。これらの勉強を通じて、論理的に考える力や分析する力などの思考力を育てているのです。国語にしても、設問に対する答え方を学ぶのではなく、文章を通じて人生の感動を味わい、様々な世の中の出来事を知り、ものの考え方感じ方を学んでいるのです。理科、社会にしても同じことです。世の中の現象、仕組みなどの様々な知識を学びながら思考力·判断力などを身につけているのです。

受験はどうでしょう。それは中学受験であれ、高校・大学受験であれ、各々の生徒さんに与えられた「状況なのです」。それぞれの家庭の状況、将来の方向性、生活環境等、一人ひとりがそれぞれの「状況」を抱えています。そして毎日の勉強を通じて自分のあるべき姿を、経験しながら学んでゆく絶好のチャンスなのです。

では、そこに対応する私たちはどうでしょうか。生徒さん達と同じです。生徒さん一人ひとりが持つ各人各様の可能性を如何に引き出すか、そしてそのために如何に授業をわかり易く楽しいものにしていくか、私たちに与えられた「状況」です。また授業やその他の対応を通じて、どうやって生徒さんと心を通わせられるかは、信頼をいただけるに足りる自分であるかどうか、「自己を高める力」を問われています。

7. 自由無規則型

型通りの教育を否定し、自由放任をうたう型。強制をしないで、一人一人の生徒の自主性を尊びながら教育にあたる。その中から自覚が生まれ、真の協調性も生まれるとする。

〔事例紹介〕

２０年前、現在の場所で開塾する際、大学院の修士課程修了、職探しをしていた友人と始めたので、最初からある程度生徒集めを懸命に行った。当時は募集チラシで３０名ほど生徒が集まったが、苦しかったのは２年目、前年集めた生徒の半数も集まらず、次年度もこの状態が続けば閉塾とまで追いつめられた。そのとき、生徒数が少なかった中で気がついたことは生徒が少ないとやめる生徒もいなくなるということだった。中３より中２の数が増え、定期テスト対策や補習の呼びかけに反応してくれる生徒が多くなった。夏休みには家庭訪問も実施、数学の計算テストや漢字、英単語など簡単な教材は手作りプリントを作成、経営上は赤字続き、蓄えを取り崩して生活していたが、今思い出しても初めてのことばかりで楽しかった。

出入りの業者教材会社や印刷関係の会社から他塾の様子や募集方法などのヒントをもらい、自分たちでできそうなことからどんどん実践した。３年目の募集では友人と２人、地域全体手配りでチラシを入れた。３年目から生徒は順調に集まり、４年、５年と増え続けたところで「理念」やら「内容」にこだわりが出てきたともいえる。

当時の塾生に聞くと学校より「自由」だったことが一番、「生徒のいうことを聞いてくれた。」「一緒に遊んでくれた。」と年齢が若かったことが一番のメリットという時期だった。塾生募集に基準はなく、誰でも入れる、入塾テストはクラス分けのためのテストというのが当時のスタイルだった。ただやはり人数が多くなると途中でやめる生徒も多くなる、「来るものは拒まず、去る者は追わず。」がモットーとはいうものの、せっかく入ってきた生徒がやめるということを放置してはいけない。何がいけないのか調べたり考えたりすることになった。やめた生徒の理由には、①宿題が多すぎる、②遅くまで残される、③成績が上がらない、などがある。また、よかれと思って始めた月毎の塾のレポートがマイナスになる場合もある。月毎に出していた出欠表の宿題チェックや小テスト欄が親子げんかの原因になり(「塾で何をしている？宿題やテストの勉強をしないのだったら塾をやめなさい」という母親に対して売り言葉に買い言葉「わかった、やめる。」の一言で)退塾というケースがあることを知り、塾をやめる場合も引き留めてあげないとかわいそうなときもあることを知った。当時アンケートや成績調査などを行いながら入塾者の約２０％は成績に変化がなく、特に成績が下位の生徒にその傾向が顕著であることがわかった。

そのころ塾団体の全国組織のいろいろな会合で塾の先生方を知る機会があった。会合の席上自塾の悩みをぶつけたとき、解決策を伝授してくれたりアドバイスを受けたことが現在に結びついている。個別指導と教材、心理テストやカウンセリングなど数年かけて学んだことを生かす機会が少ないが自塾の運営上非常に役立っている「心構え」を学んだといえよう。成績下位者を見事に指導されていた関西の塾、また博学多識、大脳生理学から経営学、宗教、精神分析など学問的にもすばらしい教養を持っている塾の先生方や尊敬できる塾の先生方と知り合えたことが財産となっている。

成績下位者にこだわった時期は数年だったが、成果を上げるには根気と体力、親を含めた周囲の人間の協力がなければ無理である。塾としては「勉強できないのだったら学伸館がいいよ。」という地域での評判？は上がった。ちょうど平成元年、塾を始めた仲間が父親の退職を機に、父親の郷里に帰ることになり、塾は私一人で運営していかなければならなくなった。ただ有り難いことに寝食を忘れて塾にのめり込んだおかげで、卒業生が大学生になり始め、塾の講師を引き受けてくれるようになり、アルバイトの学生には困らなくなっていた。豊富な人材を生かすには個人指導も面白いと考え、成績下位者には個人指導を勧め、高校生及び中３生には一定の成果を上げられることがわかった。

現在、経済状態や公立入試の変化等原因は様々だと何が理由なのかは判らないままだが個人指導の要望がほとんどない。

（千葉県船橋市　学伸館　塾長・平栗祥克）

8. 公教育協力型

公教育（殊に義務教育段階の学校）側の必要にこたえ、積極的に協力する型。公教育の充実を願う立場から、非行化防止面でも、地域内における学校の諸活動に対してもできるだけ努力して協力する。大変ささいなことのようであるが、学校の諸行事や部活動に励むことを阻害せず、むしろ奨励する。学校活動優先を前提とする塾には生徒も通いやすいので、地域に根ざした塾が多くそれに妥協する。

9. 公教育否定型

公立の小学教育を終了しただけでは、到底中学校入試問題の合格ラインには届かない。これが現実である。そこで、公立学校教育は受験の上で意味をなさない、と見る向きが生まれた。極一部の受験専門塾の中には、公教育否定を訴えるものが出、マスコミで取り上げられている。一方、教育は民間で行うのが本筋だ、という理由で公教育を否定する立場もある。

10. 入塾条件確認型

11、自主学習支援型

〔事例紹介〕

指導方法についてはこの２０年様々な方法を取り入れてみた。当初の一斉指導に始まり、個別指導、計画学習、自主学習、ひとり学習などという名目で勉強の形態も机を壁に向けてみたり、ゼミ方式にしてみたりいろいろ試してみたが、１０名程度の少人数なら生徒が快適に感じる空間を生徒に聞いてみることが一番と思い、授業形式の場合は一斉スタイル、自習の時は自分勝手にいろいろレイアウトを変えて授業を行っている。中学生の場合授業時間の関係でどうしても学年枠を外しての個別指導ができなかったが、新しい教室では中１から中３まで同じ教室でみごとに勉強している。

個別指導や自主学習、ひとり学習で問題となるのは学習する主体が生徒自身だという自覚を生徒に持たせることと親の意識を変えることだ。また、教える方の意識も同じように変わらないと不可能。宣伝文句につられて個別指導塾のほうがより子供に親身になってくれるような錯覚を起こす親も多い。

自塾で取り入れて生徒達や親達に評判が良かったのは感想ノートだ。これはやはり関西の塾の方式を真似したものだが、授業後の感想を書かせるというただそれだけのことだ。授業の感想がなければ学校での出来事自分自身の悩み、時には事件や出来事に対しての感想でもいいことにな

っている。「疲れた」「腹減った」「つまらない」などとしか反応しない生徒も多いが、担当者が必死になっていろいろ返事を書いているうちに、少しずつ文章が長くなってくる。中３などは勉強の仕方や志望校の相談、学校や親に対する不平不満、男女にかかわらず、口数が少ないタイプの生徒は熱心に書いていることが多い。卒塾生が遊びに来るとこの必ず感想ノートを見ている。もう一つ、個別面談の際にこのノートが武器になる。書いている生徒には親や仲間が見ることもあるからということは話してあるが、実際に親に見せると自分の子の文章に感動することが多い。「何も考えていないと思っていたが、成長してるんですね。」と言って涙ぐむ場合もある。合宿やイベントなど特別なことは一切やっていないが、この感想ノートだけは１２～３年続いている。

（千葉県船橋市・学伸館・平栗祥克）

〔事例紹介〕

自主学習能力の育成

当塾では、未来をになう子どもたちが自立して自ら学べる人になれるようにと「自主学習能力の育成」を指導目標に掲げ、個別指導による能力開発を行っております。子供たちが本来持っている様々な能力（記憶力・思考力・表現力・読解力・資料活用力・整理力・集中力・意志力）を引き出し、自ら学べるように最大限の援助をしております。

当塾では、学校の教科書にそった予習・復習・テスト対策を行いながら、一人ひとりの能力を高めていける学習材・学習システムを開発致しました。つまり、学校の成績を上げながら、様々な能力を高めていけるわけです。

学習には、理解→記憶→思考→表現というプロセスが含まれています。例えば、算数・数学を例にとってみれば、計算のしくみや公式を理解し、これを記憶します。そして実際の問題で、これを引き出して思考し、問題を解き、答えをだす（表現する）、といった具合です。これらのプロセスを正しくたどることで能力は高まっていきます。当塾の学習材や学習システムは、能力を高めるために何年もかけて作り上げられていますので、学習システムにそって正しく学習すれば、必ず能力が高まっていきます。

学習とは、学習者個人の内面で成立することです。理解→記憶→思考→表現について正しいプロセスをみずからたどることによってのみ能力は強化されます。ですから、子供たちには、知識ではなく、正しいプロセスのたどり方、つまり知識を獲得する力をつける方がはるかに役に立つのです。

これからの日本の社会はどうなるのでしょうか。低成長時代、変化の激しい社会の中で、大企業の安定性、終身雇用、年功序列もこわれつつあります。日本の社会は、激動の時代を乗り切るためには、実力主義・能力主義に移行せざるを得ないのです。

受験テクニックを身につけて、なんとか有利に進学し、いい大学に入りさえすれば軌道に乗るなどという考え方は、これからは通用しないといっても言い過ぎではないと思います。今こそ、子

供たちに、本当の能力をつける教育を実行していかなければなりません。
社会環境がどの様に変化しても、自分で思考し、自分の責任で、人との関係を整えた上で自分を生かしていく力を身につけること、常に自分の力で学べることが、将来幸せに生きる力になるはずです。そういう自立した個人が集まる社会こそが健全な社会といえるのでしょう。このようにして、社会変革は静かに実現していくのではないかと思います。また強くそう願っています。

（群馬県高崎市・SSA ジュニアフォーラム・時吉　等）

12. 共感能力強化型

〔事例紹介〕

将来生徒達が感性を深めていくためのきっかけの一つとなることが目標。

（1）音楽鑑賞
（2）（1）に関してイメージの絵画表現
（3）（1）に関しての感想文
（4）詩の朗読
（5）民話、物語、小説の朗読
（6）童謡、唱歌等の斉唱
（7）伝記の朗読
（8）英詩の朗読と斉唱
（9）歴史に関する文章の朗読
（10）自然科学に関する文章の朗読
（11）芸術に関する文章の朗読
（12）和歌、短歌、漢詩の朗読と斉唱

（茨城県竜ヶ崎市・竜ヶ崎英数セミナー・森本仁夫）

13. 得意科目育成型

〔事例紹介〕

得意科目の育成を通して子供を育てる。
得意科目主義と言ってもよいでしょうか、当塾の子育ての基本コンセプトです。英語が当塾の得意科目主義の核となったのは、英語は無学年で学習出来るうえに、文部省の指導要領に関わりなく学習できるという利点がありました。さらに英検などの信頼性!?ある絶対学力測定装置があったからです。

どんな学年でも 100 人に数名は、放っておいても全科目出来るという子供がいます。当塾の対

象者の多くは、少なくともそのようなレベルの生徒ではありません。むしろ、学校の授業に着いていくのに四苦八苦している生徒たちです。

15年前のJKKリポートでは、遅進児対応型という内容で発表しましたが、そんな公教育追っかけ型では、子供も塾も救われないというのが、当時からの私の思いでした。苦手科目を追っかけるよりも、得意科目を追っかける方が楽しいまた、学ぶ意欲も湧いてくるというものです。得意科目がある子供・得意科目を育てようとする子供は、苦手科目があってもへこたれません。未来に対して粘り強く向かっていく性向が見えます。

得意科目を通して子供の英語力と学習への自信を育てるコンセプトは、いくつかの点で不充分性を感じながらも、ほぼ期待したように進行しているように思います。在塾中学3年生25名中、7名の準2級合格は、平成11年度でした。今年度も在塾中学3年生29名中、平成13年6月までに英検3級合格(二次含)、15名に到達しています。

今後の目標は、指導要領 30%削減時代と全入時代の大学入試を越えろ！です。当館データでは、英検2級合格は、センター試験の英語145点前後相当。高2レベルで、大学入試の英語は一区切りし、TOEIC730、英検準1級、センター試験190レベルが当塾の指導目標です。

さて、英語はあくまでも道具である、それ自身が何かを生み出すことは、ほとんどの場合ありません。今、得意科目の育成をコンセプトにして教室運営をしながら考えていることは、得意科目＋サムスィングです。幼稚園の時からダンスを習っている中学3年の女生徒がいます。英語も今秋準二級合格を目指しています。ダンスが、パソコンでもスポーツでも絵画にでも何に変わってもいい。英語＋サムスィングの塾として、メリハリある個性育成を民間教育の立場から実践し、再々度15年後に英語＋サムスィングを大いに語れれば塾人として至福であろう。

（川口市・朝日学習館・梶原賢治）

(6) 指導内容による類別

1．総合科（5科）指導型

〔事例紹介〕

指導内容は、中3は総合5教科。その他の中学生は3教科（英数国）、小学生は算国2教科、教科書中心指導である。英語指導ではテープレコーダーやソニーのリピーターを入れて音声指導を実施、また6～7年前からはパソコンの音声教材も利用したが、船橋地区の教科書が採択の少ない「コロンブス」に変わってしまい、教材が揃わなくなってしまった。数学は少人数の一斉指導、英語は個別進度で読み書き、暗記を徹底的に行っている。中3はやはり高校受験があるのでテストが多くなる。漢字や計算英単語は週2回別枠でテストを行っている。内申点を気にする生徒が多くなったので中3は中学の授業の予習中心、夏期講習で復習、本格的な受験態勢に入るのは12月からになっている。中1、中2は各1クラス中2の2学期に3年を意識して2クラス態勢になるのが理想だが、人数が揃わず2クラスにならない、中3は2クラスに分けている。高校クラスもあるが、中学生の時から通っている生徒ばかり、大学受験も指定校推薦狙いで、定期テストの勉強さえしっかりしておけば全員が大学進学できるのでこれはという特別な指導内容はない。英検や漢検、数検なども受験指導しているが授業では取り上げず、補習などで対応している。今年は昨年から始めたパソコン教室の影響からか文書処理検定を受験する高校生が出てきた。

（千葉県船橋市　学伸館　塾長・平栗祥克）

〔事例紹介〕

進学教室の他に、英会話スクール・パソコンスクール・通信生サポート校・珠算教室を併設しているので、生徒のタイプ･年令は幼児からシルバー世代まで多岐にわたる．また、英国留学生の募集とその指導・ケア．外国人英語講師の高等学校への派遣業務も行っている．本校では、進学教室とパソコン、珠算、サポート生指導．他の2分校は、英会話とパソコン．合計3校、いずれも八千代市内に在る．進学塾がオリジンであるし、中心であると考えている．

(1) 進学教室は、小人数クラス型、グループ一斉指導型中心に、多少個人指導もしている．

(2) 生徒総数は、全体で、500～600名　進学教室生は、100名前後

(3) 進学教室教師は、専任2名の他は、当塾卒業生中心の学生アルバイト指導型、他のセクションは、原則1年契約のプロ教師．出来るだけ地元から採用している．現在スタッフは、教務・事務を含め48名、ただし外国人教師を除いて、全員パートタイマー．生徒が、出来るだけ多くの先生に、逢えるようにチャンスメークや、カリキュラムを考えている．

(4) 教科指導型で、特別の理念は無いが、正しく、楽しく、仲良くをモットーとしている．

(5) 目的に応じて、入学の段階でセクションを分けている．例えば、進学塾を希望してきた小学

生に、そろばん塾を勧めて、却って喜ばれ、中学生から進学塾に入った生徒も多い．小学生までの英語は、外国人講師に任せている．

(6) 原則、学力別クラス編成型

(7) 塾用教材活用型

(8) 原則、全員受け入れ型、体験入塾・クラス分けテスト実施

(9) 法人経営型

(10) 地域のあらゆるニーズに応えるべく、「みんなの街の教育広場」という看板を出している．両親と子供が、教科は別にして、共に学院生とか、祖父母も生徒というケースもある．珠算教室も意外に根強い人気がある．基本はあくまでも進学教室であり、その塾が行っている「ナニナニ‥教室」というのが、信頼の基になっていると思っているし、また是非そうであって欲しいと願っている．

（千葉県八千代市・日米文化学院・柳田晋次）

〔事例紹介〕

指導内容は特に限定はしていない。すべての教科は大学受験レベルに対応できるようにしている。但し、音楽や美術等はその限りではない。特に重視しているのは国語である。すべての教科の基盤になると思うので自分の考えを文字できちんと表記することは極めて大事にして指導している。毎月、作文を全生徒に課している。

（世田谷区・集英塾・幸路秀人）

2. 単科指導専門塾

原則として単一教科を扱い、指導効果をあげる型。取り組みの多彩さ、集中度などに大きな特徴がある。

A.「英語」教室型

文字通り英語の指導を中心に授業が構成されている型。

英語だけの単科教室と、他教科をも加えた複合教室とがある。また、これらは、学校の補習に力を入れた補習指導型と、予習や受験英語に力を入れた進学指導型とが主流となっているが、会話コースを併設したところ、あるいはそれを独立させた教室も見られる。

B.「算数・数学」教室型

算数や数学の指導に独自の方法を持って望む型。

教材・教具はもちろん、数学教科書を深く理解させるし同情の技術を持ち、高度な世界へ誘う。

C.「理科（実験）」教室型

理科教育に不可欠な実験観察を指導し、理科の内容を深める型。

〔事例紹介〕

『星くずの村』実験学校

１９９２年９月、学校週５日制が根本的な審議を尽くしたと思えない拙速さで実施されました。私は当時、意見書を書いて朝日新聞に投稿、５段抜きの記事となりましたが、事態はズルズルと進展していきました。これでは、子どもたちのせっかくの土曜日が有意義に過ごせなくなると、『星くずの村』（１９６５年、香川県小豆郡内海町古江に建設開始。７１年プラネタリゥムを設置）を第２（土）（日）に限って開放、天体観測、動植物の自然観察・科学実験の楽しい合宿を試みました。在学生を、小４・小５・小６・中学の４組に分け、それぞれ３０名ずつ、同年の９月・１０月・１１月・１２月の４回、モニター合宿を行いました。勿論費用は交通費・食費（寝具・光熱費）を含めて、実費のみとし、希望者を対象として行ったのです。土曜日を心配していた保護者の大歓迎を受け、希望者は殺到したのですが、一人一人に顕微鏡・望遠鏡・採集具など実験諸道具を一つずつ使わせることを意図としましたから、経費が大変で、それに実験・観察指導員は大学の理工系出身者でも全実験課程をこなすのに１０年はかかりますから（実験項目３２０）、本校の専任職員に頼らざるを得ず、そうすると本科生の授業に支障を来たすということになり、これはならじと、学園出身者で公私立学校の理科教員をしている卒業生に、学校教育に支障を来たさない範囲で第２土日をボランティアで来てもらう、そしてそのお子さんは交通費も食費も無料で参加して頂くということにして、応援を頼みました。なにしろそれ等の先生たちは小学校４年生から中学校３年生まで幣研究所で６年間も理科実験をした連中ですから、新実験も飲み込みが早く、それに学校で出来ないことができると大喜びで、大きな戦力となりました。現在第２（土）（日）に２８時間のカリキュラムを組み、８単元の物理・化学の実験・理科工作・観察活動（１単元は１・５時間）残りの時間は自然の中での自由行動・生活指導に当てています。参加費用は実験観察費１５０００円で（時間あたり２０００円、教材費含ですから、半分以上が教材費で中には授業費が賄い切れないものもあります）生活費は一人あたり名目７０００円ですが寝具・光熱・食費（１泊３食　夕食は豪華なスキヤキ）カラーアルバム（２６ページ一冊１５００円相当）を毎回無料で配布していますから実質５０００円程度で賄っていることになります。なぜ「すき焼き」かと言いますと、グループで味付け・火力調節・よく火を通して食中毒を防がせる。４人１組ですから協調性を養うなど色々と効果があります。経費はかかりますが…。又、例えば自然観察の一例として、人口の池と小川（もう３０年以上経ちましたので全くの自然の様相を呈しています）天然水不足のため、モーターで水を循環させてオタマジャクシ・ヤゴ・メダカ・カワエビ・サワガニ・アメンボウなど棲息させていますが、この費用が馬鹿にならない。月額水代約１０万円（日量１０トンが自然蒸発します）電気代月額１５万円前後年間３００万円近い費用がかかります。何万というオタマジャクシに子供たちは目を輝かせて取り組みますが、２月中旬冬眠から覚めて卵を生みに出てきたカエルたちに水を与え、産卵の世話を焼くのは厳冬の季節、なみたいではありません。が、子供たちのハシャグ姿をみると、疲れも吹っ飛びます。今月で第７７

回目の実験学校を終えて、目下記念アルバム（写真参照）の製作でテンヤワンヤしています。本にしておくと、一生の思い出となり、貴重な成長記録として保存してくれることでしょう。
ついで私が莫大な費用を投じてまで設置したプラネタリゥムについて述べてみます。

（大阪市東成区・藤原学園実験教育研究所・藤原　信）

D.「国語」・「作文」・「論文」教室型

読み、書き、話し、聞く、という国語能力に総合的に関わる型。古典の講読を小学校時から扱うところや、朗読、スピーチを指導するところもある。現代文の講読、作文指導で、豊かな日本語世界を築きあげる努力を、この型の大半が行っている。

〔事例紹介〕

「作文」「小論文」については述べましたが、「読解」についても触れておきます。

当初から日本の「国語教育」は、その国語（日本語）の能力の本質を見失っているとしか思えません。日本語の能力とは「論理の能力」です。

しかるに、現行の制度では高校の「国語教師」の多くは「国文科」出身です。これではいつまでたっても「論理」を教えることは難しいのではないでしょう。もっとも現行の「哲学科」出身者ですら、そうした能力があるかどうかは大いに疑問ですが。

日本語の能力とは「論理の能力」であり、それは形式・型の力です。それがいつまでも認知されないのは、敗戦後の日本のあり方とも深く結びついています。そこでは低レベルの「自由」を掲げ、「形式・型」を敵視してきたからです。しかし実は「形式・型」こそが「論理の能力」を育てるのです。

そのことの反省なしに「論理的」になることはできません。「形式・型」は自由の敵ではなく、それをくぐり抜けることによってのみわれわれは自由になることができるのです。これも「論理」ですが、こうした論理を身をもって示すことができるような教師でなければ「日本語」の指導はできません。

「校則のないことが自由のあかし」と発言する生徒が放置されているのはどうしたことでしょうか。

（東京都文京区・鶏鳴学園・中井　浩一）

E.　万葉集教室型

〔事例紹介〕

万葉歌の授業を通して母の影響を受けて万葉歌の旅を続けて三十五年近くになります。

旅先での感動をいつしか授業の中で生徒達に伝えるようになりました。身を乗り出して耳を傾ける生徒達にせがまれせがまれ、とうとう授業はそっちのけで旅の話と万葉歌で終わってしまう事がしばしばでした。旅から帰った日の最初の授業が数学や英語だったりすると、生徒達は旅の話を先に聞きたがるし、こちらも感動がいっぱいの新鮮なうちに伝えたいと思うものですから、その授業をつぶしてしまうはめになり、これでは本来の授業の計画が成り立たなくなってしまうと考えたあげく、小学生から中学生の国語の授業に入れて永らく授業をしていました。ところが八年前、ある生徒の父親から手紙を頂いたのがきっかけで、国語の授業以外に「万葉歌」を一つの授業として（月三回、五十分）独立させました。その父親の手紙には、二月につくばに雪が降った朝、息子（塾生）がパジャマ姿のまま庭を見ながら

雪見れば　いまだ冬なり　しかすがに
春霞立ち　梅は散りつつ

という万葉の歌を聞いてびっくりした事、外科医として毎日毎日忙しく医学の世界にのみ生きて来て、万葉歌一つ諳んじられず四十才を過ぎてしまった事、歌のリズムがきれいで心和んだ事、息子が小学生の時から何十首もの歌を暗誦できる事への羨ましさと知的な世界に生きていることへの感謝とお礼が述べられており、ぜひこの万葉の世界を続けていって欲しいと結んでありました。それを読んだ私の方が感動し、前述のように万葉歌の授業として本格的に取り組んでみょうと思ったのが、ひびき塾での万葉歌の授業の始まりです。

四千五百首もある歌ですから、まずは万葉歌が身近に感じられるようにと生徒達が毎日毎日眺める地元の筑波山を詠んだ歌から始めました。生徒達の感性のみずみずしさと、洞察力の鋭さ、創造力の豊かさには日々驚かされています。そして、万葉歌を学ぶようになってから、今まで気が付かなった自然や宇宙、人の心や歴史等に目を向け、歌の中で出会った事柄を更に知ろうと本を読んだり調べたりして自分の世界を広げている事です。次の資料は小学生の授業で使用した一部と生徒達の感想文を記しておきます。

「万葉歌の授業を通して」の資料と感想文

万葉歌ってどんな歌？

＊万葉歌は、今から千二百年ぐらい前の私達の日本人の先輩達が作った歌なんだよ。

＊この歌集の中には、日本の古いことばが歌になって、たくさんキラキラかがやいて詰まっている宝石箱なんだよ。

＊この古いことばと思っていることばが実は、今の私達の身のまわりで使われていて生きているものがたくさんあるよ。

万葉びとの心

＊万葉歌の中によまれている当時の人々の心の動きを想像したり、考えてみよう。（人間の喜び、哀しみ、楽しみ、苦しみ、淋しさ、その他、）

＊政治家、宮廷人、防人、読み人知らず、東国人の心のうちなど。

万葉の人達が、住んで居たころの情景

＊はるかなる飛鳥きよみが原に想いをよせてみよう。

＊私達の住んでいる周りをみてごらん。

筑波周辺の万葉歌

筑波嶺の　新桑繭（にいくわまよ）の　衣はあれど

君が御衣し（みけし）　あやに着欲も……・（東歌）

※新桑繭……・・新しく芽を出した桑の葉で飼った春蚕の繭

※あやに着欲も……・とても着てみたいなあ。

※繭…・・まゆをまよといっていた。

＊筑波周辺は、奈良時代に絹の産地でした。

＊この絹はどこかに運ばれて納められましたが、何のために運ばれて行ったのでしょうか。

＊奈良時代に絹織物を着ることが出来た人達は、どのような人達だったのでしょう。

＊桑の葉を見たことがありますか。

万葉歌には自然がいっぱい！

万葉歌の中には、次のものはどんな歌や姿になって表されていますか。

春・夏・秋・冬・花・鳥・草・木・風・雨・露・雪・空気・太陽・山・峠・夕陽・朝焼け・明け方・夕方・夜・など。

＊万葉びとの美意識（美しいと感じる心）ってなんだろう。

＊感じたことを文章にしてみよう。

＊歌を絵に描いてみよう。

今日の授業は今まで習った歌の中から右に挙げた言葉を一つ選んで自分の感じた事を文章にしてみよう。

僕と万葉歌

六年　　男子

万葉集の歌を勉強してから二年になりました。塾の送り迎えは、いつもおじいちゃんがしてく

れます。習ってきた万葉歌を帰りの車の中で、いつもおじいちゃんに教えてあげます。おじいちゃんは「なかなか覚えられないなあ。」と言いながら、今までに十六首も覚えました。おじいちゃんは、万葉歌を覚えるのが楽しいと言っています。いつも僕が、おじいちゃんに教えてあげているのに、一つだけおじいちゃんから教えてもらった歌があります。それは、山上憶良の「しろがねもこがねも玉も何せむに勝れる宝子にしかめやも」という歌です。おじいちゃんが、歌の意味を説明してくれました。「僕やおねえちゃんが産まれた時から裕一のお父さんもお母さんも、そういうふうに思って育ててくれているんだよ。」とおじいちゃんが言いました。奈良時代の人達も今の親達も、子供を思う気持ちは同じ思いで子供を育てているんだと強く思いました。

万葉の時間にいつも先生は、夕陽がきれいな日は夕陽を見てごらん。星がきれいな夜は星を見てごらん。風が吹く日は風の音を聞いてごらん。とよく言います。僕は十一月頃からの夕陽がきれいになるので見るようになりました。一月頃の夕陽が一年中で一番きれいです。夕陽が落ちても周りの空が真っ赤になって、だんだん暗くなっていく間が、いろいろな色に変わってとてもきれいで感動します。どうしてこんなに自然は美しいのかなと思う時があります。夕陽の中に神様がいるような気がします。星も見るようになりました。星の図鑑を買ってもらいました。星は冬がきれいです。首が痛くなるほど見ている時があります。時間をかけて良く見ていると、小さな星が見えてきます。こんなにたくさん空に星が有ったんだと気がつきました。柿本人麻呂の「東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ」という歌を習った時、先生が「かぎろひ」の話をしてくれました。科学が発達している今のスペクトルの研究でも、とても見られない美しい光の世界だそうです。柿本人麻呂が歌を作った奈良県のあきのというその所に行ってぜひ美しい「かぎろひ」を見てみたいです。先生いつかそこに連れて行って下さい。万葉歌を習ってから僕の知らない色々な世界がいっぱいあるのに気がつきました。万葉歌を声を出してすらすら言えた時は、とてもうれしいです。心もすっきりします。僕は学校で習わないことがいっぱい学べるので塾はかぜをひいても一日も休んだことがありません。こんど、鈴木君と成島君で何十首覚えたか競争しようと約束しました。三月の万葉歌大会が、楽しみです。

（つくば市・塾ひびき・布浦万代）

F．パソコン教室型

G．ピアノ教室型

H．そろばん教室型

I．習字教室型

J．バレー教室型

3．国立・私立中学高校受験指導型

志望校に合格させるために、かなりハードなカリキュラムを組んで受験指導に当たる型。当然、

受験情報は新しく豊富で、受験界をリードする自負に燃えた所が多い。進学相談は厳しくかつ熱心である。一般に偏差値と順位を刺激剤として、難度の高い学校に入れることを目的とする。

〔事例紹介〕

私の中学入試

私が中学入試に携わるようになって、４５年近くになります。かつての教え子たちの多くはもう大人になり、その子供や孫が塾に通うようになってきました。現在は一線を退いたとはいえ、このように長い年月私塾教育にかかわれたことを誇りに思い、ご父兄や子供たちをはじめとする皆様方にいつも感謝しております。

その長い年月の中で、いつのころからか、中学入試は、批判の的になってまいりました。知識偏重の教育は人格形成によくないとか、詰め込み教育は想像力を貧しくするとか、まことしやかな論調が、続いております。現在の教育の荒廃を招いたのは、詰め込み式の教育が原因で、なぜ詰め込み式がもてはやされるかというとそれは試験があるためだ、こういう論理が形を変えながらも常に言われてきました。

私も教育にかかわる人間として、このことはよくよく考えてまいりました。子供にはさまざまな子がいます。机につくのが１０分でもいやな子もいれば、２４時間勉強しても充実した満足を覚える子もいます。何年もいろいろなタイプの子供を見てきた結果、私の出した結論はむしろ逆といっていいものです。つまり、受験勉強は単なる目先の合格のためだけのものではない、むしろそれを活用することによって内容のある学習態度の育成や人格形成に役に立つものだということでした。

確かに子供の質は変化しています。私の見る範囲でも以前に比べて、忍耐力、集中力に欠けた子供の割合が増えてきています。しかしこれは、受験勉強の弊害ではなく、勉強の大切さが失われているからです。「よく学び、よく遊べ」とは昔から言われてきました。いまはその「よく学び」という部分がなくなっています。あまりにも遊びの部分が強調されすぎて、学びの重要性が軽視されているのです。子供にとって遊びと学びは大切さにおいて同じです。

学ぶという事について私が大切だと思う事がいくつかあります。

まず第一に健康であること、それから素直な心を持つこと、物事に積極的に取り組むことができ、忍耐力があること、けじめをつけることができることです。「聞く、読む、考える、あらわす」という学習姿勢を育てることが一番大切なのです。入試に強い子供は変化に対応できる子供です。知識を理解することも重要ですが、「自ら学ぶ」ことを定着させるほうが合格という目標に近くなるのです。

このように文部省の提唱している「新学力観」は私の考える教育に欠かせないものと極めて近いものです。初めて「新学力観」の話を聞いたときは、中学入試が評価されるようになったのか、と錯覚したほどでした。にもかかわらず、あいかわらず入試に対する批判はやみません。「詰め込み

教育」という入試を批判する言葉はいったいどういう状態をさしているのでしょうか。私の私見ではテストの点数で学力を測ることへの批判のように思われます。テストの点で人の価値を決めることができない、という点に関しては私も同意見です。しかし、点数は子供に状態を知る上で最高の客観的な資料なのです。継続して点の動きを見ていくことで、子供の状態や意欲をよく読みとることができるのです。なぜテストをもっと上手に利用しようとしないのかを疑問に思います。

最後になりますが、中学入試にかかわるものにとって一番頭の痛い問題である「学習意欲」を引き出す条件と私が考えるものをあげておきます。

第一に目標があること、第二にわからないことを気にしないこと、第三に家庭や先生を含め周りのよい理解があることです。

これは子供の教育現場だけでなく、社会のいろいろなところで応用できるものではないでしょうか。

いろいろと述べさせていただきましたが、これが長いあいだ小学生とともに学んできた私の思いです。中学入試の現場しか知らないため、偏っているところもあるかもしれません。ことに「遊びと勉強の違い（遊びも大切、勉強も大切、でも性格は違う、それは何か）」についてはさまざまな識者から意見を伺いたいところです。ご意見を皆倉先生宛にぜひお願いします。

（広島市・山口塾・山口恭弘）

4. 教科書中心指導型

5. 体験活動指導型

A. 工作教室型

働くこと、物を作ることを通し手、労働の尊さを体得させる型。人間の生活に対する子供たちの豊かな理解力を養う。消費文化に慣らされて育つ子供に、深い感動を与える。

B. 自然体験教室型

〔事例紹介〕

H13. 8月6，7日『無人島体験ツアー』を実施しました。中学生4名、高校生2名、指導員2名の計8名が参加し、NPO後援のもと、岡山県笠岡市にある【白石島】そして、無人島である岡山県青少年の島【梶子島】へと足を運びました。

中1の中村夕佳をリーダーに、サブリーダーとして中1、高橋みなみ、サポート役に、高1、高山竹洋と決め、2日前にリーダー中心に持ち物の確認・集合時間など話し合いを行いました。

当日、誰一人遅刻する者もなく集合し、塩尻から名古屋、新幹線に乗り換え岡山、在来線で笠

岡港から舟で白石島へと向かいました。朝6時半に出発し、午後1時頃予定通り到着することが出来ました。

もちろんこの移動では、≪与えすぎず、生徒が主役≫をテーマにすべてリーダーを中心に、指導員が口出しすることなく自分たちだけで行くことが出来ました。ただ、残念な事は、事前にまとめて切符を準備してしまったこと・生徒を焦らせてしまったことです。これは、少しでも海での体験時間を増やしたかったためで、じっくりやり間違っても失敗しても良いということが出来ませんでした。

白石島では、全員一致で「シーカヤックをしたい」ということになりました。二人一組でペアを組み、ライフジャケットを着込み、操作方法をプロの方に教えていただきました。多くの生徒がライフジャケットは初めてということで、楽しみと不安で非常に緊張していました。シーカヤックは、みんなすぐに扱うことが出来、4艘で近くの島まで向かいましたが、これが意外と性格が出るものだなあ、と感じました。慎重に漕ぐ者、スピードを出したがる者、陽気に歌を歌いながら漕ぐ者とそれぞれ楽しんでいました。青い海での開放感・爽快感・溺れないという安心感、最高でした。生徒の一番人気もシーカヤックでした。夜は雨の為、海岸の散策が出来ませんでしたが、トランプやゲーム・お話そして、一人ずつの反省会をして初日１１時頃床に就きました。

２日目は、朝6：00起床「いかだ釣り」を行いました。全員前の日はぐっすり寝れたようです。いかだ釣りは竿もエサもすべてお借りしました。エサはオキアミ、各自が自分でエサを取り付け、釣りを開始しました。中1高梁みなみ・中村夕佳の二人は特に悩んでいました。どうしたら魚が釣れるのか？エサはどうしたら簡単に外れないのか？非常に悩み、エサの付け方に大苦戦でした。昨年、魚がさわれなかった高山竹洋は自分で魚もはずしたりと、成長の跡が見れました。結果は、全員でフグを15匹、ベラ3匹、アジ1匹と1時間程でしたが、予想外の成果にみんな驚いていました。

朝食後は旅館を発ち、貸切舟でいよいよ無人島へ向かいました。無人島へは、20分程で着き、砂浜には板を船から下ろし、その上を渡って入島しました。水も電気もない無人島は非常に暑く、用意した4㍑の麦茶もアッと言う間に飲み干し、水不足にあいました。それでも、自分達で今朝釣ったフグを裁き、火をおこし、さざえの壷焼きやクロダイ・ベラ・アジ・牛肉・野菜・おにぎりをお腹いっぱい食べました。やはり、自分達で釣り上げたものを食べるというのは何とも言えないものがあります。

その後は、「宝探し」を行い、（ポイントラ＆景品を隠しました。）もう帰るのかぁという気持ちと早く水を飲みたいという気持ちを後に、信州への帰途につきました。

２日間、非常に慌しい旅でしたが、生涯２度と経験出来ないであろう無人島体験、人間関係を築くコミュニケーションをとる際の武器の一つになればいいなぁと考えています。

最後に、全員ケガ・病気もなく、無事帰宅しました。

主な最近５ヵ年の野外体験

1997	軽井沢自然体験
1998	新潟バス旅行
1999	箱根野外体験
2000	西伊豆野外体験
2001	無人島野外体験

（長野県諏訪郡・チャレンジ学院・松本紀之）

C．社会見学教室型

見学体験を通し知識を獲得したり知恵を磨いたりすることを目的として様々な活動を行う型。遺跡、博物館、美術館、水族館等

D．体験学習併用型

〔事例紹介〕

学級崩壊という言葉が出現し始めた頃、黒磯の中学で女性教師が生徒に刺し殺される事件が起こった。みんな真剣にやっているはずなのに、何故こんなことが起こるのだろう？これでは、死んでも死にきれないだろう？

わが塾でも従来の枠に収まらない自己中心的な生徒が増えてきた。親も無作法な人間が増えてきた。学力低下なんて、かなり以前からひどくなっている。なんとかしなければ！いや、自分の塾の生徒だけでもなんとかしたい！

長らく中断していた春休みのスキー合宿を再開することにした。何人かの講師を説得し、数年前過労で壊した身体を騙しながら、異学年の生徒たちと一緒に遊んだ。みんないい顔をしていた。

Ａ君は、宿題はやってこないけれど塾を休まなくなった。Ｂ君は、問題が難しすぎると文句を言わなくなった。Ｃさんは、初めてスキーができるようになり、おどおどした様子がなくなってきた。

子供達は、信頼できる大人たちの接し方によって変わるものである。気がついた人が、自分ができる範囲内で試行錯誤してみることである。

教育は、息の長い仕事である。成果は、二十年後・三十年後に子供達自身が判断する。

（大田区・杏村塾・松原秀典）

6．遊び主体型

子供の生活にとって重要な「遊び」を通して、子供の生き生きとした力を引き出そうと努めている型。遊びそのものに、大きな意味を見出すと共に、自然の中での体験を特に重視する。そのた

めに異年齢集団の形成を目指して、野外･屋内での活動を活発に行う。

7. 資格試験取得対応型

A．英検

〔事例紹介〕

基本的に当学院は英語数学中心でしたが、今後国立大学において理科社会内容についてのウエイトが増すため今後は特に化学物理に対しての指導をより強化するため現在その準備中。また相対評価ではなく絶対評価を実践するため英語、漢字、数学検定試験を行っています。

（千葉県船橋市・成央学院・杉山　央）

〔事例紹介〕

金沢ゼミナールでは、塾内ニュース(金ゼミニュース)をホームページ上に掲載することになって３年になります。電脳少年達の現在を、ＷＥＢ上で追ってみました。

金ゼミニュース８月号（平成９年）　小林君（葉山・長柄小学６年生）にインタビュー

インタビュアー 以下（イ）：まずは英検２級合格おめでとうございます。

小林君 以下（小）：ありがとうございます。

（イ）:小学校６年生といえばまだ学校で文法も習っていないはずなのにいったいどんな勉強をしていたのですか。あ、その前に、本当に今まで海外で暮らしたことはなかったの？

（小）：１～２週間の短期間旅行は何度かしたことがあります。留学したことはありませんが、家の近くに同じ年の外国の友達がいて、休みの日や学校が終わった後とかに仲良く遊んでいるのがよかったのかもしれません。

（イ）:小林君は英検２次対策講座を受けていますが、具体的にどんなことをしていたのか教えてください。

（小）：塾では学研「まなぶくん」の中２・中３コースと、パソコンで英検２級試験の模試を主にしていました。後はタコがでてくるのや・・

(イ)：耳タコランド？

（小）：そうそう、それからアメリカのニュース番組

（イ）：スーパー エルマーのＣＢＳコースですね。

（小）：はい。それをやりました。パソコンのトラベル英会話も練習しました。

（イ）：試験結果を見ると聴解力がよくできていますが、これらの教材で、耳慣らしをしていたのですね。前回の英検準２級の試験では、事前に家で過去問題集を３０回くらい練習したと聞いていますが、今回は家ではどのような勉強をしたのですか。

（小）：今回もかなり過去問題集をやりました。あと単語集も。それから家のパソコンでＴＯＥＩＣの模試も練習しました。

（・・・ＴＯＥＩＣというと、外資系の会社に勤める人達が英語力アップのために会社で受けさせられてるあの試験ですか！それを小学生が！？・・・）以上インタビュアー（上智大卒の女子）のつぶやき

（小）：準２級の試験に比べて長文読解が難しくて最後頭がゴチャゴチャになってしまいました。

（イ）：そうですね。試験結果を見ると確かに読解力は平均より下ですね。でも作文力は優れていますね。

（小）：今回は語彙熟語の問題が意外と楽にできました。

（イ）：まだ学校で文法も習っていないのに頼もしいですね。ところで準１級にも挑戦してみますか？

（小）：うーん、２級の試験が難しかったし、準１級・１級は中学校に入ってゆっくり様子をみてからにしようと思います。

（イ）：そうですね。ここまでがんばってきたんですもんね。準１級・１級はあとでゆっくりでいいですよね。ちなみにインタビュアーは高校のときいきなり一級を受けて落ちました。だから何級も持っていません。あ、関係ないか。

（小）：笑い

（イ）：ところで家ではインターネットを活用しているそうですけど。

（小）：はい、祖父と２人でインターネットを楽しんでいます。

（イ）：電子メールを送ったり、もらったりしているのですか。

（小）：送る相手がいないから電子メールはやっていません。もっぱらホームページをみているだけ。

（イ）：インターネットでホームページを見ていると、いきなり英語の画面になってダウンロードをどうのこうの尋ねてくることがよくあります。それに工夫を凝らした楽しいホームページも外国のものに多くあるし。インターネットを楽しむためにも英検の勉強は役に立ちますね。インタビューにご協力ありがとうございました。

小林君の英検合格暦

平成８年第１回（小学５年）英検５級合格

平成８年第２回（小学５年）英検４級・３級合格

平成９年第１回（小学６年）英検準２級合格

平成９年第２回（小学６年）英検２級合格

ちなみに、平成１３年春(高校１年)　ＴＯＥＩＣを受験し、７４０点取得。

（神奈川県逗子市・金沢ゼミナール・中村惇夫）

B．漢検

C．数検

D．パソコン検定

E．看護系資格

〔事例紹介〕

看護医療統系の受験生だけを対象にした模擬テストに充実した内容がないため、㈱日立物流ソフトに委託して、独自の看護医療統一模試を１１年１０月に開発した。１１年２回実施、１２年５回実施、１３年５回実施。受験生も着実に増え、また、高等学校でも採択してくれる学校が増えてきた。

小論文通信講座は１２年より実施。国語・数学・英語・生物は１３年７月から実施した。遠方で通えない方のニーズに応えたいためである。

一人ひとりの生徒が目的意識をしっかりもって入会され、みな真剣に学習する。それが結果として９０％を超える驚異的な合格率に結びついている。しかし、学力差は相当に激しく、教材の内容、指導方法を相当綿密に組み立てないと全く授業にはならない。特に社会人は、一流大学の出身者と学力困難校の出身者とが在籍するので指導も容易ではない。

中学生対象の塾に置き換えれば、オール１とオール５の生徒を同時に面倒を見るといえば、その困難さが想像できるだろう。

幸いにしてスタッフの講師には恵まれている。大学院博士課程終了者が何人も応募してきたり、予備校講師が応募してくる点は塾との大きな違いでもある。また、模試の問題作成や教材作成スタッフも経験豊富な優秀なスタッフが応募してくる。

看護・医療系の進学先も専門学校よりも漸次大学志向が高まっている。特に現役高校生にはこの傾向が顕著である。社会人はすでに大卒であったり、ともかく資格をとることを第一の目的にしているので学校の種類にはこだわらず、授業料が安い国公立の専門学校を目指す方が多い。いうなれば、傾向が２極分化し始めている。この結果は言わずもがなのある。専門学校は現役高校生を集めることが次第に困難となるであろう。推薦入試で早めに受験生を確保するから内申点のいい高校生は有利である。具体的名称をあげるのは差しさわりがあるので活字にはできないが、大学病院附属系の専門学校も結構学力の低い生徒が入り始めている。逆に国公立の大学は受験生が集まり、難化している。国の政策として看護婦の合格者は今後４万人前後で推移すると予想されるので、合格率も今より低下するだろう。ちなみに平成１３年は合格者４万６２５名、合格率84.1%。学力の低い生徒が専門学校に集まるので専門学校の合格率はさらに低下し、この悪循環が始まると大胆に予測しておく。

不況の波にさらされ、30歳過ぎの独身女性はどこに身を寄せればいいのか。独りで生きていか

なくてはならないことを本能的に察知しているのであろうか。専門家としての資格を持つ。手に職を持つ。一生働ける仕事を探す。この結果行き着いた考えが看護医療職である。しかし、現実は厳しい。受験校の年齢制限。学力とのギャップ。入学後の自活。さまざまな障害と戦いながらそれでも看護医療職の道を目指す女性は後を断たない。運良く入学ができ、晴れて卒業して看護婦の国家試験に合格しても、彼女らは国立病院・大学病院の就職の道が困難なことをどこまで知っているのであろうか。看護婦の応募者の少ない個人病院やいわゆる町の診療所に就職する。ここでもまた、日本の特徴の二重構造が姿をあらわす。

（千葉県柏市・看護進学進学会・小林和光）

8. イベント型

〔事例紹介〕

ナカジュクは、比較的イベントの多い塾だと思う。『スキー合宿』『自然体験合宿』『学力コンテスト』年２回。『漢字コンテスト』年２回。『J－フェスタ』年２回。『クリスマス会』『豆まき』などがある。どれもかなり思考を凝らし、エネルギーを注いで行う。

『J－フェスタ』（“J”は「じゅく」のJ）では、事前にかなり打ち合わせをした上で、当日早朝から集合し、準備をする。午前中、春は畑を耕しサツマイモの苗を植え、秋は収穫をする。午後からは幼稚園の園庭を使って、講師の先生や卒業生が模擬店やゲーム屋さんを出し、最後は全員でいろいろなゲームをするのだが、お店も１５店舗位出るのでかなりにぎやかで本格的。お祭り気分が味わえる。当初は「ナカジュク祭」と言っていたが、他の塾からも参加しやすいように名称は変更した。

『スキー合宿』『自然体験合宿』とも、今年は参加者が過去最高となった。

夏の『自然体験合宿』は、福島の「トムソーヤ」という施設に毎年行く。これは、ＪＫＫの気の合う仲間５人で共同取得したもの。主な行動内容は、１日目「釣り（それを食べる）、昔遊び（だるまさんが転んだ、手つなぎ鬼など）、闇鍋、花火、星の観察、肝だめし」。２日目「早朝散歩、農家訪問（野菜採集、肉牛の見学、しいたけの木組みなど）、カブトムシの観察、バーベキュー、木焼き、竹細工、カレー作り、キャンプファーイヤー（レクレーションがおもしろい）」。３日目「山登り（かなり急な山）」。ちなみに今年最も生徒の印象に残った行事は、「昔遊び」と「山登り」だった。

各行事とも内容が盛りだくさんなので、生徒を管理するのが大変ではないかと言われることが良くあるが、あまりそれを感じたことはない。それは、おそらくあまり規則がないからであろう。でも、必ず２つのことだけを守ってもらう。１つ目は「時間厳守」２つ目は「先生が話しているときはおしゃべりをせずに聞く」ことだ。消灯時間なども一応決めるが、何時まで起きていても注意することもない。但し、起床時間には必ず起きてもらう。でも、夏の合宿ではかなり体を動

かすメニューがあるので、消灯時間にはほとんど寝ているのが現状だ。

この２つのことが守れれば自ずと管理が楽になる。というより管理しなくて良いのだから。でも、第３者が見たなら、結構規則正しく行動しているように見えるのでないだろうか。以前こんなことがあった。移動の休憩時間にゲームに夢中になって時間を過ぎてもバスに戻って来ない生徒がいた。しょうがないのでバスを出発させた。少しするとバックミラーにその生徒が全力疾走している姿が見える。５００メートル程車を走らせた後、バスに乗ることができたが、かなり懲りたようだ。ちなみにバスの運転は私が担当。

最近、ナカジュクのホームページを見ての問い合わせは、このような行事への興味を示してくれたものが増えてきた。そして、質もかなり高い子が来る。「ゆとりを持って、中学受験ができる子」と言った方がわかりやすいだろうか。

ナカジュクでは、講師間のイベントも多い。具体的には、毎日の授業後ミーティング、２ヶ月１回の『L. U. C』、年２回の『講師研修』、年１回の『講師全体の旅行』、と『職員旅行』である。その他各教室単位で、独自にミーティンが行われている。年１回の職員旅行はみんなが、がんばってくれた見返りとして、かなり贅沢をする。

『L. U. C』（ラック）とは、『Level Up Club』の省略で、講師が中心となって行う研修だ。担当者が自由テーマで研究発表するもので、この研修を始める以前より、何かみんなで学んでいけるようなものがないかと試行錯誤していたところ、あの山一證券が倒産する出来事があった。社員の中には職を失って路頭に迷う人と、逆にサラリーアップで再就職していく人もいるなど、明暗が分かれたと聞く。そして、このことは私を含めて、誰にでも起こりうることなのである。そしてそのようなことになった時、あるいは学生ならば就職活動をするとき、自分の持っている能力はどういうものなのかを、この研究発表することによって再認識していこうという発想から始まっている。つまり、単なる知識の共有ではなく、発表した者がレベルアップしていく会で、現在は、他塾や他業種の方にも参加していただけるようになっている。

今までのテーマを数例あげておこう。

「相対性理論とタイムマシン」「首都機能移転について」「月の魔力～竹取物語～」「やさしさについて」「英語教育」「マクドナルドの秘密」「自己を知る～使える心理テクニック」「美について」「学力不振（英語）について」「ディベート」「あなたは本当にあなたですか」等など。発表者は原則として立候補だが、今のところ１年後の発表者まで決まっている。

ナカジュクのイベントは全てスタッフの一人が責任者となって、全員一丸となって行われる。そして、若いエネルギーはすばらしい行動力と、創造力をもたらし、さらに生徒が加わり大きな活力となっていく。とても楽しいものだ。

（板橋区・ナカジュク・仲野十和田）

(7) 指導方法による類別

1. 無学年型

同一教室に異なった学年が集まって勉強する型。本人の学力、性格等に基づいた教科過程をとる指導形態である。

A. 個別指導型

それぞれの課題に一人一人取り組んで、教師の指導を受ける型。他の生徒も集まっているから、自主性と協調性が求められる。それ自体にも教育的意義を認めることができる。

〔事例紹介〕

教室は静かな住宅地のワンルームマンション6畳1間なのだが、壁際の書棚やパソコンラックで実質床面積は4畳半。そこに3人掛け会議用テーブルが2列平行に並び、5名前後の生徒が2～3人づつ向きあって座る。(BGMは主にハイドンとモーツァルトの全集)

漢字を覚える小学4年生の隣りで、不登校の中学3年生が2次関数の問題を解く。向いの席では学校大好きの大学受験生が英文読解の難問をすらすら解く。その隣りで40代の看護婦が看護学校の化学に取り組み、通信制高校生が日本史のレポートに励む。

その間を私が行ったり来たりしながら、生徒一人ひとりの鉛筆の先端の動きを凝視し、リアルタイムで丸を付けていく。

同時に「先生、あのね…」で始まる生徒たちのさまざまなお話——進路や自分自身の問題、友達や親や学校の先生との間に起きた嬉しかったことや悲しかったこと——に真剣に耳を傾け、相鎚を打ち、感想や意見を述べる。

家庭教師の個別指導を5人同時にやる要領である。小中高・英数国理社の授業を1人で行いながら、突然かかってくる不登校の親の電話相談に応じる……これが私の塾の授業風景である。

(東京都目黒区「toBe 学習援助室」本田哲也)

B. 一斉指導型

年齢に関わりなく、各々の到達度に基づいたクラスで授業を受ける型。課題に応じて一緒に勉強する方式もある。

2. 選択型

学習時間・学習課目・担当教師などを生徒の自発性を自主性に委ねて選択させる型。

A. 教科選択型

単科でも塾の授業が受けられる配慮をしている型。

B．クラス選択型

生徒個人の関心と力量に合わせて、クラスを選んでゆける型。

C．講座選択型

病気にみあった医者を患者が選択するように、生徒が「自分の勉強したいところ」だけを選択して受講する型。

3．課題解決型

〔事例紹介〕

現在の学校教育の問題点は、学校での勉強が子どもたちの頭の中で学校知という形で閉塞的な知識の貯蔵に陥ってしまっていることである。もとを正せばこれまでの歴史における日本の地位およびそれに規定された経済政策とも絡むものであるが、とにかく知識の注入と貯蔵とにとどまり、それをテストというフィルターにかけて順位を決め、それで立身出世が決まると言う社会構造になっていることが問題である。社会の流れは、徐々に改善の方向にあるが余談を許さない。

いまの学校教育における最大の問題点は、教師は教える人、生徒は教えられる人といった具合に、全面的に生徒が受動的立場に立たされており、自ら学ぶという能動的姿勢を育てるという視点が弱いことである。このままでは、知識をなんとか吸収してもその知識を組みたててもう一つ上の高い次元へと飛躍する、あるいは創造するという行為に結びつかないのである。したがって、どうしても注入される知識を覚えることに集中し、挙げ句の果ては答えは何かだけを気にする子どもになってしまう。この点を克服するためには、教えることを極力抑え、解答をなるたけ要求しないで、何が問題なのかを考えさせることである。それは、何も教科の勉強の時間だけに限られることではなく、むしろ休み時間や授業の前後の時間における雑談の中においても多いに活用すべきである。時事的問題や趣味にまつわる話題の中に宝はいっぱい詰まっている。それをどのように拾い上げ生徒に投げ返すかは、教師の力量にかかっている。

［具体例］中２の授業：

＜エステの広告チラシ１枚を用意して、これを見てどんなことを感じるか、または思うか。＞

収拾つかなくなるほどの議論が湧き起こる。初めやせてる方がかっこいいから絶対にやせたいと同調していた女子生徒たちが、男子生徒を中心とする、減量は体に悪い、拒食症になって死んだ人もいる、こんな広告はうそが多い、運動したり食べ過ぎに注意してりして自分で自分の体は管理すべきだ、なぜ太ってるのがいやなのか、太ってることは悪いことか、それは差別ではないか、周りに振りまわされている、と言った意見に押されて、次第に考えを変え始めてくる。

結論がある問題ではないが、エステには疑問点が多いと感じている生徒が多いのは事実。ただ、個人の好みとか趣味といった点を含む問題であることを見落としている議論であることを、注意

してやるのは教師の役目であろう。「茶髪は、ピアスは、イアリングは許されるか」という問題の時も同じである。「校則」がこれに絡むとさらに激論となる。ここからは、大人たちが自由な雰囲気の場を子どもたちに提供すれば、子どもたちはいろいろと考え、意見を発表するものであるということがわかってくるはずである。

（千葉県千葉市　京葉学舎　塾長・皆倉宣之）

〔事例紹介〕

ナカジュクでは、おそらく塾に携わっている大方の人が嫌うであろう、「子供や親のニーズに合わせる」ことに心がけている。生徒や保護者が希望することに対してできるだけ対応できるようにするのだ。確かに不本意なことも多いが、不思議と誠意を持って対応していけば、頑固な考えも変わることがあるからおもしろい。

例えば、保護者面談の際に、相手の方の考えが、多少おかしいと思っても一応受け入れる。以前は「親を変えなければ…」と気負い、挫折感を味わったこともあるが、そもそも「親を変えてやろう」という考えが、力不足の自分には無理だったのである。今、ナカジュクのスタッフの共通認識は「塾に来て、子供が変われば、親も変わっていくもの…。ニーズに対応していこう」だ。つまり、行き当たりばったりの塾なのである。それと、スタッフひとり一人に塾のポリシーを浸透させ実行、管理していくよりも、起こりうることに対応していくほうが、指導力、教育力とも自ずと身に付く。何よりも塾長が楽できる。

また、スタッフから生徒の指導、授業の仕方などの質問を受けたとき、基本的にその先生の意見を聞き、余程のことがない限りその意見で、実行さすようにしている。その先生の持つ個性や性格があるのだから、必ずしも他人が成功した方がそれぞれの先生に適しているとは限らないからだ。

以前こんなことあった。ある教室長が真剣に悩みを打ち明けにきた。内容はこうである。『授業中、教室が騒がしい。自分は生徒を押さえつける力がないのでどうしたらよいか。塾長が来ると静かになるので今よりも多めに来てもらえないか』といったもの。その教室長は気弱な感じだが、生徒や保護者からの信頼は高い。私は次のように言った。「自分は面倒くさいから威圧して生徒を静かにさせるが、君はそれが無理なら、例えば、一人ひとり話し合いの場を持って生徒が集中して勉強できる環境を作っていけばいいじゃないか。何も人と同じようにやろうと考えなくてもいいよ。もし、自分が行って一時収まっても、根本的な解決にならないし、室長の指導力が逆に問われてしまうよ」

その後、２週間くらいかけて問題の多い生徒一人ひとりと話し合いの場を持った結果、以前とは見違えるような教室になった。

確かに、スタッフの判断がおよそ失敗するだろうとわかっていることも多々ある。だが、これは生徒の学習指導の際もそうであると思うが、間違えそうなときにあえて口は出さずに間違えるところを見守ってあげることが大事なのではないだろうか。でも時として、失敗するであろうと

思って見ていたら、意に反してよい結果をもたらすこともある。大変嬉しい誤算だ。

教え方も決まっていない。もし教え方がわからなかったら、授業後のミーティングで話し合う。1つの回答の出し方でも数通り出てくることもある。ナカジュクではどれを採用するかみんなで決める。一応決定権は教室長が持つが（そうでないと場が収まらないことがあるので）。新しい発見があるから、講師の先生たちも面白いようだ。もちろん、生徒からの意見も反映される。

ナカジュクでは、心掛けていることが2つある。1つは「サービス業であること認識すること」。ナカジュクの最初の研修は電話のとり方に始まる。ナカジュクを訪れたら玄関での対応から、かなり心地よいものを感じるのと思う。もう1つは、「言ったことは必ず行うこと」。生徒や親と決めたことはどんな小さなことでも実行し確認する。このことは当たり前のことのようだが、とても難しい。しかし、この2つのことが実行されると、かなり理想に近い塾になると思っている。

（板橋区・ナカジュク・仲野十和田）

〔事例紹介〕

3．「問題意識」を育てるとは「問題解決」の経験を積み上げていくことです。
しかし、今「問題解決」を言う人たちが、その目的を「問題意識」を育てることだとわかっているとは思えません。

＊現実社会とふれあうために、また自分の個人的な経験をより広い社会的な視点から考えるためにも新聞は欠かせません

＊一方的な講義ではなく、大学のゼミ形式で行っています。
生徒が報告し、生徒間で質疑応答し、最後の教師のコメントがあります。
生徒の主体性を尊重しながら、いかに最大限に生徒の力を伸ばすかが教師の腕です。

＊当然個人的な相談にも乗り、個別指導も行います。少人数でゼミ形式であり互いに「選択」した者同志であれば信頼感が強く「家庭的」になります。実際の家庭以上でしょう。

（東京都文京区・鶏鳴学園・中井　浩一）

4．ＮＩＥ（教育に新聞を）導入型

〔事例紹介〕

ＮＩＥとは、Ｎｅｗｓｐａｐｅｒ　Ｉｎ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ（教育に新聞を）の略称であるが、当塾では塾を始めた当初より新聞記事の活用は欠くことのできないものとなっている。もちろん、学校と違ってそのための時間を特別にとる余裕がないので、いろいろな工夫をして新聞を授業の中で活かすという程度である［したがって、項目（8）の3Ｆと同じと考えてよい］。

たとえば、①大きな事件が起きたとき、どこで、どういう原因で、その結果がどいう影響を与えるか、その防止策は何か等々、一緒に考えたり調べたりする。そして、もっとも大切なことは、

塾で完結するのではなく、これを家庭に持ち帰って家族で話題にすることである。そうすることによって、新聞を読むという習慣が芽生え、テレビのニュースへと目が向くようになる。親子間の対話が活発になるという副産物の方が大きいとさえいえるようである。もちろん、学年によって内容の深さは異なる。中学生は地理や歴史と関連付けられるし、中３は公民と絡めて政治・経済・社会のあらゆる範囲に及ぶ。ここでは、教科書をベースにしながら、そこの記述がどように日常と具体的に関わり合っているのかを証明する場となっている。そうすることによって、知識が単なる暗記の対象から日常生活の中で生きた道具となることを理解することになる。知識を日常と結びつけてとらえることがわかると、学びが生きることと繋がってくる。こういうことを会得できた子どもは、もはや塾へ来る必要などないといっていいだろう。

②記事を読むことは、語彙を増やすことに繋がる。新聞の大きな見出しは、漢字を理解するのに役立つ。見出しの漢字だけをＢ５用紙１枚に２５問ほどプリントして与えると、かなり興味を持って取り組む。たった１行の見だしから（たとえば、「タリバーン　身柄引渡し拒否」とか「疑惑の牛、狂牛病『クロ』」といって具合に）いろいろな事を連想しながら解いているようである。時事問題と漢字とが合体しているのである。

なお、高校生の論文対策として欠かせないのが、社説であり、夕刊の文化欄である。論文あり評論あり随筆ありと言った具合で、いま何が社会で問題となっているのかと言ったトピックな課題を提供してくれるので、物事を論理的、哲学的に考える素材として重宝している。

③記事は絶えず最新のニュースを届けてくれる。理科に絡むものとしては、最新の科学情報がある。世界中の最先端をいく科学上の発見や取り組みなどの情報は、生徒の興味を惹くことが多い。

（千葉県千葉市・京葉学舎・皆倉宣之）

5. 教えない教育型

〔事例紹介〕

以前は学習者（生徒）の内発的動機を促そうと、５人から７人の同一学年少人数クラスで、一斉授業と個別対応を併用しながら、勉強が楽しくなる塾を実践していました。このとき、いつも気になっていたのは、楽しい授業のときは勉強しても、楽しくない授業のときは学ぼうともしない学習者の存在でした。そして、「塾があるから勉強する」「その先生がいるから勉強する」という学習者の存在も気になりました。ですから、そういう学習者たちは塾に来ているときだけ勉強して、家ではほとんどしません。そんな塾依存の学習者たちを、私は「塾っ子」と呼んでいますが、「塾っ子」の生まれる背景には、親切にわかるように教えることを善しとする「教え好き教師」の存在があることに気がつき、「教える教育」そのものを問い直すようになって、「教えない教育」を実現可能にする教材作りに着手したのが２１年前のことでした。

教えられることで、学びが受動的になってしまった学習者を能動的学習者にするためには、学ぶものを自分で決めて、自分の課題がどこにあるか、自分でわかる教材が必要だと思ったのです。このことが実現可能な教材の開発には、１０年の期間を要しました。しかし、教材（以下、らくだ教材と呼ぶ）ができてみると、「教えない教育」には教材だけでなくコーディネーターの存在が必要不可欠であることが見えてきました。そこで、更なる試みとして、１９９１年1月から、コーディネーター養成の講座をスタートさせた結果、現在ではこの１０年間で全国５０地域でらくだ教材が使われるようになっていきました。私が主宰するセルフラーニング研究所（スクールらくだ）で、これまでらくだ教材での学習を体験された方は、３歳から７８歳まで約２８００人に及んでいます。その内訳は幼児１割、大人１割、不登校１割、中高大で１割、残り小学生なのですが、学習者を「塾っ子」にしない方法として、週何回通塾しても、何科目学習しても、月謝が同じというシステムを考えました。このシステムのおかげで、塾に頼らず、自分で学べるようになればなるほど、塾に通う回数が減って、学習効果が上がるという現象が起きています。最近の出来事として、２００１年１０月からはモンゴルでもらくだ教材を使っての学習指導がはじまろうとしています。

（東京都文京区・セルフラーニング研究所・スクールらくだ・平井雷太）

6. スパルタ式型

妥協を排して厳しく方針を貫き、生徒を決して甘やかさない型。特に、努力をしないもの、怠惰な者などを厳しく諭す。

7. イメージ学習型

瞑想や音楽の効果等によって、頭と心を落ち着かせて、素直に物事を理解･吸収させる型。

8. 学力別クラス編成型

学力別クラス編成によって、子供たちのレベルに合わせた授業を行う型。子供の競争心を刺激するためのものもあれば、より深く、親切に指導できるようにする目的のものもある。

9. 家庭学習支援型

塾を、家庭内での学習のためのペースメーカーとして考え、自主学習の方法を体得させようとする型。

10. 通信添削型

郵便やファクシミリを用いて、家庭にいる子供の学習指導をする型。通塾しないで勉強できる利点がある。遠隔地の生徒や通塾に困難のある場合、行き帰りの不安などの解消にもなる。

11. 合宿型・・・野外体験型（シーズン型、通年型）

合宿生活による指導効果を取り入れた型。シーズン型と通年型とがある。事故防止には厳しく臨む反面、「大らかさ」もあわせもって行う例が多い。

12. 家族的雰囲気型

文字通り家族のように交流して指導にあたる型。一緒に食事をしたり、ティーブレイクの時間を設けてわけへだてなく話し合ったりする。それぞれの「家風」を感じさせ、子供らが心底よりなじんでくれる。

13. カウンセリング型

問題を抱えている子供に対して機敏に対応。教育的な、医学的な、心理学的な見地から個別相談を行って、適切な助言を与える型。個人的接触を保って、その後の経過を把握。種々の悩みに、子供の内面を重んじて、ていねいに取り組む。

〔事例紹介〕

私たちペス学習情報ネットワークは京都において20数年間、幼児教育から大学受験までの個別指導の専門教室を運営してまいりました。

現在は教室の拠点を岡山に移し、当地京都においては私たちペス学習情報ネットワークの内部スタッフと外部ブレーンのネットワークによる、400 件以上の実績を持つ教育関連専門の情報提供大手塾・予備校・私立学校に至るまで幅広いコンサルティング活動をしています。

そこで、私たちのこれまでの教室運営活動と教育関係のカタカタに対する情報提供コンサルティング活動から得られた経験が「どう学習に取り組んだらよいか」と考えていらっしゃる皆様のお役に立つのではないかという思いから「学びの何でも相談室」をボランティアで開設することになり、毎日の業務活動と並行して取り組んでおります。

さらに「学びの何でも相談室」でのご相談を通し得られた情報を、私達が関与する教育関係の方々へフィードバックすることにより、皆様と教育関係の方々を健全に結ぶコーディネーターとして社会に貢献したいと願っております。

（京都府京都市・ペス教育共同体・久保田邦義）

14. 寄宿舎型

生徒が塾舎で起居して学校に通う型。

生徒全体を塾側でコントロールできるため、集中的に勉学指導が行えるし、生活指導も文字通り徹底できる。

15. 地域密着・教育相談型

教育に対する悩みを抱える人々の相談に応じ、教育者としての経験に基づいた助言をする型。入塾意志に関係なく奉仕する。

〔事例紹介〕

文庫のある塾

「ねえ、もう推理小説飽きたんだけど、何か面白い本はないかなあ」

「それなら、これはどうかな、『ゲド戦記』。推理小説の次に入る世界としてファンタジーは順当かも。読みごたえがあるけどね」

「ふーん、なんだかよく分からないけど、まあ、読んでみっか」

こうして亮介君は、その日は『ゲド戦記』を借りて帰って行きました。

「あーあ、とうとう『はてしない物語』を読み終えたわ。おもしろかった！これまでで最高におもしろかった。本の成績をつければ5のプラスよね。今度は何にしようかな・・・」

「エンデの本がおもしろかったのなら、これはどうかな。『ジム・ボタン』だ。『モモ』もいい。時間どろぼうの灰色の男たちと、小さな女の子が対決する物語だよ」

「じゃ、全部読んじゃおう」

樹里さんは、本棚にあったエンデの本をとうとう全部読んでしまいました。

これは、別に図書館のカウンターでのやり取りではありません。私たち夫婦の経営しているささやかな学習塾での一コマです。私が教室に本を置き始めてから１２年ほどたちますが、授業の時間を３０分ほど割いて「読書」を勧めるようになってから、本を仲立ちとした子どもとの会話が増えてきました。

１５年前に塾を始めた当初は、ただ勉強を教えるだけの、ごくごく平凡な塾でした。勉強のわからない点を補ってあげれば、それで塾の役目は充分だと考えていたのです。そんなある日、教室で子どもと話している時に「自分の家には本がない」という言葉を聞いて、私は非常にショックを受けました。その子の家には、いわゆる「本」というものがないのだそうです。自分も本を読まないし、親が本を読んでいる姿を見たことがないと、彼女は平気な顔をして話していました。

私にとって、読書は、食事をするのと同じようにさり気ない生活の一部でしたので、彼女の言葉を聞くまでは、子どもの読書環境など、特に気にもとめておりませんでした。週に何冊か、忙しい時でも月に何冊かは、本を読むだろうし、読んでいるはずだときめつけていたのです。ところが、子どもたちに根掘り葉掘り聞いてみると、驚くような実態が次々に明らかになってきました。家庭に本が乏しいのは目をつむるとして、学校の図書室が機能していないことには絶句して

しまいました。本との出会いが子どもに与える影響を考えれば、学校の中でもとりわけ大切な場所だと思うのですが、実際の運営は実にお粗末なのです。貸し出しカウンターに人がいないことが多い上、学校によっては、鍵がかけられたまま、開かずの間のようになっている場合もあるのですから。家庭が駄目、学校が駄目なら、仕方がない、塾に本を置いて子どもたちに勧めて行くしかないだろうと思い立っての文庫開設でした。

文庫開設から１２年、子どもたちの間に読書は静かに浸透してきています。子どもたち同士で本の情報交換をして、上手に本を選べるようになってきましたし、教室に来ると自然と本棚の前に立ってその日に読む本を物色しています。中には、授業の始まる前にやってきては、静かに本を読んでいる子もいます。本の好きな子は個性的で、おもしろい子が多いのですが、学習面でも安定した印象を受けています。中には、読書の時間を削って勉強した方が・・・と思う子もいますが、私の塾ではその言葉は禁句なのです。入試に落ちても死ぬことはありませんが、本を読まないで成長した子は、心の栄養が足りずに魂が枯死するかも知れない。それなら、本を読んで潔く試験に滑った方がその子のためだ、と考えています。

塾内での文庫活動が軌道に乗ると、私たちは、読み聞かせのボランティアサークルに入り、地域の幼稚園や保育所にお話のおじさん、おばさんとして出かけるようになりました。今では、紙芝居や手品を抱えて園児たちの前に立つのが、すっかり生活の一部となっています。

最近は、不登校の生徒が塾に訪ねて来ることも増えてきましたが、静かに本を読むという雰囲気は、不登校の生徒たちにもフィットするようです。

ここ数年は、毎年のように不登校の生徒が塾生となっています。思わぬ副産物なのかも知れませんね。

（茨城県那珂郡・頌栄学院・小山　哲司）

16. 日曜教室活用型

朝から授業のできる日曜日を活用する型。

補習の専用として教室を開く例もある一方、日曜だけ教室を開く例もある。

17. 日曜テスト型

18. テスト参加型

塾参加形式の業者テストに参加して、井の中の蛙となるのを防ぎ、塾生の学力の客観的データを求める型。

業者テストは、レベル・内容面でそれぞれ異なる。自塾に合ったものを選択し、テストに対す

る適応力をつけるために積極的な指導をするところが多数ある。

〔事例紹介〕

看護医療統系の受験生だけを対象にした模擬テストに充実した内容がないため、㈱日立物流ソフトに委託して、独自の看護医療統一模試を１１年１０月に開発した。１１年２回実施、１２年５回実施、１３年５回実施。受験生も着実に増え、また、高等学校でも採択してくれる学校が増えてきた。

小論文通信講座は１２年より実施。国語・数学・英語・生物は１３年７月から実施した。遠方で通えない方のニーズに応えたいためである。

一人ひとりの生徒が目的意識をしっかりもって入会され、みな真剣に学習する。それが結果として９０％を超える驚異的な合格率に結びついている。しかし、学力差は相当に激しく、教材の内容、指導方法を相当綿密に組み立てないと全く授業にはならない。特に社会人は、一流大学の出身者と学力困難校の出身者とが在籍するので指導も容易ではない。

中学生対象の塾に置き換えれば、オール１とオール５の生徒を同時に面倒を見るといえば、その困難さが想像できるだろう。

幸いにしてスタッフの講師には恵まれている。大学院博士課程終了者が何人も応募してきたり、予備校講師が応募してくる点は塾との大きな違いでもある。また、模試の問題作成や教材作成スタッフも経験豊富な優秀なスタッフが応募してくる。

看護・医療系の進学先も専門学校よりも漸次大学志向が高まっている。特に現役高校生にはこの傾向が顕著である。社会人はすでに大卒であったり、ともかく資格をとることを第一の目的にしているので学校の種類にはこだわらず、授業料が安い国公立の専門学校を目指す方が多い。いうなれば、傾向が２極分化し始めている。この結果は言わずもがなである。専門学校は現役高校生を集めることが次第に困難となるであろう。推薦入試で早めに受験生を確保するから内申点のいい高校生は有利である。具体的名称をあげるのは差しさわりがあるので活字にはできないが、大学病院附属系の専門学校も結構学力の低い生徒が入り始めている。逆に国公立の大学は受験生が集まり、難化している。国の政策として看護婦の合格者は今後４万人前後で推移すると予想されるので、合格率も今より低下するだろう。ちなみに平成１３年は合格者４万６２５名、合格率84.1％。学力の低い生徒が専門学校に集まるので専門学校の合格率はさらに低下し、この悪循環が始まると大胆に予測しておく。

不況の波にさらされ、30歳過ぎの独身女性はどこに身を寄せればいいのか。独りで生きていかなくてはならないことを本能的に察知しているのであろうか。専門家としての資格を持つ。手に職を持つ。一生働ける仕事を探す。この結果行き着いた考えが看護医療職である。しかし、現実は厳しい。受験校の年齢制限。学力とのギャップ。入学後の自活。さまざまな障害と戦いながらそれでも看護医療職の道を目指す女性は後を断たない。運良く入学ができ、晴れて卒業して看護

婦の国家試験に合格しても、彼女らは国立病院・大学病院の就職の道が困難なことをどこまで知っているのであろうか。看護婦の応募者の少ない個人病院やいわゆる町の診療所に就職する。ここでもまた、日本の特徴の二重構造が姿をあらわす。

（千葉県柏市・看護進学会・小林和光）

19. テスト中心型

テストが平常の授業の中心となる型。大量のテストをこなすことで力量をつけようとする。

20. 保護者面談型

教育における父母の立場を重視。面談によって、父母・家族との関係を緊密にし、相互の理解を深めて、子供の教育の円滑化を図り効果を高める型。

日曜や夜の家庭訪問で、個々の親と一時間面談を連日実行する塾もある。

〔事例紹介〕

子どもの教育において保護者の影響力は決定的であると考えます。そこで子どもの教育では保護者との連携、相互理解が欠かせないと考えます。

毎学期『塾通信』を保護者に向けて出したり、年に1回は保護者会を設けているのはそのためです。

今の保護者は子どもとどうコンタクトして良いか分からない人が多いのです。ですから年に1回は保護者会を設け、一般論だけでなく個々人の報告をし、保護者の意見も聞きます。そして保護者に「子どもと向き合うことから逃げず、きちんと自らの生き方を示し、対決して欲しい」と訴えています。親との対決なしに育った子どもは、問題意識を持ちにくいようですから。

（東京都文京区・鶏鳴学園・代表・中井浩一）

21. 成績序列型（毎回テストによるクラス編成。席順も成績順位で決める）

主に塾内テストの成績によってクラスがえを行ったり、座席を決める型。クラスと席順によってその子の順位が一目でわかる刺激型。

22. 得意科目育成型

23. 志望校別クラス編成

24. 文武両道型

〔事例紹介〕

１９８０（昭和55）年――北辰館スクール設立。当初から柔道場を併設した文武両道塾としてスタートした。道場の広さは創設当時の講道館と同じ 12 畳である。怪我防止のために四方の壁にダンボールを立て掛けるなど、今思えば、かなり劣悪な環境であり、無謀な道場開設であったかもしれない。時に小生 26 歳。初年度の塾生は 30 名程、そのうち柔道の門生を兼ねたのはわずかに 5 名であった。その後、毎年、新たに入門する門生は 4 、5 名から多くても 10 名程度であった。これは今でも変わらない。

１９８２（昭和57）年――11 月 23 日、小生が社会人になってから入門し、当時、北辰館の親道場であった天野道場に、初めて門生二人を連れて稽古に行く。1 年近くにわたって師一人弟子一人の稽古が続いたことがあった。原因は小生の稽古が厳しすぎた事に尽きた。彼はそれによく耐え抜き、後に見事初段を獲得した。

１９８９（平成元）年――春の大会で門生が 3 位となり、初めて我が北辰館の門生がメダルを獲得する。

１９９０（平成 2）年――2 月、隣の土地と建物を購入し、塾舎を拡張する。11 月 23 日、北辰館スクール 10 周年記念パーティーを開く。

１９９２（平成 4）年――この年あたりから、春秋の柔道大会へ出場する門生が 20 人を常時越えるようになった。町道場としてはようやく中堅の大きさとなる。

１９９３（平成 5）年――8 月、初めて 1 泊 2 日の柔道合宿を茨城県阿字ヶ浦で行う。15 名ほどが参加。夏季勉強合宿の方は北辰館創設以来、毎年恒例として実施。1997 年まで、塾舎新築工事のために 1 回だけできなかった年があったが、全部で 18 回行った。また、正月合宿も 1985 年から 1996 年まで毎年欠かさず、12 回行っている。さらに、遊び中心のサマーキャンプもこの 93 年から 95 年まで 3 回実施した。

１９９４（平成 6）年――1 月、早朝 6 時からの寒稽古を 5 日間にわたって実施。参加者はわずか 7 、8 名だった。これは翌年も実施したが、午前中の学校の授業に差し障りがあるというクレームが保護者から続出、恒例とはならなかった。特に中学 1・2 年生は部活の朝練のため、また中 3 生は受験直前で、ほとんど参加できず、残念ながら今日に至るも実施できない状態だ。部活動の朝練や毎週日曜日の練習試合がなくならない限り、こうした民間行事への中学生の参加は望めないだろう。また、小学生も寒さへの抵抗力が驚くほど低下しており、子供たちの防衛体力の育成が喫緊の課題だと思う。

１９９５（平成 7）年――柔道門生の心身鍛錬を目的として、登山合宿を企画。参加者は 6 名ほどであったが、この登山合宿はその後も恒例となって継続、2001 年の今年は谷川岳に登ってきた。これとは全く別に、一般の塾生を対象としたハイキングは毎年、春と秋に行っている。これは 1990 年以来、今日に至るまで恒例となっている。

１９９６（平成 8）年――地元小学校の PTA 会長となる。以後、1999 年 3 月まで、3 年間に

渡り会長を務める。また、会長就任と同時にママさんバレーボールチームの監督に就任。これも3年間務める。この間、多忙を極めたが、柔道の門生がやや増加、塾生の中で柔道をやる者の割合も3割程度から4割程度まで増加した。地域社会の活動に直接的に参加した影響が少しは出たのかもしれない。しかし、肝心の塾生全体の人数は頭打ちが続く。
この10年でこの地元の小学校も児童数が半減以下になった。また、比較的体力がある子供は野球やサッカーに取られ、柔道への入門も期待を裏切られることが多くなった。

１９９７（平成9）年――1月、新塾舎完成。1階が事務所と教室と柔道場。2階は自宅。
柔道場は15畳の広さとなるが、従来通り、教室としても使用することに変わりは無く、稽古のある土曜日は事前に3枚のホワイトボードは勿論、いすや机や教卓を全て倉庫に片付ける作業をしなければならない。20年以上やっているので苦にもならない。さて、この年の5月25日、春の 柔道大会で門生たちが2つの銅メダルを獲得した。中学女子の部と青 年段外の部である。特に女子のメダルは初めてであり、道場全体に勢いがついた。

１９９８（平成10）年――ノートパソコンを導入。12月、ホームページが完成した。柔道場にとってこれが大きな影響を及ぼすことになるとはまだ誰も予想していなかった。

１９９９（平成11）年――小生は、5月、5段に昇段した。

さて、ホームページの件だが、柔道の問い合わせが毎週のようにメールで届くようになった。しかも、この1年間でそのうちの10人近くが入門したのである。これは従来では考えられなかったことで、驚異的なことだった。この状況は2001年の現在でも変わらない。もっともそうした入門生は社会人が多く、仕事の都合などで続けられる者は少ないが、それでも大学生や社会人の入門はありがたい。塾の方の問い合わせや入塾もあったが、柔道の方が圧倒的に多かった。

２０００（平成12）年――1月8日、アメリカ人のチャールズ・ワイズ氏が入門。やはりインターネットで問い合わせてきた社会人である。外国人の門生第1号である。

２００１（平成13）年――5月27日、春の大会。出場者は32名。初めて30名の大台に乗った。参加している道場の中でも上位クラスの人数となった。成績は青年男子の部で銅メダル。

（千葉県松戸市・北辰館スクール・沼田広慶）

25. 創意工夫型

〔事例紹介〕

具体的な授業としての「あっぷる」

近頃の中学生の様子を見ていると、授業以前のところでつまずいている生徒さんが良く見受けられます。語彙力・集中力・記憶力等が十分鍛えられていないのです。そこで青藍学院では、小1～3生を対象にして右脳の活性化をめざして、「あっぷる」コースを開始しました。生徒さんたちの成長に合わせて、必要な時期に必要な力を、楽しく、知らず知らずのうちに身に付けてもら

うための授業です。具体的にはフラッシュカードを用いて、様々な情報を伝えます。そしてその中で、見る力、聞く力、語彙力、記憶力、集中力などを養っていきます。又書写も集中力、語彙力、記憶力を培うことに役立っています。フラッシュカードでみんなが一斉に大きな声を出して発散することは、授業の活性化につながりますし、その後に行う書写は鉛筆の音しか聞こえないほどの静けさの中で、集中力と語彙力を養います。今ではこの「あっぷる」の授業パターンは、小・中の全てのクラス授業に取り入れて、従来の黒板を背にした説明中心の授業からの脱皮を図っています。その他「あっぷる」では短歌や漢詩の素読で日本語の持つリズムをつかみ、タイルを用いた「見える算数」でより具体的に考える力を養うなど、他様々な教材教具を用いて、五感を生かした体験学習を中心にして授業を進めています。

青藍学院では、これからも様々な授業形態を日々模索し、それぞれの年齢に応じて、又それぞれの能力に応じて、見る力、聞く力、語彙力、集中力、記憶力、そして思考力などの基礎的な力から、様々な情報を読み取り、分析し、判断、実行するための様々な力を養うための工夫を重ねてゆくつもりです。

（東京都杉並区・青藍学院・林　政夫）

(8) 教材による類別

1. 電子機器活用型

A．パソコン活用型

B．ビデオ活用型

〔事例紹介〕

テレビから録画したビデオの本数は４００本近い。新聞の活用とほぼ同じなので、詳しいことは項目（７）―４の「ＮＩＥ導入型」に譲るが、二つだけ触れておきたい。

一つは、静止した新聞記事と映像としてのビデオとでは、インパクトが子どもたちにとっては違うようである。映像時代に生きているのだから、これを利用しない手はない。特に、地球紀行といった番組は世界の地理には欠かせない。

もう一つは、メディアリテラシーに関してである。その前に、親たちにいつも言ってることは、テレビを見るのが悪いのではなく、テレビをどのように見るかが大事なことだということ。親との面談では、必ずテレビの見方について話をすることにしている。

メディアリテラシーに関しては、ここ４～５年いろいろと取り上げられるようになったが、重要なことである。わたしも、「やらせ」問題が起きるたびに、テレビの画面に映っていることは本当のことなのかという問いを発している。ほぼ全員が正しいと信じ込んでいるようだが、その刷り込みが怖い。これに関しては、やはり学校でじっくりと取り組んで欲しいと思っている。

（千葉県千葉市・京葉学舎・皆倉宣之）

C．レーザーディスク活用型

D．ＤＶＤ活用型

2. 遠隔教育機器活用型

A．ファックス活用型

〔事例紹介〕

ＦＡＸ指導を始めてみて

開校以来、個別指導専門塾として一筋に１３年が過ぎました。現在は１対１、１対２の指導形式で授業を行っています。

今年の春からＦＡＸ指導を始めました。７年以上前になりますが、一時ブームになりかけてほとんどの塾が撤退したというのが実情ではないでしょうか。

私の教室でも１０年以上前に試みとしてＦＡＸ指導を行ったことがありました。当時、名古屋にあった大手ＦＡＸ塾を訪問して話を聞き、また大手機器メーカーが展開していたＦＡＸ塾にも見学に行ってきました。しかし、当時はおそらくＦＡＸの普及率は１０％に満たなかったのではないでしょうか。結局尻つぼみになってしまいました。

今回、ふとしたきっかけでＦＡＸ指導を再開することになりました。たまたま、中３の数学の苦手な生徒のフォローをＦＡＸですることになり、せっかくなので他の生徒のＦＡＸ保有を聞いて声をかけていったところ、あっという間に２０～３０人の生徒に膨らみました。

まだ、試行錯誤を繰り返しながらの授業ではありますが、かなりの手ごたえがあり、他塾の差別化として今年度は力を入れていこうと思っています。

さて、ＦＡＸ指導のよさをいくつかまとめて見ました。

１．導入費用がかからない

10年前の普及率はおそらく１０％以下だったろうと思われます。今回、ＦＡＸの保有率を調査したところ約７０％でした。こちらの予想以上の普及に驚きました。あえてＦＡＸを新たに導入する費用をかけることなく、スムーズに勧めることが出来ました。今は、「ＦＡＸ保有の有無」は新入会の際にご父母にする重要な質問の１つになっています。

２．学習時間の増大・科目数の増加

個別指導のウイークポイントは授業時間の短さにあります。現在の１科目週１コマ１．５時間の学習時間で大幅な学習効果を期待するのには無理があります。中位以下の生徒に自宅学習を期待するのは無理があります。そこで母親に相談して（生徒に勧めても嫌がります）例えば、週２日通塾している生徒に対して次のような提案をしました。

月…英語・木…数学　で勉強しているケース

水・金…英語のＦＡＸ指導、火・土…数学のＦＡＸ指導

単純計算でこれまでの１ヶ月の学習時間が

１．５時間　×　８日間　＝　１２時間

が、

１時間　×　４日間　×　４週　＝　１６時間

１２時間　＋　１６時間　＝　２８時間

と、学習時間が倍増しました。これが、学校の定期試験の点数アップにつながったのは言うまでもありません。また、英数２科目しかコマの取れなかった生徒が他の科目の学習もすることが出来るようになりました。

３．家庭学習のアピール

ご家庭で電話がある場所というと玄関・居間でしょうか。これまで自分の部屋に入ったら勉強時間は入らせないという生徒が多かったのですが、ＦＡＸ指導を始めてからは子供の学習の様子がよく分かるという母親からの感謝の言葉を多く頂きました。ＦＡＸのやり取りをするうちに居間で勉強するようになった生徒もいて塾の家庭学習管理に関して大きなアピールにつながりました。

４．インターネット学習は時期尚早

インターネットを使った学習指導はすでに始まっており、いくつか調べもしましたが(ハローＥ先生、ビットキャンパスなど)、まだ時期尚早かなという気がしています。ただ、今後大いに伸びる余地があり、研究を続けるつもりでいます。おそらくここ１～２年で大きく変わると予想されるので、その点ではＦＡＸ指導はここ１～２年の過渡的な学習手段にしかすぎないかも知れません。

以上、メリットを並べてみましたが、ＦＡＸ指導の限界も感じてはいます。

まだまだ、これから改善しなければいけないところはありますが、現在当教室の大きな武器になっているのは間違いありません。

（神奈川・IE 一橋学院・夘埜　良一）

Ｂ．衛星放送活用型

〔事例紹介〕

当塾で予備校の衛星放送を導入した理由は３点ある。

① 当塾の教務力では高校生に英語・数学以外に入試に必要な科目の指導能力がないこと。

② 複雑・多様化する大学入試制度、格差の著しい大学入試問題に一義的にはテキストの難易で対応する塾の個別指導では限界があること。

③ いかに合格させるかに特化した予備校講師の授業内容が予想以上に優れていたこと

①～③のいずれをとってもある意味で塾の指導の大半を外部に委託するわけだから正直逡巡した。しかし、ある講師の「物理」の授業を受講した生徒が３年続けて「知的感動というものを初めて体験した。」という受講後の感想欄に寄せたこと（ついでに彼等３名は途中から理学部物理学科に志望先を変更してしまった)、また「現代文」の受講生から「目から鱗が、とはこういうことか。」という感想が輩出したことを考えるとまずは成功だったと思っている。もちろん高２までに（当塾では原則高３生にしか衛星授業は受講させていない。)そうした感動や感想を塾で与え得なかったのは慙愧に耐えない。

一般的に言えば予備校は目下完全に現役生にシフトしているから、講座内容も頗る豊富で、導入する塾も増えていくであろう。しかし、塾の月謝と違い予備校の場合は年間授業料であり、当初の親の負担は軽くはない。「階層分化」はここでも少しずつ進行している。

（静岡県沼津市・向学会・野木史朗）

〔事例紹介〕

通信衛星で大手予備校から送られてくる授業をビデオテープに録画し、生徒一人につき一台のテレビで、ＶＴＲの授業を身ながら個別学習を進める。時間割は生徒各自が作製し、都合が悪くなれば振替が何回でも可能である。１週間毎であれば１年間かかる授業も、毎日学習に来ることによって１ヶ月で終了させることもできる。

中学生（小学生）のころから、学習面でしっかり訓練されてこずに、英語がたいへん苦手で中学生の復習をしなければならない高校生が増える中、大学受験時に「中学生英語の復習」から始め、「高校基礎レベル→基礎私立大レベル→中堅私立大レベル→難関大学レベル」まで半年で能力アップさせることも可能である。（とは言いつつ、難関大レベルの英語は、英語力以上に国語力、幅広い教養が要求されるので難関大に合格することはまずあり得ない。）

このシステムであれば、何も塾に来ずに、自宅でもできそうではあるが、それができるのはよほど自分を律することのできる生徒であり、ほとんど見あたらない。というのも、自宅では誘惑が多いためなかなか学習できず、また、塾に来ることによって、勉強への励ましを受けたり、まわりの人間が勉強している姿を見て気を取り直したり、元気がないときにチューターに気遣ってもらったりという人間的なふれあいがなければ、このシステムはなかなか機能しないのである。

ＶＴＲの学習システムを、より人間的なものにするために、チューターとの学習に関する交換日記「夏休み帳」「９月帳」や、パワーアップ単語テストなども導入している。

（千葉県鎌ヶ谷市・日能進学教室・田中宏道）

Ｃ．インターネット活用型

〔事例紹介〕

金ゼミニュース２月号（平成１１年）　小林君（中学２年生）のその後

前回インタビューした小林君がホームページを作成したということで、そのことについてインタビューしてみました。インタビュアーは家にパソコンが１２台持っているというパソコン一家の藤本君(逗子市立久木中学３年)。

イ＝インタビューアー（藤本君／中３）　小＝小林君（中２）

イ：まず、ホームページを作ろうと思ったきっかけは何ですか？

小：最初は、HTML(ホームページを作るための言語)に興味を持ったので何か作ってみようと思って作りはじめました。

イ：では最初は公開は考えていなかったということですね。そのホームページを公開したきっかけはなんですか？

小：塾長にすすめられたからです。

イ：公開は自分でやったのですか？

小：いえ、塾長に「公開しておくよ」といわれ、その後知らない間に公開されていました。まさか本当に公開してくれるとは思っていませんでした。
イ：そうですか。ではホームページの製作に当たってなにか難しいことはありましたか？
小：ホームページを見やすくするためのフレームというものの操作にてこずりました。また、画像ファイルを動画にするときも難しかったです。
イ：画像の作成も全部自分でやっているのですね。ホームページを作るときに使ったソフトウェアーを教えてください。
小：ウインドウズに標準でついてくる notepad というソフトウェアーを使いました。画像の作成では、まず普通に絵を書き、その絵を「Front Page Express」というソフトでインターネットで公開しやすい GIF という形式に変換して作りました。さっきも言いましたが、アニメーションする画像を作成するのにはとても苦労しました。
イ：ホームページの作成の裏にはものすごく苦労があったのですね。このホームページはとても精錬されていて見栄えもよろしいようですが、ホームページを作るときに気をつけたことなどはありますか？
小：やはり色使いですね。青を基調にして涼しい感じや科学的な感じを表現しようとしてみました。
イ：いろいろと工夫が凝らされているのですね。その甲斐もあってあのようなすばらしいホームページができたのでしょうね。
次はこのホームページの内容について質問しますね。
このホームページは湘南科学倶楽部ホームページということですが、この湘南科学倶楽部とはどういったクラブなのですか？
小：このクラブは科学に興味のある友達が集まってできたクラブです。その場その場で活動をするような比較的マイナーなクラブです。
イ：じゃあ、あまり学校などと関係がないのですか？
小：はい。あまり関係ありません。あくまでも友達同士でできたクラブです。このごろは活動も乏しいですね(笑)
イ：ではこのホームページを通じて部員の募集やクラブに活気をつけようなどということも考えているのですか？
小：部員募集はしていますが、あまり期待はしていません。クラブの部員同士での情報の交換や、広報誌の代わりなどといった目的で運営しています。
イ：このホームページで湘南科学倶楽部がもっと活発になることを期待しています。

今回は小林君の作ったホームページについてインタビューしました。

（神奈川県逗子市・金沢ゼミナール・中村惇夫）

3. 教材活用型

A．塾専用教材活用型

B．市販教材活用型

C．手作り教材活用型

D．カード、カルタ活用型

E．プリント、テスト活用型

F．新聞記事活用型

G．何でも活用型

〔事例紹介〕

集英塾で使う教材は何でもありだ。塾専用教材はもちろんのこと市売の学習教材や教科書も使う。マンガも新聞も週刊誌もテレビやラジオもその生徒に必要と私がみなしたものは何でも教材として使う。塾にインタビューにこられたメディアの人も当然使わせていただく。私の書いた文学作品（？）も堂々と使う。なぜなら、塾の生命線は教材の使い方にあると思っているので、教材を料理する自分の腕を信じている。食材は生徒に合わせて一応選ぶが、この自信が揺らいだら明日にでも塾は閉じてしまうだろう。F ゼミの教材は、すべて百パーセントの手作りオリジナル教材である。

（世田谷区・集英塾・幸路秀人）

H．塾通信活用型

〔事例紹介〕

この塾通信は毎月２０日前後に配付するもので、各種行事の案内や連絡記事が中心になるものである。しかし、こんなものでも２００号も続くとそれなりに資料価値もでてくるものである。今回の機会にバックナンバーをあたってみたが、残念ながら１９９２年４月の第７５号以前が紛失していた。７５号まではＢ５の３．４ページ程度で、書式も統一されたものでなかった。５月の７６号から版形をＢ４サイズの表裏２ページを最低仕様とし、レイアウトも「タブロイド新聞」風に統一した。同時にタイトルを「ＡＩＭ通信・Twinkle きらきら」と改めた。このタイトルは現在に継続されている。ちょうどこの時期「教師が輝かなければ生徒も輝かない」と言いまわっていたのが、この標題の背景となった次第である。その後１９９８年９月の 156 号から、スタイルを一新してＢ５表裏４ページの「機関誌」風に変更した。　手元にある過去 10 年分の紙面を繰ってみると、時を経ても変わることのない塾のルーティーンの繰り返しである。そんな中で 1992 年という年が教育界にとっては、まことに慌ただし 1 年であったことに気づく。

まず同年 9 月の 81 号では「学校土曜休日に思う」のタイトルで、9 月 12 日から始まった学校第 2 土曜休みが特集されている。「子どもたちは生活にゆとりがないため、個性や創造性に乏しい。

そこで隔週の土曜日に子どもたちを家庭や地域社会に帰し、心とからだに『ゆとり』をもたせたい。」学校週五日制の意義付けを文部省はこう説明している。それから10年、いよいよ来年からは完全学校五日制に突入である。所轄が文部科学省と名前を変えても、お得意の「ゆとり」論はまさに十年一日の如く変わらない。この間日本の子どもたちは「個性や創造性に乏しい」ままにおかれ、かつ「学力低下」までひきおこされてしまったのであろうか。

続く82号では翌年からの教科書大改定問題にふれている。この中で英語科の「聞く」「読む」を重視した改訂教科書を紹介し「…しかし実際問題としては、週4時間程度の集合授業では『英語が使えるようになる』と期待するのは無理…」とし、文章読解、作文力、文法解法といった知識領域の学力低下を懸念している。これも2002年からの改訂問題の論議と変わるところがない。

さらに12月の84号では「どうなる！？業者テスト問題」と題して、埼玉から火のついた業者テスト排除問題が全国的な「偏差値追放」の広がりをみせていることを解説している。

ところで、当地区（千葉県松戸市）では、ＡＩＭ通信で振りかえることのできるこの１０年が塾淘汰の時期であった。商圏２キロ以内をみてもこの間に塾数は半分程度に減少しており、ここ数年は新たな塾の進出はまれである。このことはこの地域が、塾市場としてすでに魅力に欠ける地域になっているのことの証左でもある。そんな環境で「可もなく不可もなく」とはいえ、それなりの生き残りができたのはある種の「幸運」によるものであった。しかし、ここに紹介した「塾通信」を発信しつづける熱意もまた、「幸運」を支える要素であったとの自負もあるのである。

これからの１０年はこれまでの10年とは異質なものとなろう。自然発生的に生まれそれなりに成長を遂げてきた私塾(学習塾)ではあるが、21世紀の社会ではどう捉えられるもであろうか。どれほどそしてどのようなニーズが生まれるのであろうか。私塾へのニーズはその量ではなく質の問題であり、提供しうるサービスの内容が問われる時代になることであろう。

学校の制度疲労とそれに伴うスリム化は、民間教育への潮流を確実なものにするであろうが、その流れは時に急激で時に深いよどみを見せるであろう。そうなれば竿一本で船を操るがごときの、古典的な船頭の技ではたしてこの流れを乗り越えていけるのか。塾と不可分の関係にある学校が危機に瀕する時代になって、地域にあって町の教育力を支えてきた健全な中小の塾が、これまでの形態では生き残りえない現実に直面するとは、なんとも皮肉な話である。

（千葉県松戸市・ＡＩＭ学習セミナー・谷村志厚）

I. 教材自主開発型

〔事例紹介〕

当看護進学会は、看護・医療系の大学、短大、専門学校に進学を志望する生徒のみを対象にして、平成９年３月スタートした足掛け５年のまだ若い指導機関である。母体は昭和６１年に開校した創開ゼミナールで、ここで培った生徒指導ノウハウ、教材開発、講師管理、受験指導をくまなく発揮している。

他の予備校や塾との根本的な違いは、看護・医療系に進学を志望する生徒のみ対象にしていることである。そのため通学される年齢層も高校２年生から３６歳と相当な年齢差がある。説明会には４０代半ばの女性も見え、受験されるのはお子さんですか、などと失礼なことを聞いたこともあった。また、通学エリアも電車で１時間かかるのはざらであり、中には２時間もかけて通ってくる。福島から親子３人揃って説明会に見えた方もいる。教育と医療と宗教には距離がないことを実感した。

看護進学会を経営するにあたって、今までの塾の経営感覚は全く通じないことを痛感した。それは、選挙に喩えれば、塾は地域に根を張った市会議員選挙であり、看護進学会は全国にターゲットを広げた参議院選挙比例区のようなものである。これは何も生徒募集の対象を全国に広げたということを意味するのではない。

情報収集が北海道から沖縄までの全国の大学、短大、専門学校の２，０００校以上に広がり、高校も全国５，０００校が対象となった。もちろん、何も全国に広げる必要は微塵もないし、小社の経営規模からいってとてもできるものではない。しかし、小生の性分が、半端なことを許さない損な性格のため、また、看護医療進学指導の専門校を謳う以上、本格的な専門校を目指してしまった。

最初にしたことは可能な限り、全国の看護・医療系の学校の入試問題集を収集し、それを元に入試傾向の分析をしたことである。

入試問題集の分類から、「看護医療必勝シリーズ」の問題集を発刊し、全国の書店で発売を開始した。平成１０年７月「イディオム５３７」「三角比１１９」発刊。１１年８月「全国国公立短期大学看護医療学科入試問題集」発刊。１１年１２月「小論文・作文の書き方」「重要基本例文１７５」「数学Ⅰ・A８９」発刊。以上の６点を「声の教育社」から発売している。中でも「小論文・作文の書き方」は受験生から好評で毎月５～６００部が書店を通じて発売され、版を重ねた。

また、この問題集の出版を元にして「創開プレス」という出版部門を設立し、大手取次店の口座が開設できたのは大きな収穫である。

８ページのタブロイド紙を２０万部発行し、全国５，０００の高等学校に送付した。これは学長インタビュー、推薦入試のポイント、入試データなど全て取材して集めた記事を掲載した。送料だけで１回に２００万円もかかり、スポンサーもほとんどつかないため、多方面から惜しまれながらも４号発行して頓挫した。

経費的に新聞の発行ができなくなり、その代わりにホームページを開設した。看護医療系学校のサーチエンジンとしての検索機能を持つもの（http://kangosearch.com）と受験生の相談事の掲示板、入試情報のお知らせ（http://kangohope.com）の２つのホームページを公開している。

（千葉県柏市・看護進学会・小林和光）

(9) 入塾方法による類別

1. テスト選抜型

入会の際にテストを行って入塾を決める型。学力テストが大部分であるが、知能検査や性格検査を併用しているところもある。

2. 仮入塾型

入塾希望者を仮入塾させて、実際の状態や姿勢等を確かめてから入塾許可する型。

〔事例紹介〕

入塾については入塾試験を行う。しかし、この試験には再テストがある。一応の合格基準点（およそ５０％）を設けてあり、この点数に達しない生徒は再テストを受けることになる。再テストの場合、細かい範囲設定を行い、学習方法のわからない生徒には事前指導が行われる。この再テストは希望があれば２回まで受けることができる。

入塾テスト合格者には、面接が行われる。通常入塾テスト前には父母に対する塾の説明が行われるので、この面接は、生徒との２者面談になることが多い。ここで塾の学習内容と生徒の心構えを説明し理解してもらう。このときに（簡単な）誓約書を提出してもらう。

それから授業に入ることになるのだが、中途入塾の場合は必要なだけ個別補習指導を行う。

（静岡県・東静郡・青木司郎）

3. 全員受け入れ型

入塾希望者を全員入塾させる型。

4. 面接型

入塾希望者との面接によって、自塾の教育目的、教育方法などをよく伝え、親と子供の希望や意向も確かめて、双方の理解の上で入塾してもらう型。

〔事例紹介〕

塾への要望を本人と保護者の同席の下で十分に聞き、集英塾ではどうそれに対応できるかできないかを説明する。そして、体験授業に入ってもらい、その後の面談で最終結論を出す形をとっている。基本的には塾側で生徒を選ぶことはせず、定員になり次第入塾作業は終わる。よって、入塾テストなるもので学力を判定することはまったくやったことがない。

（世田谷区・集英塾・幸路秀人）

5. 体験入塾型

一度実際に授業を受けてもらってから入塾してもらう型。

6. 見学入塾型

塾内見学や授業見学をしてもらってから入塾を受け付ける型。

7. 人物選抜型

入塾希望者の姿勢を問い、自塾の運営にかなった生徒を選抜する型。面談・作文などの方法を活用し、生徒のそれまでの状況把握と勉学意欲等を確かめてから選抜する。

8. 入塾説明、個別面談併用型

9. その他

(10) 経営方法による類別

1. 個人経営型

塾長個人が経営する塾の型。人を雇用して、小規模型の塾運営にあたるケースから、全く一人で塾を営むケースまでみられる。

〔事例紹介〕

当塾は妻と二人にアシスタントの講師が一人いるだけの個人塾である。対象学年は中一から中三まで五教科とし、この形態で二十数年通してきた。

教室を展開できるチャンスはいくらでもあった。ピーク時には中三だけでも７４人いたので(これ以上教室に入らない) ７４人を卒業させると生徒数は半分以下になる。経営的には三月に７４人入学させれば生徒数が落ち込むことはないわけだが、二月末でほぼ１５０人から１７０人の申し込みがずっと続いていた。

ただ塾長が生徒を把握できる限界を超えるので、講師を増やして増設展開するという発想はなく半分以上断ってきた。

さて、塾の学習機能から考えると、これは必ずしも効率的とは言えないだろう。生徒をみんな受け入れて、講師を増員して、教師一人当たりの担当生徒数を減らすという方法もある。

そうしなかった最大の理由は、知識技能を伝えられる講師は多いが、人間教育までやれる講師にはなかなか巡り会わなかったからである。学習塾といえども、人間教育をベースにしなければならないと考える当塾にとって、お父さん先生とお母さん先生でやることがベストだと考えたからである。もし塾の価値が地域に認識されるとすれば、それは世間が決めることである。

とはいえ、長くテーマとなってきた塾の社会的な価値は、塾側からマスコミや行政に対して積極的に認識させるという方法も無論大切である。社団法人・全国学習塾協会はそういう経緯で設立された。

社団法人の設立は、長いあいだ塾全協の悲願であった。私は塾の丸適マークのようなものを作ることを田中幸穂会長に提案し、それが塾全協で試作した優良塾育成協議会（社団の前身）となった。一方では平行して文部省や通産省を窓口に社団化の運動を進めていたために、いわゆる在京五団体といわれていた各塾団体が大同団結してくれて、今日の社団法人が実現したのである。

元全塾連会長・山口恭弘先生を中心にして広島支部を立ち上げることに、北川先生も広島私塾連盟もみな力を出し合った。私も広島連絡会の初代の副幹事長も勤めさせて頂いた。

当時は出張も多く、塾に負担をかけることが多かったが、このような仕事も大事なことだったからである。

しかし、塾の原点はやはり塾長がいつも子どものそばにいてやることだと思う。これは教育の

形態やシステム論以前の、失ってはならない教育の心ではないだろうか。塾も学校も家庭も同じである。生徒に自習させて先生は教研集会で飛び回ったり、お母さんがボランティア活動で家を空けてばかりいては子どもはかわいそうである。

塾はいろいろな形態があってしかるべきである。そしてなによりも塾長の教育理念によって強烈な個性が発揮されるところに味があるのだと思う。その中で、身近に子どもと触れ合う個人塾こそ教育の原点であると信じる私は、やはり全エネルギーを子どもに注ぎたいと思うのである。何故なら私は教師であるからだ。

（広島市・EM 塾・高橋　健吾）

〔事例紹介〕

個人経営で、私という存在が集英塾だと思っている。だから、私のやりたいことしかしないし、やりたくないことはしない主義だ。この仕事は、私一代限りで終わりにする。誰かが私の代りに真似ができるようなものをやっている考えは毛頭ない。極めて独善的な経営なのである。私のところが良ければ、いっしょに時間を過ごしてもらうが気に入らなければ、塾は他にいいところがいっぱいあるので、どうぞそちらにと思っている。

（世田谷区・集英塾・幸路秀人）

2. 法人経営型

塾経営を社団法人として行う型。中規模方以上の塾経営であるが、小規模型でも法人経営はある。融資面などの利点を得て経営の前進を図る。

〔事例紹介〕

全教師で資本金を出し合い、共同経営をしています。

（東京都文京区・鶏鳴学園・中井　浩一）

3. 企業指導型（チェーン店型）

企業が自ら企画して経営にあたる型。企業の企画力、信用力、宣伝力を背景に、各地域の内に指導者と場所の提供を求める。

4. 企業提携型（フランチャイズ型）

大手塾や大手出版社のノウハウを元に、マニュアル化され、管理化された授業運営を実現して、他地域にまたがる塾経営を行う型。個々の教室の相対的独立度は低い。

5. 市町村型（公営型）

定年退職した教師や元教員を、市町村が用意した塾施設で採用し、子供の指導にあたる型。

6. 無報酬型

学習指導に対する報酬を求めずに営まれる奉仕型。生徒からは実費だけ得るが、持ち出し部分の方が多くなる趣が強いようである。

7. ＮＰＯ型（特定非営利活動法人）

〔事例紹介〕

２１世紀教育研究所は９４年に任意団体としての活動をスタートしました。当初より不登校や高校中退の子ども、家族などからの個別の進路相談に対応し、また各地の様々な教育実践についての情報収集とその発信に努めてきました。９９年に特定非営利活動法人としての認証を受け、NPO法人としてより一層、公益的かつ中立な立場での活動を展開しています。

私たちは、子どもたちが主体的に学び成長していくことができる社会環境作りを目指し活動しています。子どもたちの成長は、家庭・学校といった限られた場だけで支えられるものではありません。人間の成長は社会における他者との関係の中で培われるものであり、それは社会全体で支えていくものです。子どもたち自身、そして子どもたちの直面している問題と向き合い、子どもたちとの関係を考えると、それは「おとな社会」や「おとな自身のあり方・生き様」が深く問われているということに気付かされます。

私たちは、子どもたちの声に耳を傾け、彼らを支援する家族や市民団体とつながり、企業や行政とも連携しながら、このテーマについて皆さんと一緒に考え行動し、ネットワークの結び手として、絶えず社会に声を発し働きかける主体として、官民の壁を越えた情報収集・相互連携・交流の場の実現に努めています。

「子どもにとってもおとなにとっても息苦しくない、豊かで住みやすい社会を私たちの手で実現したい。」子どもたちの**『創造力（Creative）』**、**『表現力（Expression）』**、**『コミュニケーション（Communication）』**を大切にし、その成長を支援（youth empowerment）するために、“子どもとの関係から社会を考える”という一つの重要な視点から、人々の思いや各地の活動をつなぎコーディネートする、情報センター的役割を目指します。

◆相談室21（専用番号　０３－５９１９－３１５６）

主に電話と来訪での個別ご相談にお応えし、各種情報提供を行っております。不登校や高校中退からの進路相談、子育て、人間関係など幅広くお受けしていますので、どうぞお気軽にご連絡下さい。問題解決に向かって一緒に考えます。（お問合せはFAX、手紙、Eメールでもお受けします。）

◆各種イベント等の企画運営

家族や教師、教育に関心ある方を対象に、年3～4回、教育セミナーや教育シンポジウムを開催。また参加者から出される様々なテーマによる学習会を開催。さらに、他団体との共同イベントも

実施しています。

◆出版物の発行

これまで、全国のフリースクールなどの情報を紹介した「もうひとつの学校案内」や「学校が合わない子どもたちのための居場所ガイド」などの書籍を出版しました。9月末には、若者たち自らの手による全国の若者たちの声を集めた手記も出版します。

◆情報収集およびネットワークづくり

学校、フリースクール、居場所、相談機関など、国内外の様々な教育活動について、官民問わず、これからの新しい実践を中心に情報収集しています。特に、学校外で子どもたちを支援している個人や団体との情報交換に努め、情報共有化のためのネットワークづくりを目指しています。

◆インターネットによる情報発信・相互交流

ホームページやメールニュース『21世紀教育情報』・メールマガジン『for your future』を通じて、様々な情報を積極的に発信します。

◆『スクールズオンラインプロジェクト』東日本事務局運営

インターネット環境を無償提供し、子ども同士のコミュニケーションを図る、スクールズオンラインプロジェクトの東日本への普及をめざします。

（東京都渋谷区・ＮＰＯ・２１世紀教育研究所・事務局長・竹内延彦）

8. 海外で学習塾を経営する型

（11）その他・新しいタイプの塾の類別

1. フリースクール
2. サポート校
3. 大検（大学入試検定試験）受験スクール
4. カルチャースクール（生涯学習スクール）
5. インターネットスクール
6. ホームスクーリング
7. メールコミュニケーション活用型学習塾

〔事例紹介〕

当塾では、平成13年度の4月より365ボキャブラリーと名づけ、四字熟語と併せて英検の受検級別に、英検5級～英検2級までの会話やボキャブラリーを当館生宅のパソコンや携帯に配信してきました。6ヶ月間に2日間の配信不能がありました。7月からは，配信コンテンツを前もって各家庭に郵送しています。

全生徒数に対する配信率は、およそ４０パーセント。携帯電話での配信コンテンツの閲覧率は、９０パーセント以上になると思います。パソコンのインターネットでは遠く及びません。

１日一個だからわずかと言えばわずかです。しかし、真剣に１日一個やりあげると大変な蓄積となります。例えば、準2級合格から2級合格まで、英語の得意な生徒で丸一年はかかります。３６５日に渡って英検の問1のボキャブラリーを学びつづけると英検の過去問ベースで（一回30個×年3＝90個一年分）4年間分になります。過去問の4年分を毎日一個一年間で済ますことができれば、英検の2級は終わったも同然です。四字熟語も３６５個は、高校の国語便覧への掲載数以上のボリュームとなっています。

さて、メールコミュニケーション365日は、英語コンテンツの音声化など課題はたくさんあります。面白いのは、四字熟語・三字熟語です。四字熟語・三字熟語は、国語便覧の中ではのっぺりした印象ですが、新年・入学式・入試など機を見て脚色すると心に響く贈り物となります。四字熟語にコメントを付け加える時は、時事問題を参照したり、生徒達の顔を思い浮べながらの作業です。生徒と塾との信頼関係の中で様々なコンテンツを３６５日送信しつづけることで生徒の中に残る何かを生み出したいと思っています。

（川口市・朝日学習館・梶原賢治）

〔事例紹介〕

①地方の公立小学校教師になった塾卒業生と、学校内で毎日起きる生々しい教育諸問題について、

毎週のように電子メールでスーパービジョンおよび情報意見交換。
②塾生の親から紹介された中学教師志望の学生と、教育諸問題について電子メールでスーパービジョンおよび意見交換。
③塾卒業生の娘の家庭教師を、臨床心理学科在籍の大学院生に委託。この娘と親の抱える諸問題について、電子メールでスーパービジョンおよび情報意見交換。

（東京都目黒区「toBe 学習援助室」本田哲也）

〔事例紹介〕

※　金ゼミニュース 12 月号(平成１１年)　　藤本新之助君（中３）にインタビュー

（略）

普通の家庭にパソコンが５台もあるなんてすごいですね。しかも Nosuke 君は自分専用のパソコンを持っているのですか。どおりで詳しいはずですね。では、パソコンでいつもどんなことをしているのですか。

パソコンでどんなことといっても、何でもできちゃいますからね。ホームページを作ったり、ゲームを作ったりしてます。

ホームページにゲームですか。随分簡単に言いますが、すごいですね。

ではまずホームページのことから質問します。ホームページは一人で作ったのですか？それともお父さんに手伝ってもらっているんですか？

すべて一人でやっています。ホームページの場所確保から作成まで全部自分でやっています。

ホームページは場所確保が必要なんですか？ 場所確保ってなんですか。素人にもわかりやすく説明して欲しいのですが…。

要するにホームページのアドレスを取得して公開させてもらうことです。この場所確保は大変でした。３日ぐらいかかったかな。

で、Nosuke 君のホームページではどんなものを公開しているのですか。

自分で作ったソフトウェアーなどを公開しています。

自作のソフトウェアーですか。なんだかすごい話になってきましたね。もう少し詳しく教えて下さい

詳しく言うと、自分で作ったゲームなどを公開しています。

（略）

ところで、パソコンが操れる人だったら誰にでもゲームは作れるものなんですか。それとも特別なセンスが必要なんですか。

特別なセンスとかいうものは必要ないと思いますが、とりあえずゲームを作ろうとする前に、パソコンに慣れることですね。

簡単そうに言いますが、それがなかなか大変なんですよ。

とにかくパソコンに触ることが大切ですね。パソコンが好きならそのうち出来るようになるんじゃないんですか。

そうですか、何だか果てしない道のりのような気がしますね。

最後にＮｏｓｕｋｅ君のホームページのアドレスを紹介します。どうぞ。

http://hp.vector.co.jp/authors/VA013561/

ではこのホームページに行くとＮｏｓｕｋｅ君のゲームが見れるんですか。

ホームページに行くだけではゲームはすぐに出来ませんが、ゲームの画面ぐらいは見ることができます。

なんだか難しいんですね。

パソコンに慣れれば楽です。

それが大変なんですよ。では最後に一言どうぞ。

そうですね。ホームページ見れる人は絶対見て下さい。見れない人は早く見れるように努力して下さい。

はい。早く見れるように努力したいと思います。ありがとうございました。

と、いうことで、インタビューは終わった。　　（インタビュアー：藤原先生）

ところで、彼の作ったゲームソフトは

「フリーソフト＆シェアウェア　ＰＡＣＫ＆ＷＩＮ　１９９９年後期版」

（http://www.vector.co.jp）を参照してください。

その彼も、現在、横須賀高校２年生です。小泉首相と同じ、県立横須賀高校です。

※　街のＩＴコンビニ金沢ゼミナール逗子パソコン教室に、突如、インド人現れる！！！

今年の７月、昔、昔、大昔、１５年程前、塾生だった梅原君（当時鎌倉学園中学２年生）が突然、金沢ゼミナールにやってきました。印度帰りとかで、顔形がインド人そっくり。彼のその代わりぶりを説明するより、彼の作っている、サイトを見てください。私も、いろいろのホームページを見ていますが、彼ほどの、面白く、愉快で、含蓄のあるホームページに出くわしたことがありません。ほんとです。その、サイトというのは、

http://www.tirakita.com　（アジア雑貨・印度映画専門店）です。

とまあ、時代はかわってきているのですね。

その様かわりには、驚きの連続です。

出藍の誉れ。これが、悲しいかな、喜ぶべきか、現在のわが塾の現在である。この言葉のいわれをパソコン上で調べてみた。　http://www.sirabemono.com

の、便利情報の辞書のことわざ辞典で検索。

しゅつらん　【出藍】

〔荀子（勧学）「青出二于藍一而青二于藍一」から〕青は藍（あい）より出（い）でて藍より青し、ということから、弟子が師よりもすぐれていること。「一の誉れ」

（神奈川県逗子市・金沢ゼミナール・中村惇夫）

8. 海外留学支援

〔事例紹介〕

その他・新しいタイプの塾の類別として、当学院は数年前より英国留学を実施。これを始めた目的は多々あります。ここでは長くなるので一点のみ記載しますと、この不況下において生徒たちは“なにか資格をとりたい”とよく言い、しかしながら“これをやりたい”と目標を持っている者はほんの少数。将来の目標がまだ定まっていないこの時期に“とりあえず英語くらいは話せるようになりたい！”と考える生徒は多数います。私はこのような生徒たちに対して出来る限り経費を安く、また安全な留学を提供したいと考えたのが、大きな理由の一つです。よってこの留学では正直ほとんどメリットはありませんが、私はそれで良いと思っています。

（千葉県船橋市　成央学院　塾長・杉山　央）

9. 健康を考える学習塾

〔事例紹介〕

健康に配慮した塾舎

健康であればこそ学ぶ意欲もわいてきます。病気に苦しんでいては学ぶどころではありません。まさに健康第一です。ならば学習塾としても健康をまずもって第一に考えなければなりません。

コンクリートのビルの２階を借りていた時も、ポトスが部屋をぐるりとり囲むなどたくさんの植物を置いたり、ドアも窓も開け放して風を入れエアコンを極力使わないようにするなど、限られた条件の中で健康には最大限留意はしてきたつもりです。

しかし、本当に健康を第一とするならば、塾舎そのものから考え直さなければなりません。健康に良くないものを避けるというよりも、もっと積極的に健康をつくりだす塾舎を。そこに居るだけで、学んでいるだけで、心も体も健康になっていうような塾舎を。

それには木が一番です。木は熱の伝導率が低く、夏は暑く感じさせず、冬は冷たく感じさせない素材です。木は、湿度が高い時には湿気を吸収し、乾燥している時は水分を放出してくれます。

木の香りは心を安定させ、木目模様は心を落ち着かせてくれます。何より木は伐られた後も生き続けています。

そこで、去年から1年をかけて新しく木造の従来軸組工法による塾舎を作りました。太い柱や梁が渡り、部屋の床も壁も天井も木材です。木の力を全身から受け入れれば、必ずや健康にプラスとなることでしょう。

また 17.5 畳の広間を設けました。元気のもとになる氣を取り入れる氣功を通じて、健康かつ長寿も目指しています。

広間では、落語やミニコンサートも開き、心が解放されるひとときをつくる予定です。

木の力と氣の力を通して、塾生のみならず地域の方々とのふれあいを健康づくりの場として、大工さんから100年から200年は建ち続けることが可能だと太鼓判を押された新塾舎を大いに活用していただきたいと願っています。

（千葉県千葉市　開進学園　塾長・二瓶　浩實）

(12) 番外編

1. 文教委員体験雑記

2年前から、区議会の仕事にかかわるようになった。初めての委員会が、文教児童委員会であった。区内の小中学校の教育行政に直接影響を及ぼすだけに、毎回緊張しながら、テーブルについた。

学校教育部、社会教育部、児童部、地域振興部の各部から役人の報告を受け、質疑応答をする。一段落したところで、請願・陳情の案件を一件一件審議していく。所要時間は、約2時間、他の委員会に較べて、傍聴者が多い。時々、請願・陳情で対象になっている区内の教育施設を視察に行く。審議されている内容は、学校教育よりも意外と保育園や児童館に関することや、区主催の社会教育の行事に関することが多い。学校教育にしても、校舎等の施設管理や職員の配置や給与等の待遇関係を審議することが多く、肝心の学校教育の教育内容に触れることは、少ない印象を受けた。

教育委員会の役人も一般行政職から移動してきており、それなりの知識はあるが、教育の専門家ではない。縦割り行政の壁もあり、しかも、3・4年で担当が変わってしまう。文教委員となっている区議にいたっては、ほとんどが素人である。民意の代弁者にすぎないのだから、それでよいのかもしれないが、あまりにも現場を知らない観念的な発言がでてくることがある。「大事な教育行政が、素人集団で運営されていていいのかな？」という不安がよぎる。自らも不勉強さを痛感することがしきり。問題意識をしっかり持ち、調査権をフルに活用し、きちんとした対応策を講じなければ、と悪戦苦闘しているうちに、任期の一年があっという間に過ぎてしまった。

任期中、いろいろな方からご相談を受けた。重度身体障害者のお子さんの児童館入室の問題、ＬＤのお子さんの問題、保育園の待機児解消の問題、民間保育園や民間幼稚園補助の問題、教科書採択の問題など、切実な課題に直面し、大変勉強になった。

委員会で提案したことや、本会議で質問したことが、翌年政策として実行されていくことに、発言や責任の重さを感じている。成人式の改善、ＬＤ教室の開設、英会話教育の改善、学生によるメンタルフレンド制度の実行、職業体験学習の促進、区民施設利用の改善など、「ああこういうふうに変わって行くんだな。」と妙な仕方で納得している。

行政は、どうしても雲の上から地上を見ている節がある。二階から目薬を落とすような施策を行おうとしているところがある。地べたを這って歩いている人間のことが忘れがちになることがある。私は、塾をやっていてよかったと思う。今何が問題なのか、少なくてもそれをはかる体温計をもっていると私は思う。

（大田区・杏村塾・松原秀典）

2. ポスト学力崩壊

前回のリポートから１５年もたったと聞いて感慨深いものがある・・などと気取っていられない状況にある。

結論を先に言えば全ては非常に悪くなっており、その責任は専ら旧文部省の負うべきものと私は思うが、責任云々を悠長に言う場合ではなく、先方と違って河清を百年待つことのできる立場にもないので、いわば救急病院の院長のごとき心境で現場に臨むことになる。搬送されてくる患者を見れば事態の深刻さは瞭然である。

前回のリポートで私は、「指導方法による類別」中の「受験集中型」というタイプに自塾を分類し、寄稿した。今回の目次を見るとそのタイプは微妙に表現を変えているが、学習塾関係者以外の方のためにも、その背景から始めるべきであろう。

７０年代後半のいわゆる「塾ブーム」は、８５年に首都圏の小学校卒業者数が最大となるのと同時にピーク（一時の「プラト―」と言うべきであるか）を迎えた。リクルート事件で勇名を馳せた高石文部事務次官による「補習の勧め」通知が出される８７年は、時まさにバブル絶頂前夜であって、学習塾をめぐる環境が激変した時期でもあった。１月の高石通知が塾バッシングの代表であるとすれば、７月には学習塾に対して始めて客観的な検証を加えた、結城忠著「学習塾」が刊行され、８月には臨時教育審議会最終答申がまとめられて、塾を含む「民間教育産業」に初の公的な視線が向けられる。前回の「ＪＫＫリポート」はこの熱気のなかで発行された。こうした流れを受けて、翌８８年６月、旧文部省に「生涯学習局」が設置されるが、当局者の言によれば、この時点で学習塾が公に認知されたわけであり、したがって、同じ年の１０月に社団法人が設立されたことの意味も、この経緯から理解されなければならない。

一方、一部政治家と地方官僚の偽善的施策であるところの「偏差値追放」が行われるのは９２年、「新しい学力観」は９３年であった。これを見てもバブル期までの学習塾が、「受験産業」として捉えられていたことは間違いのないところで、この時点までの学習塾は、受験産業右派とアンチ受験産業左派が対立していたと言ってもいいのである。しかし、左右両派の対立は始めから勝負になどならず、右派がイコール学習塾であるとの認識は普遍のものであった。私は声を潜めて言うのであるが、右派学習塾の我が世を極めた隆盛と、その余禄にあずかった一部左派の伸張と、一転していかにも対照的な公教育の沈滞とがこの愚策を生んだのであり、今日の目を覆うばかりの（特に学力面の）崩壊現象の責任の一端が、その意味で廻り廻って塾にあるという見方は有り得る。

バブル崩壊は既存の価値観の大半をご破算にした。今日の状況を全てその一環として理解しなければならないことは当然だが、常に留意しなければならないことは、水と赤子を一緒に流す危険である。ある種の人々に「頼むから何もしないでいてくれ」と慫慂したいのは、ひとえにその理由による。直接「そうしてほしい」という人に対して以外に、余計なことをしないでくれ。塾は、塾に来たくないという生徒に説教なんかしないぞ。

それはそれとして、「受験」という成長期の神話が地に落ちた現在（私は、そう遠くない将来、ミトラの祭りがクリスマスになったように、いや流石にそれでは都合が良すぎるけれど、神話は姿を変えて復活すると思う）、「大きな物語」の消滅に合わせて学習塾もその陣容を立て直さなければなるまい。

今回の「リポート」がその指針となることを祈る一方で、私が感じたのは、レッテル貼りの困難と言うと語弊があるが、良く言えば多様性の爆発、ということであった。編集氏も恐らくそれを見越しているはずで、「物語」の機能が失われたからには、あるステレオタイプを見出すことは難しい。生徒のタイプと一口に言っても、私の塾のように「進学指導」などと看板に書く旧弊な学習塾でさえ、学力不振児はたくさんいるし、問題児も多い。いや、ある意味で問題児ばかりで、不登校ももちろんいるし、障害児についてはどこからがＡＤＨＤなのか判然としないけれども、かなりの生徒はテレビコマーシャルの間隔である１２分しか集中力が続かない。一言も口をきかないという生徒さえいる。高校中退も帰国子女もというわけで、要するに何でもありである。別に私の塾に限らない。多くの塾が今はそうなのではないか。

「世界の底が抜けた」とまでは言わないが、境界が消えて少なくとも生徒は漂流している。目標を持ってがんばる生徒は無論いる。だが、「がんばれ」と言わない時代の中で、彼ら彼女らの足元は不安定だ。自信のないおとなが正統的価値観を示せないということは、スクエアな生徒にエールを送れないばかりか、ヒップな生徒からカウンターパートとしての自己確認の機会を奪っている。そんなことは塾がとっくに言っていることで、みんな仲良く足並み揃えて式の平均思考が出る杭を打ち、返す槌で堅気に手を出す仁義を知らない半端者を作ったのである。これをポピュリズムと言えばまさにそうであろう。先端の文化的装置のなかで、あらゆるものが「くらげなす漂える」状態でさまよっている。

しかし、人間がそうそう簡単に変わるわけではあるまい。

私は、子どもに「バランスのよい向上心」をいかにして身につけさせるかが、人類万古不易の課題であると思う。エリート犯罪が１件あれば、マスコミはいとも簡単に盥の水を流そうとするが、そうではなくて、「健全な競争心」について考えるべきなのである。これは、建前や偽善の世界からは生まれない。

その意味で、学習塾の役割はますます大きくなりこそすれ、終わることはない。

子どもたちと直接対話し、エールを送り、教え、叱り、励ます。なんとも当たり前のことだが、地獄の釜の蓋が開こうが閉まろうが、愚直にやるしかないのだろう。

（所沢市・四樹学院・稲垣里志）

3．20余年の学習塾生活を振り返って―経営的繁栄から衰退、そして心の充実を学ぶ―

司法試験浪人の傍ら、生活のために塾講師のアルバイトから始めた学習塾が本業となって現在

にいたっています。

塾ブームの中で始めた学習塾は、生徒集めに苦労し、毎年４月の生徒募集期になると憂鬱なるという、ここ数年の状況のような切羽詰まったものではなかったように記憶しております。

一回のチラシをうてば、数十名の入塾者があり、塾内の仕事は、もっぱら、どうやってすべての生徒の成績を確実に上げ、志望校に通すことが出来るかということだけのようでした。

歳月が過ぎると、人は現状に不満足を抱き、次の段階に駒を進めようとするものだと思います。その不満足の内容は、生徒指導に対する純粋な悩みから生じるものであったものが、それを解決しようといろいろなセミナーに出席し、多種の指導法を学び、経営を学んで行くうちに、教育にはお金がかかる、そのお金を捻出するには戦略、戦術的な塾経営が不可欠だという考えに傾いていきました。売上高、生徒数を仮想ライバル塾と競い、生徒数が多い塾こそが正しい教育を提供しているという錯覚に陥っていきました。その当時、塾情報誌等には、「地域№１戦略」というような記事が目立っていたように記憶しています。一方では、自塾の展開をはかり、形だけの学習塾をあちこちに作っていきました。他方いろいろな学習機器や、指導法を導入し、その支払いに追われ、益々の売上を優先した拡大にと進んでいきました。

その内、少子化、バブルの崩壊と、学習塾ブームが去り、企業努力の割には生徒数は増えず、売上高は伸び悩むことになっていきます。この頃になると、塾情報誌等には、「地域オンリー１戦略」というようなタイトルの記事が目立ちはじめ、塾業界自体に一時期の勢いがなくなり始めました。

当塾も売上高を維持するために、大手予備校などの、フランチャイズと提携し新たな層（学年）を自塾に取り込もうとあの手、この手の経営戦略が先行した塾経営が続きましたが、いったん、収入と支出のバランスが崩れていくと衰退へと進んでいきました。

現在、負債や、会社（自塾）の整理が進んでいく中で、ここ十数年技術的に、戦術的に生徒集めをしてきたものと何か違う、よく表現が出来ませんが、何か違うかたちで、生徒が集まりだしました。出来るだけ、完全な形で、生徒を迎え、指導し、帰す。この毎日毎日が、授業を真の意味で充実させていき、生徒が必要とする場所･人になることが出来てきたように感じています。

最近の自塾の広告に、**「たくさん教えてもらった」といって帰る生徒はひとりもいません。「今日もたくさん勉強した」といって帰ります。**生徒は、塾に何を望んできているのかを感じることが、大切なことだと思います。また、現在公立中学の部活動のコーチとして、学校現場に毎日通っています。20 年前なら、同じ地域の学習塾の先生が公立の学校で部活といえども指導することは考えられなかったことと思います。これも、生徒の希望から実現できました。

子どもが必要としてくれる塾であれば、塾は繁栄し、不必要なものは淘汰されていくのではないでしょうか。たしかに、２０余年の学習塾経営の中で多くのことを学び、独自の指導法やテキストを作ってきました。20 年前とは比べようも無いほどの進歩をしていると思いますが…。

十数年前、地域で唯一の個別指導塾として、生徒を集めました。その後多くの塾が、個別指導

をうたっています。今、指導形態や目新しい学習機器より、教える者と教えられる者という立場はあっても、人間として互いに感謝し付き合っていける関係こそが、学習塾の原点であることを深く感じています。

（佐賀県鳥栖市・栄城ゼミ・西田博之）

4. 生業と正業

私が塾の教師になったのは、２０年あまり前のことです。個人塾のアルバイトの時間講師でした。その時すでに７，８年も司法試験の浪人生活をしていました。学生時代には法曹を目指していました。だから私は教員免許を持っていません。したがって教育原理や教育心理学、教科の教授法など、教育に関する専門的な知識・技能がないままで塾で働くようになりました。勤め先では初日から授業を任されました。教科の研修などもありませんでした。

しかし自己流ではありましたが、すべての授業にあらかじめプロットを作っておくなどして、わずか週２日間の授業をそれなりに工夫してみました。今から見れば素人の域を出なかっただろうと思います。しばらくして気づいたことは、教科書に書かれていることの３分の１も理解していない生徒が塾生の大半だという事実でした。私の意識は、国家試験受験のためのアルバイトでしたが、この頃から塾における教育の可能性を考えるようになりました。

２年ほど時間講師を経験した後、独立して塾を開業しました。しかしこの段階ではまだ司法試験合格の夢は捨てきれませんでした。塾の経営者でありながらその運営にはあまり熱心でないという、塾生や保護者のみなさんにはたいへん失礼なことをしていました。それは、土日を除く週５日間の授業日のうち、３日間は私が受け持ち、２日間をアルバイトの時間講師に任せたことです。ときおり報告を聞くだけで、授業の監督もほとんどしませんでした。私にとっては、自分の受験勉強が本業で塾の経営は副業という意識でいたものですから、そのような無責任な態度をとってしまったのでした。もう一つ、時間講師時代の私の雇い主が私にしていたのと同じ対応を、私が雇った時間講師にしていたということができます。インプリンティングという言葉がありますが、最初に受けた教育の怖さを思い知らされます。

数年後、家主の都合で借りていた教室を明け渡して、よそへ移転しなければならない事態が生じました。教室の移転を機に法曹への夢は断念して、塾経営に専念することにしました。こうして塾が私の生業になりました。　受験勉強がなければ塾のために割ける時間は十分に取れます。時間講師に授業を任せることはせず、アルバイトは私の助手として使用するだけにしました。教科による例外はありますが、現在では原則ティームティーチングです。教室の収容能力は２０人ですが、この人数では経営上の効率はよくても、学習指導上の効率は落ちますので、人数の多いクラスは分割して極力少なくします。とくに数学は常に教師の目が個々の生徒に届くように心がけています。

かつては注意をしても私語をする生徒に私が切れて（切れるという言葉は当時ありませんでし

たが）退塾させた生徒もいましたが、この７～８年来、私が切れることもなくなりました。年齢のせいとも言えますが、教師業が板についてきたのかもしれません。塾をはじめた頃のある月末のこと、こちらは真剣に教えていたつもりの生徒から「今月で塾をやめます」と突然言われたときのショックを今も覚えています。その時には、やはり塾は、教育を求めるより利潤を求める存在でしかあり得ないのかと、落胆したものです。公立の小中学校では、学校やクラスや教師を選択する自由が生徒・保護者に認められないのが一般ですが、生徒・保護者に選択権のある塾教育はなんと素晴らしいものではないでしょうか。今はそう考えます。

郷土桐生出身の歴史学者羽仁五郎氏は、戦時中、特高警察の取り調べの刑事に対して、「あなたもこんなことをしていないで、正業に就きなさい」と諭したそうです。塾も生業にとどまらず、正業でありたいものです。

（群馬県桐生市・桐秀ゼミ・清水一郎）

5. 私塾人としての私

私自身は、この３７年間の塾長人生に悔いは無く、今も２つの面で充実した日々を送っている。１つは、かつての教え子が私を信頼し、多くの２世を連れて来てくれ、その子供たちと共に勉強出来る事である。５０数名の子供たち全員の授業を週に２時間ずつ受け持つと言う事は、６７才になる私には大変であるが、喜びでもある。また、昭和４１年から塾生の多少にかかわらず、３３年間一貫して続けて来ている月例の実力判定テスト、既習事項のチェックと小テストはすべて教師が作問し、独自のデータ処理をし、その成績結果は３３年間ずっと全家庭に郵送しています。

もう１つは、全国私塾連盟の役員の仕事を２５年間も続けて来られた事です。その成果として、今年は学習塾業界はじめての全国統一名簿や塾の歴史などを収録した『私塾・私学・企業　教育ネット要覧』を編集する事が出来ました。『教育ネット要覧』はB5版２９３頁で３０００部発行しました。その費用はすべて私学、企業、私塾の協賛金で賄われ、約１５００塾の仲間たち、私立学校約５００校、企業約５０社、図書館、官公庁などに無料配布出来た事は私の喜びとする所です。

（東京都調布市　調布学園　佐藤勇治）

6. 塾経営の基本→見分ける知恵を！

変えることのできないことは、それを受け入れるだけの心の冷静さを！

変えることのできることは、それを変えるだけの勇気を！

変えることのできること、できないことを見分ける知恵を！

これがトーゼミの経営方針というか、経営者の会社運営上の心情です。社員が生計をたてられること――これがすべてである。

これが「不易」。これを実現するために、時々の教育行政に応じてカスタマーのニーズに答える。これが「流行」。

「教科書」を教えて内申点を稼ぐように指導もするし、入試問題から逆算して実力養成を最重要とする時もあるし、小学生に英語を教えることをもする。要するに何でもありである。商品構成も教師層も毎年 refresh したいところ。人間としての品性を守れるならば、金科玉条などなしである。

何かひとつを獲得することは、同時に別のなにかをあきらめることになる。だから、トーゼミは何でもする。自分の教育哲学を売って、それを塾生なり保護者が買ってくれて、各自が稼いでいるわけではない。

dog year の時代だから朝令暮改などあたりまえ。だから、トーゼミは今日も躍進する。リストラ社員を踏み付けることもあれば、すばらしい筈の「暮四」を断念して、とりあえずの「朝三」を求めることもありだ。

（埼玉県川越市・トーゼミ・守屋　貴嘉）

編　集　後　記

一週間に３回の研修会も立て続けにあった１５年前のJKK。連日にわたりがむしゃらに教育論議を交わしたことは、今となっては信じがたいことです。そんな中で、１５年前の「塾教育リポート」「タイプ別による塾教育紹介」１０２タイプは誕生しました。学習塾といえば、補習塾か進学塾かという十把一からげのマスコミや文部省等の学習塾観を覆すよう、学習塾の多様な存在を世に明らかにしました。そして、この「塾教育リポート」による臨教審への提言は、臨教審の答申に引用される等、学習塾観の見直しに一定の貢献をしたのではないかと考えております。

さて、２年ほど前に提案された、新「塾教育リポート」の刊行は、当初は、その意義付けからして蒸気機関車のごとくのっそりとスタートし２００１年の刊行さえ危ぶまれました。しかし、この夏休みを挟んで、皆倉代表を中心とした編集委員の精力的な提案が、会員は勿論、旧会員や友好団体の皆様のご理解を頂き55名、103件の寄稿を頂くことが出来ました。

さて、今回の原稿の内容は、１５年を経て寄稿された皆様の「熟成」と「挑戦」を感じさせる軌跡であり、また、新たな寄稿者を迎え２１世紀の民間教育を俯瞰させる内容を感じさせる刊行となったのではないかと考えています。

今回の新「塾教育リポート」においては、資格取得や生涯学習支援など塾教育実践事例の多様性は、ますます拡大しました。また、精神的にも学力的にも疲弊している子供たちを学力面において、また、多様な居場所機能の提供とその発展の中で精神面でも、子どもたちを支え育んでいる学習塾の姿が浮かび上がってきました。疲弊する子どもたちを支え育むということに於いては、学校も学習塾も差異はないことが痛感され、将来のミニスクールをうかがわせるものとなっています。

今まさに、ニューヨークへのテロにより地獄の釜の蓋は開こうとしております。毎日のニュースを見ながら、この地球の生み出す恵みを人種や宗教による隔てなく享受出来るような、世界作りに向かって教育というものを方向付けなければならないと思う日々です。そこに焦点を当てながら、メンバーの稲垣里志氏の今回の寄稿にありますように、地獄の釜の蓋が開こうが閉まろうが、われわれは、子供をサポートし、励まし、教え、叱ることを愚直にやっていきたいものです。

最後になりましたが、本リポートの刊行の意義をご理解いただき原稿をお寄せ下さった先生方にまた、連日にわたり入力に時間を割いて下さいました、吉田明生さん（京葉学舎）、李霊さん（朝日学習館）に心より感謝を申し上げますとともに、一層の塾教育の発展のために本リポートに対するご意見ご批判を広くお待ちいたしております。

２００１年１０月８日

「塾教育リポート」編集委員長　梶原賢治

「塾教育リポート」（2001年版）寄稿者名簿及び索引

	氏　　名	上段　塾名　　下段　執筆箇所	地　　域
	杉山　　央	成央学院 (2)-2/(4)-1/(6)-7A/(11)-8	千葉県船橋市薬円台
	永嶋　満雄	ＮＡＣ進学館 (5)-6	千葉県船橋市習志野台
	沼田　広慶	北辰館スクール (5)-4/(7)-24	千葉県松戸市稔台
	安達　征勝	ＨＶＳ綜合研究会 (5)-6	千葉県市川市東菅野
	谷村　志厚	ＡＩＭ学習セミナー (4)-4/(8)-3H	千葉県松戸市稔台
	金坂　嘉一	Meric好学舎 (3)-3	千葉県茂原市中の島町
	柳田　晋次	日米文化学院 (6)-1	千葉県八千代市勝田台
	平栗　祥克	学伸館 (1)-9/(4)-1/(5)-7/(5)-11/(6)-1	千葉県船橋市二和東
	小山　哲司	頌栄学院 (7)-15	茨城県那珂郡那珂町菅谷
	嶋田　義一	伸葉スクール (5)-6/(2)-2	東京都板橋区本町
	本田　哲也	ToBe学習援助室 (1)-1/(1)-4ア/(1)-10/(7)-1A/(8)-2A/(11)-7	東京都目黒区鷹番
	小林　和光	看護進学会 (6)-7E/(7)-18/(8)-3I	千葉県柏市柏
	中井　浩一	鶏鳴学園 (4)-1/(6)-2D/(7)-20/(10)-2	東京都文京区
	杉田　秀夫	個別指導普及協会 (2)-2	埼玉県春日部市粕壁東
	松浦　重雅	教進セミナー (5)-3	千葉県千葉市美浜区磯辺
	佐藤　勇治	調布学園 (3)-2/(12)-5	東京都調布市国領町
	玉城　邦夫	修学舎 (4)-4	千葉県習志野市東習志野
	山口　恭弘	山口塾 (6)-3	広島県広島市佐伯区海老園

	守屋　貴嘉	トーゼミ (12)-6	埼玉県川越市鯨井新田
	米澤　幸三	米澤塾 (1)-12/(5)-6	千葉県市原市ちはら台
	二瓶　浩實	開進学園 (11)-9/(1)-12	千葉県千葉市花見川区幕張本郷
	古井　敏明	日本国際学園 (1)-3	千葉県柏市あけぼの
	竹内　延彦	NPO法人　21世紀教育研究所 (10)-7	東京都渋谷区千駄ヶ谷
	林　政夫	青藍学院 (5)-6/(7)-25	杉並区永福町
	時吉　等	ＳＳジュニアフォ-ラム (5)-11	群馬県高崎市昭和町
	田中　宏道	日能進学教室 (1)-8/(8)-2B	千葉県鎌ヶ谷市道野辺本町
	藤原　信	藤原学園実験教育研究所 (5)-5/(6)-2C	大阪市東成区大今里南
	百目鬼　晋	志学塾 (1)-11	茨城県下館市旭町
	松本　紀行	チャレンジ学院 (6)-5B	長野県諏訪郡下諏訪町御田町
	久保田邦義	ペス教育共同体 (7)-13	京都府京都市左京区松ケ崎壱町田町
	西田　博之	栄城ゼミ (12)-3	佐賀県鳥栖市本町
	夘埜　良一	学増研 (8)-2A	神奈川県秦野市寿町
	山本チヨエ	善性館 (1)-5	愛知県岡崎市井田町字鎌研
	清水　一郎	進学教室桐秀ゼミ (12)-4	群馬県桐生市東
	岡田　保雄	志学舎 (1)-10	東京都西東京市富士見町
	幸路　秀人	集英塾 (1)-12/(2)-1/(3)-2/(4)-10/(5)-5/(6)-1/(8)-3G/(10)-1	世田谷区奥沢
	池田　英雄	鵠沼英数研究会 (5)-6	神奈川県藤沢市鵠沼
◎	布浦　万代	ひびき (6)-2E	茨城県つくば市稲岡

○	松原　秀典	杏村塾 (6)-5D /(12)-1	東京都大田区池上
○	森本　仁夫	竜ヶ崎英数セミナ- (5)-12	茨城県竜ヶ崎市米町
◎	梶原　賢治	朝日学習館 (5)-13/(11)-7	埼玉県川口市末広
◎	糸久　邦子	倫学舎 (1)-2/(2)-7/(2)-8	神奈川県川崎市川崎区田町
◎	中村　惇夫	金沢ゼミナ-ル (6)-7A/(8)-2C/(11)-7	神奈川県逗子市逗子
○	青沼　　隆	伸栄学習会 (2)-10	千葉県浦安市猫実
◎	小田　　清	ＳＳセミナ- (5)-6	栃木県日光市相生町
○	稲垣　里志	四樹学院 (12)-2	埼玉県所沢市日吉町
◎	皆倉　宣之	京葉学舎 (1)-12/(4)-4/(5)-4/(7)-3/(7)-4/(8)-1B	千葉市花見川区南花園
◎	青木　司郎	東静塾 (2)-5/(3)-3/(9)-2	静岡県駿東郡清水町伏見
◎	仲野十和田	仲野塾 (6)-8/(7)-3	東京都板橋区仲宿
◎	吉田　　久	吉田塾 (4)-1/(5)-2	静岡県裾野市佐野
◎	江川　文英	逗子アナザ-スク-ル (2)-2/(3)-1	神奈川県逗子市沼間
○	平井　雷太	セルフラ-ニング研究所 (1)-10/(7)-5	東京都文京区本駒込
◎	宮本　政宏	童学広場 (1)-3	千葉県山武郡山武町埴谷
◎	野木　史朗	向学会 (2)-2/(8)-2B	静岡県沼津市大岡
○	高橋　健吾	広島EM塾 (5)-2/(5)-4/(10)-1	広島市安佐南区高取北

◎編集委員　　○会員

本書へのご意見お問い合わせは、塾教育研究会(JKK)事務局までご連絡ください。

塾教育リポート 2001年版

2001年（平成13年）10月8日　初版発行

編　集　塾教育研究会（JKK）「塾教育リポート」編集委員会

編集委員長　梶原 賢治

発行者　塾教育研究会（JKK）

代表　皆倉 宣之

塾教育研究会事務局

〒411-0907

静岡県駿東郡清水町伏見２６－３（東静塾内）

青木 司郎

Tel: 0559-75-8181 Fax: 0559-72-8699

E-mail:tosei@cs.puon.net

印刷所　大和印刷株式会社

〒411-1102

静岡県裾野市深良 3642-12

Tel:0559-65-4100　Fax:0559-65-4300

無断転載を禁じます。本リポートに関する質問や疑問点等がありましたら、遠慮なく本会へお問い合わせください。

定価：1部　１０００円

塾教育リポート 2001 年版　　定価　1000 円
タイプ別・事例別による塾紹介「103 の事例」----------「塾教育研究会」(JKK)